

理学療法学科 シラバスで使用する略語集

略 語	正式名称	説 明
GW	グループワーク	少人数に分かれて討議などの学習活動を行い、参加者間の経験を共有し、課題解決を目指す
FW	フィールドワーク	対象の現地を訪れて直接観察やインタビューを行うこと
OSCE	Objective Structured Clinical Examination	臨床的技能や態度を評価する客観的臨床能力試験のこと 実習前後や卒業前に行われることが多い

文学		講師:村瀬 木綿子
単位数:2単位	時間数:30時間	授業学年:1学年
必修選択:必修		

■科目目標

江戸時代の怪異小説集『雨月物語』を題材に、物語内容や表現の深層に潜む意味を理解し、次代をこえた文学作品の魅力を学んでいく。
さらに、こうした学習を通して、文学作品という素材をもとに、ものの見方や考え方を身につけていく。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	ガイダンス。江戸時代について理解できる。	講義	受講上の注意を確認し、テキストとノートを用意する。
2	作者と作品について理解できる。	講義	作品のあらすじをまとめ、作品の整理をする。
3	「白峯」の登場人物の特徴が理解できる。	講義	テキスト24ページまで読む。
4	「白峯」の物語構造が理解できる。	講義	テキスト30ページまで読む。
5	「白峯」の怪異性が理解できる。	講義	全体としてわからないところがないか確認する。
6	「浅茅が宿」の登場人物典拠作品について理解できる。	講義	テキスト56ページまで読む。
7	「浅茅が宿」の若の役割が理解できる。	講義	テキスト68ページまで読む。
8	「浅茅が宿」と典拠作品、古伝承との関係について理解できる。	講義	全体としてわからないところがないか確認する。
9	「夢応の鯉魚」について、典拠作品との比較ができる。	講義	テキストを通読する。
10	「夢応の鯉魚」の物語構造が理解できる。	講義	全体としてわからないところがないか確認する。
11	「吉備津の釜」の物語設定や主人公の名前のもつ意味が理解できる。	講義	テキストを通読する。
12	「吉備津の釜」と典拠作品との違いや、その怪異性が理解できる。	講義	全体としてわからないところがないか確認する。
13	「青頭巾」の物語設定や主人公の特徴が理解できる。	講義	テキストを通読する。
14	「青頭巾」の怪異性について理解できる。	講義	全体としてわからないところがないか確認する。
15	最終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

私語は絶対にしない。
授業では毎回テキストを使用するので指定されたテキストを必ず持ってくる。

■成績評価の方法

終講試験100%

■テキスト参考書など

『雨月物語』上田秋成著(鵜月洋 訳注)(角川ソフィア文庫)

■備考

- ・作品を読み進めるときにページを指示するので、必ず指定されたテキストを購入すること。
- ・資料は適宜配布する。

■実務経験

倫理学		講師: 上山 敬輔
単位数: 2単位	時間数: 30時間	授業学年: 1 学年
必修選択: 必修		

■科目目標

理学療法士協会、作業療法士協会、診療放射線技師会、言語聴覚士協会が、それぞれ定める「倫理綱領」は「人びとを普遍的に尊重すること」をもれなく求めています。具体的には、「医療を求める人びと（患者）の尊厳を守ること、対等な人格として敬い、誠実に対応し、虚偽を排し、プライバシーを守ること」や、「個人の人權を尊重し、思想、信条、社会的地位等によって個人を差別することをしない」などを求めています。この講義を受ける多くの方は、このような綱領に従うことを医療従事者として、あるいは人間として当然であると直観的に思うかもしれません。しかし本講義は、なぜ人間がそのような直観を持ち得るのかも考えながら、そのような直観を超えて、なぜ尊重すべきなのかを、諸哲学者の主張、あるいは人間の能力、歴史を踏まえて、受講者が深く理解し、「人間は普遍的に他者を尊重すべき存在である」という確信を得られることを目指します。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	哲学とは何か、哲学が求められてきた理由を理解できる。	講義	レポートの提出
2	倫理学とは何か、倫理学が求められてきた理由を理解できる。	講義	レポートの提出
3	科学が誕生したことによるメリットとデメリットを理解できる。	講義	レポートの提出
4	倫理学と現在の私たちとのつながりを理解できる。	講義	レポートの提出
5	メタ倫理学と実質的倫理学について理解できる。	講義	レポートの提出
6	倫理的主観主義の問題点を理解できる。	講義	レポートの提出
7	伝統や習慣にただ従うことの問題点を人間の性質から理解できる。	講義	レポートの提出
8	自己利益をただ求めることが自然だとする考えの誤りを理解できる。	講義	レポートの提出
9	真に自由な話し合いを行うことの意義を理解できる。	講義	レポートの提出
10	自己利益をただ追及すべきとする考えと他者を尊重すべきとする考えとの根本的な不整合を理解できる。	講義	レポートの提出
11	他者を尊重すべき理由を人間の歴史、能力を踏まえながら理解できる。	講義	レポートの提出
12	功利主義を理解できる。	講義	レポートの提出
13	自由至上主義を理解できる。	講義	レポートの提出
14	J. ロールズの正義論を理解できる。	講義	レポートの提出
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

私語はしないこと。
授業中に書くレポートを毎回提出すること。ノートをしっかり取ること。

■成績評価の方法

授業中のレポート(25%)、終講試験(75%)により総合的に評価します。

■テキスト参考書など

テキストは使用ませんが、参考書として以下のものをあげておきます。
リチャード・ノーマン『道徳の哲学者たち』ナカニシヤ出版

■備考

資料プリントは授業時に適宜配布します。

■実務経験

心理学

講師:永富 大輔

単位数:2単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

本講義は心理学の基礎的な領域の知識と理論について講義する。

心理学の基礎(脳と心, 知覚, 学習, 記憶, 動機づけなど), 発達心理学, 心理検査, 臨床心理学, 社会心理学を通して心理学の概要について理解できることを目指す。受講者のみなさんが、心理学について親しみ、かつその概要について理解し、自らの日常行動についての理解を深め、自分を含めた対人社会環境への適応に役立てるようになることを授業の目標とする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	「心理学とは何か」心理学の定義と研究方法および心理学の歴史を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
2	「脳と心」脳の仕組み(神経系, 脳の構造と働き)と脳と心の関係(神経心理学)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
3	「感覚と知覚」感覚と知覚の特徴(閾値, 錯視, 恒常性, トップダウン処理など)を理解できる	講義	ミニレポートの提出
4	「学習と記憶」学習の仕組み(オペラント条件付け, レスポンデント条件付け, 観察学習など)と記憶の働き(ワーキングメモリー, 忘却, 効果的な記憶法など)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
5	「感情と動機づけ」感情(情動, 感情の理論)と動機づけ(生理的動機, 内発的動機, 社会的動機, 動機づけの理論など)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
6	「発達1 乳幼児期の発達と発達理論」乳幼児期の発達の姿と発達理論(ピアジェの発達理論, 心の理論など)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
7	「発達2 青年期と老年期」青年期の心理的特徴(自我同一性の確立など)と老年期の心理的特徴(加齢と知能, 認知症など)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
8	「心理検査」代表的な個人差要因を測定する知能検査(知能指数, ビネーの知能検査, ウェクスラーの知能検査)とパーソナリティ検査(質問紙法, 作業検査法, 投影法)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
9	「ストレスと健康」ストレスと健康の関係(ストレス因, ストレス反応, バーンアウト, 心理学的ストレスモデル, コーピングなど)を理解できる	講義	ミニレポートの提出
10	「心理療法1 精神分析療法」心理療法の歩みと精神分析療法(フロイト, 自由連想法, イド, 自我, 超自我など)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
11	「心理療法2 認知行動療法とパーソンセンタード療法」認知行動療法(行動療法, 認知療法)とパーソンセンタード療法(ロジャーズ, エンカウンターグループなど)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
12	「社会的認知」社会的認知の特徴(スキーマ, ステレオタイプ, ヒューリスティック, プライミングなど)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
13	「集団行動の心理学」集団行動の特徴(社会的促進, 社会的手抜き)とリーダーシップ理論(リーダーシップPM理論, サーバント・リーダーシップなど)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
14	「群衆行動の心理学」群衆行動の特徴(ルボンの群衆心理, モブ, パニック)と群衆の理論(感染説, 収れん説, 没個性化説など)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

ミニレポートは、講義の終わりに示したテーマについて200字以内で書いてもらいます。

■成績評価の方法

ミニレポート(14回)28点+終講試験72点=100点

■テキスト参考書など

テキストは指定しません。配布資料をもとに講義します。

■備考

質問等がある場合は、trkokubo@gmail.comにメールしてください。

■実務経験

社会学		講師: 佐野 正彦
単位数: 2単位	時間数: 30時間	授業学年: 1学年
必修選択: 必修		

■科目目標

社会と人間の相互反映的關係性を理解する。つまり、人間は社会に生み落とされ、他者とともに生きることによって社会的存在になり得ると同時に、社会は人間によって構成されていくことを理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	授業の進め方について、社会学の対象の複雑性を理解する	講義質疑・応答	配布プリントに注目してください。次回以降に行う授業内容をテキストに基づいて指示しますので、予習しテキストの予習を行うこと。野生児とはどのような存在なのかを理解する。
2	社会学というディシプリン(学科)の特徴を理解する	講義	
3	社会的存在としての人間	講義質疑・応答	テキストの予習を行うこと。人間と動物の違いを考えよう。
4	本能と文化(1)ー人間中心主義的人間規定	講義	テキストの予習を行うこと。人間は優越しており、動物は劣等だろうか。
5	本能と文化(2)ー欠陥生物としての人間	講義小テスト	テキストの復習を行うこと。社会と人間の間を関係理解する。
6	文化の拘束性とエスノセントリズム(自民族中心主義)	講義	テキストの予習を行うこと。
7	制度とは何か	講義	テキストの予習を行うこと。ホッブズの「万人の万人に対する闘争」と〈現代〉に連なる〈近代〉という時代性を
8	制度と社会秩序	講義質疑・応答	テキストの予習を行うこと。私たちの社会にはなぜ秩序が成立しうるのかを考える。
9	制度の諸特徴	講義質疑・応答	テキストの予習を行うこと。制度のもつ強制力・道徳的権威・外在性・客観性などの諸特徴を理解する。
10	制度とサンクション(制裁と賞賛)	講義小テスト	テキストの復習を行うこと。サンクションの働きとその両義性を理解する。
11	社会化(1)ーメンバーシップを獲得すること	講義	テキストの予習を行うこと。社会化(socialization)という概念を理解する。
12	社会化(2)ー文化的世界としての社会	講義質疑・応答	テキストの予習を行うこと。socializationとはenculturation(文化を獲得すること)でもあることを理解
13	社会化(3)ー他者という「鏡」と自我の形成	講義質疑・応答	テキストの予習を行うこと。クーリーの「鏡のなかの自己」とミードの「役割取得」の考え方を理解する。
14	近代家族と現代家族	講義	テキストの予習を行うこと。
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

継続的に私語をすることはやめて欲しいと思います。事前事後の予習と復習に努めて欲しいと思います。

■成績評価の方法

終講試験により評価する。

■テキスト参考書など

テキスト: 張江洋直ほか『リアリティの社会学』八千代出版参考書などは授業の中で指示します。

■備考

質問のある方は授業中に直接尋ねてもかまいませんし、授業の初めに指示するメール・アドレスを用いて尋ねてもらってもかまいません。

■実務経験

物理学		講師: 三仲 啓
単位数: 2単位	時間数: 30時間	授業学年: 1学年
必修選択: 必修		

■科目目標

1. 理学療法士や作業療法士として必要な物理学に関する知識を修得する。
2. 科学的・論理的な思考法を身につける。
3. 人体の骨や筋肉に働く力を理解し、日常の動作の効率を上げたり怪我を予防したりできる。
4. 物理学関係の国家試験問題が解けるようになる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	力の表示法, 作用・反作用の法則, 押す力と引く力, 重さと質量の違いなどが理解できる。	講義・演習	小テストを行う
2	力の合成と分解, 摩擦力の働き方が理解できる。	講義・演習	小テストを行う
3	トルク, 平行な力の合成, 道具のてこ, 人体のてこが理解できる。	講義・演習	小テストを行う
4	重心, 倒れにくさ(安定性), ボディメカニクスが理解できる。	講義・演習	小テストを行う
5	斜面で働く力, 車椅子に働く力, リクライニング位の意味が理解できる。	講義・演習	小テストを行う
6	トルク, 重心, 斜面に関する例題(国家試験問題を含む)を通して理解を深める。	講義・演習	小テストを行う
7	圧力の定義, 血圧の測定原理・性質が理解できる。	講義・演習	小テストを行う
8	浮力, サイフオンの原理が理解できる。例題を通して理解を深める。	講義・演習	小テストを行う
9	定圧装置と吸引の原理が理解できる。例題を通して理解を深める。	講義・演習	小テストを行う
10	速度, 加速度の定義と運動の法則が理解できる。	講義・演習	小テストを行う
11	力と運動量, トルクと角運動量の関係が理解できる。 力やトルクがする仕事と運動エネルギーの関係が理解できる。	講義・演習	小テストを行う
12	力学的エネルギーの保存則と一般のエネルギー保存則が理解できる。 仕事やエネルギーに関する例題(国家試験問題を含む)を通して理解を深める。	講義・演習	小テストを行う
13	熱と温度の定義, 熱の伝わり方	講義・演習	小テストを行う
14	波動に関する基本量, 音と聴覚, 光と視覚に関する基本事項が理解できる。	講義・演習	小テストを行う
15	終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

授業はパワーポイントと印刷教材を使って行うので、授業開始前に印刷教材と小テストを配布しておく。小テストは評価の対象ではない。

■成績評価の方法

原則として筆記試験のみで評価する。

■テキスト参考書など

「PT・OTゼロからの物理学」望月久, 棚橋信雄編(羊土社)

■備考

■実務経験

法学		講師: 日野 一成
単位数: 2単位	時間数: 30時間	授業学年: 1学年
必修選択: 必修		

■科目目標

法学の学習というと、法律の条文を覚えるという風に考えがちですが、法律は具体的な事件を解決するための道具ということができます。皆さんは法律の専門生ではありませんが、各専門分野では必ず法律が関係してきます。したがって、法律を学ぶことで、逆に世の中のことや自らの専門領域がより理解できるようになります。本講義は、法律を初めて学ぶ人向けに法律の基礎を重視した講義を行う予定です。法律の基礎がわかっているれば、身近で起こった新しい法律問題にも自ら考え、理解できるようになってきます。法律の基礎には、法律用語の意味や考え方、具体的事例などいろいろありますが、特に重要なことは、法律の全体像を体系的に理解することです。本講義では、その習得を目標とします。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	ガイダンス・法を学ぶことの意義	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
2	法とは何か	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
3	法と規範	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
4	法規範の特質と機能	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
5	日本における法の歴史と法意識	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
6	法の使いかた学び方	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
7	最高法規としての憲法と法の段階的構造	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
8	2つの基本原則	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
9	憲法はなぜ必要なのか	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
10	法と正義	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
11	法的安定性	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
12	法の体系、法の種類	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
13	法の目的と価値基準・法の解釈と基準	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
14	日本の裁判制度と判例	講義	関連するテキストの章に事前に目を通しておくこと。
15	まとめ・テスト	筆記試験	

■受講上の注意

評価は、期末試験・出席状況で行います。授業から20分すぎた遅刻は欠席扱いとします。その他については開講時のガイダンスに説明します。上記の授業計画の内容や順番については、受講者の興味や理解度に応じて適宜変更する場合があります。

■成績評価の方法

出席状況と期末試験により評価します。

■テキスト参考書など

伊藤真『伊藤真の法学入門』日本評論社(2022年)

■備考

■実務経験

情報科学		講師:永原 和志
単位数:1単位	時間数:30時間	授業学年:1学年
必修選択:必修		

■科目目標

理学療法士としてのみならず、社会生活を送るうえで必要な「情報」に関する知識を教授します。
「情報科学的理解」:情報科学およびコンピューターなどシステムの原理について基本概念を学びます。
「情報利用・活用の実践」:情報リテラシーの道具としての情報機器やシステムを利用する方法を学びます。
「情報化社会に参画する態度」:情報技術が我々の生活や社会に与える影響を扱う際のモラル・倫理について学びます。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	「情報の科学的理解」	講義	
2	「仕事」のすすめ方	講義	
3	「情報利用・活用の実践」コンピューターの仕組みと操作	講義	
4	コンピューターによる情報の収集および交換	講義	
5	コンピューターによる文章作成	講義	
6	コンピューターによる集計	講義	
7	コンピューターを利用したプレゼンテーション	講義	
8	夏休み課題へのオリエンテーション	講義	
9	文献検索・収集・利用の方法 統計処理の基礎(1)	講義	
10	統計処理の基礎(2)	講義	
11	「情報化社会に参画する態度」 情報化社会について理解	講義	
12	情報モラル・情報発信の責任についての理解	講義	
13	個人情報保護法について情報社会への積極的な参加と貢献する態度	講義	
14	情報社会への積極的な参加と貢献する態度	講義	
15	試験・解説	講義	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

30時間でマスター Office 2021 Windows11対応:実教出版企画開発部

■備考

■実務経験

日常英語

講師:後藤 育子

単位数:2単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

読む、聞く、書く、話すの言語の4技能を統合的に活用しながら英語の基礎を学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	授業のねらい	講義	課題レポートの提出
2	Unit 1 Welcome to the “Big Apple” 現在形 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
3	Unit 2 What’s the Boss Like? 代名詞 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
4	Unit 3 Masa’s First Day on the Job 前置詞 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
5	Unit 4 Summer Fun 過去形 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
6	Unit 5 Hotel Guest Satisfaction 可算名詞・不可算名詞 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
7	Unit 6 Brainstorming 進行形 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
8	Unit 7 Glad to Be of Service WH疑問文 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
9	Unit 9 Vacation Spots 未来形 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
10	Unit 10 Sports Talk 比較級・最上級 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
11	Unit 11 Tour Day 助動詞 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
12	Unit 13 Office Meeting 関係詞 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
13	Unit 15 Farewell, Masa and Lucy 接続詞 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
14	まとめと振り返り	講義	課題レポートの提出
15	期末試験およびまとめ	筆記試験	これまでに習得した学習内容を、的確に復元できるよう努力する

■受講上の注意

私語はしないこと。事前準備、講義の予習をしてくること。忘れ物のないようにし、主体的に講義に臨むこと。

■成績評価の方法

定期試験70%、平常点30%(出席状況、授業態度、課題)

■テキスト参考書など

English Missions! Basic ミッション型 大学英語の総合演習:基礎編

■備考

準備物品:①教科書、②ノート、③辞書(冊子、電子どちらでも可。ただし、スマートフォンの辞書機能は不可)

■実務経験

保健体育		講師:寺前 重幸
単位数:1単位	時間数:30時間	授業学年:1学年
必修選択:必修		

■科目目標

バレーボール及びバスケットボールの基本的な動きを身につける。さらに、スポーツを通じて、コミュニケーション能力の向上やストレスの軽減を図り、日常生活の中で、運動をする習慣を身につける。また、健康について考え理解し、健康的な生活を送れるようになる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	科目目標をしっかり理解し、バレーボール及びバスケットボールのルールをしっかり理解できる。	講義・実技	教室でガイダンスを行い、体育館へ移動するので、体育ができる服装に着替えてから、教室で待機する。
2	パス及びサーブができる。(バレーボール)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
3	ゲームで一連の動きができる。(バレーボール)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
4	パス・ドリブル及びシュートができる。(バスケットボール)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
5	ゲームで一連の動きができる。(バスケットボール)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
6	自分たちで競技を選び実施できる。(選択競技)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
7	自分たちで競技を選び実施できる。(選択競技)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
8	自分たちで競技を選び実施できる。(選択競技)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
9	健康の成り立ち・すがたについて理解できる。	講義	事前にプリントを配布するので、講義までに読んでおく。
10	生活習慣病及び食育について理解できる。	講義	事前にプリントを配布するので、講義までに読んでおく。
11	運動、休養及び喫煙と健康への影響について理解できる。	講義	事前にプリントを配布するので、講義までに読んでおく。
12	飲酒及び薬物乱用の健康への影響について理解できる。	講義	事前にプリントを配布するので、講義までに読んでおく。
13	感染症と応急手当について理解できる。	講義	事前にプリントを配布するので、講義までに読んでおく。
14	心の健康について理解できる。	講義	事前にプリントを配布するので、講義までに読んでおく。
15	授業の総括と終講試験	講義筆記試験	

■受講上の注意

運動できる服装及び体育館用運動シューズを用意すること。
忘れ物の無いようにし、規範意識を持ち、積極的に講義に臨むこと。

■成績評価の方法

平常点(30%)、実技点(30%)、試験(40%)により、総合的に評価する。

■テキスト参考書など

必要な場合は、適宜プリントを配布する。

■備考

■実務経験

解剖学 I		講師:上川 善昭
単位数:1単位	時間数:30時間	授業学年:1学年
必修選択:必修		

■科目目標

解剖学はものの形を究める形態学の一分野である。まず人体を構成する諸要素について肉眼解剖学的にこれを把握するようにし、その中の主要なものについては、さらに顕微鏡レベルでの理解も出来るように努める。これら、形態的な理解の上に、それぞれの人体の構成要素がどのような機能を営んでいるかを理解できるようにする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	医学の歴史と解剖学について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
2	解剖学について、解剖学の用語について、細胞について、細胞小器官について理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
3	上皮組織を知る	講義	講義資料、教科書を熟読すること
4	上皮組織、結合支持組織を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
5	結合支持組織を知る	講義	講義資料、教科書を熟読すること
6	結合支持組織を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
7	筋組織を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
8	神経組織を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
9	循環器系1を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
10	循環器系2を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
11	消化器系1を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
12	消化器系2を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
13	消化器系3を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
14	呼吸器系を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
15	試験 解説	講義	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

廣川書店:PT・OT・STのための解剖学

■備考

■実務経験

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である。

解剖学Ⅱ		講師:上川 善昭
単位数:1単位	時間数:30時間	授業学年:1学年
必修選択:必修		

■科目目標

解剖学はものの形を究める形態学の一分野である。まず、人体を構成する諸要素について肉眼解剖学的にこれを把握するようにし、その中の主要なものについては、さらに顕微鏡レベルでの理解もできるように努める。これら、形態的な理解の上に、それぞれの人体の構成要素がどのような機能を営んでいるかを理解できるようにする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	泌尿器系を理解する。	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
2	泌尿器系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
3	男性生殖器系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
4	女性生殖器系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
5	女性生殖器系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
6	内分泌系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
7	内分泌系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
8	内分泌系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
9	中枢神経系と末梢神経系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
10	中枢神経系と末梢神経系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
11	中枢神経系と末梢神経系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
12	中枢神経系と末梢神経系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
13	感覚器系①を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
14	感覚器系②を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
15	試験・解説	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

廣川書店:PT・OT・STのための解剖学

■備考

■実務経験

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である。

解剖学Ⅲ

講師: 津山 新一郎

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

ヒトの身体の解剖学的・全体的理解は解剖学一般の講義で出来ているので、その中でもPT、OTのセラピストとしてなじみの深い部分(特に上下肢)を更に深く理解するため、神経系との関係に力点を置き、それを支える脈管系についても学習をする。運動を支える関節構造の理解と各関節運動に関わる骨格、筋、支配神経を、個々に骨格系、筋系、神経系として理解するのではなく、人体の運動という視点から骨格、関節構造、筋運動、支配神経、灌流血管等を総合的に把握・理解する目的とする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	【第1回】 骨格・筋系、関節学概論。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
2	【第2回】 肩関節: 軸骨格と肩の骨格・筋・靱帯・神経・血管	講義	講義資料、教科書を熟読すること
3	【第3回】 肘関節: ①骨格・靱帯・血管	講義	講義資料、教科書を熟読すること
4	【第4回】 肘関節: ②筋・神経・関節運動	講義	講義資料、教科書を熟読すること
5	【第5回】 前腕部: 前面の筋・神経	講義	講義資料、教科書を熟読すること
6	【第6回】 前腕部: 後面の筋・神経	講義	講義資料、教科書を熟読すること
7	【第7回】 手・手根中手関節: 骨格・靱帯・血管	講義	講義資料、教科書を熟読すること
8	【第8回】 手: 手掌・手背の筋・神経	講義	講義資料、教科書を熟読すること
9	【第9回】 股関節: 骨格・靱帯・血管	講義	講義資料、教科書を熟読すること
10	【第10回】 股関節: 筋・神経①、②、大腿の筋・神経	講義	講義資料、教科書を熟読すること
11	【第11回】 膝関節: 骨格・靱帯・血管①	講義	講義資料、教科書を熟読すること
12	【第12回】 膝関節: 筋・血管②、足関節概要	講義	講義資料、教科書を熟読すること
13	【第13回】 足・距骨下関節: 骨格・靱帯・血管、下腿・足の筋・神経	講義	講義資料、教科書を熟読すること
14	【第14回】 上下肢の比較、総括	講義	講義資料、教科書を熟読すること
15	【第15回】 試験 解説	講義	

■受講上の注意

講義とパソコン等の資格教材および模型等の観察、スケッチ等により実体的理解を目指す。

■成績評価の方法

毎回の出席、小テスト、レポート等および終講試験を総合的に評価する。

■テキスト参考書など

廣川書店: PT・OT・STのための解剖学

講談社: カラー図解 新しい人体の教科書 上・下

■備考

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

機能解剖学 I

講師: 西田 徳和

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1 学年

必修選択: 必修

■科目目標

理学療法士が業務を行う上で、疾病に応じた機能障害や動作遂行困難の原因を追究する際、解剖学・生理学の知識に限らず、生体力学の観点や生体構造と機能の結びつきを理解するうえで運動学の知識は必須である。機能解剖学 I では、上記の項目を理解するために、生体力学の基礎として身体運動に関わる基礎を学び、骨格・関節・筋肉・神経を中心とした生体構造と機能を理解できるように学習していく。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	生体力学の基礎として必要な、身体運動の面と運動軸を理解し説明することができる。	講義	テキスト「からだが見える 人体の構造と機能」P2～7、P106～111、配布資料に目を通して授業に臨むこと。
2	生体力学の基礎として、基本肢位、関節の運動方向を理解し説明することができる。①	講義	テキスト「からだが見える 人体の構造と機能」P2～7、P106～111、配布資料に目を通して授業に臨むこと。
3	生体力学の基礎として、基本肢位、関節の運動方向を理解し説明することができる。②	講義	テキスト「からだが見える 人体の構造と機能」P2～7、P106～111、配布資料に目を通して授業に臨むこと。
4	骨の構造と機能を理解し説明することができる。	講義	テキスト「からだが見える 人体の構造と機能」P8～14、配布資料に目を通して授業に臨むこと。
5	関節、腱、靭帯の構造と機能を理解し説明することができる。	講義	テキスト「からだが見える 人体の構造と機能」P21～27、配布資料に目を通して授業に臨むこと。
6	骨格筋の微細構造、筋収縮機序の構造と機能を理解し説明することができる。①	講義	テキスト「からだが見える 人体の構造と機能」P29～35、配布資料に目を通して授業に臨むこと。
7	骨格筋の微細構造、筋収縮機序の構造と機能を理解し説明することができる。②	講義	テキスト「からだが見える 人体の構造と機能」P29～35、配布資料に目を通して授業に臨むこと。
8	横紋筋の収縮において興奮収縮連関を理解し説明することができる。	講義	テキスト「からだが見える 人体の構造と機能」P29～35、配布資料に目を通して授業に臨むこと。
9	筋線維の種類、神経筋接合部と神経筋伝達、運動単位を理解し説明することができる。	講義	テキスト「からだが見える 人体の構造と機能」P29～35、配布資料に目を通して授業に臨むこと。
10	筋収縮の様態を理解し説明することができる。①	講義	テキスト「からだが見える 人体の構造と機能」P29～35、配布資料に目を通して授業に臨むこと。
11	筋収縮の様態を理解し説明することができる。②	講義	テキスト「からだが見える 人体の構造と機能」P29～35、配布資料に目を通して授業に臨むこと。
12	神経組織(運動・感覚ニューロン)について理解し説明することができる。	講義	配布資料に目を通して授業に臨むこと。
13	末梢神経、中枢神経について理解し説明することができる。	講義	配布資料に目を通して授業に臨むこと。
14	反射運動について理解し説明することができる。	講義	配布資料に目を通して授業に臨むこと。
15	機能解剖学 I のまとめとして終講試験を受ける。	本試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験の総合評価により60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

「からだが見える 人体の構造と機能」メディックメディア、配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

機能解剖学Ⅱ

講師:横山 尚宏

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

本講義は再度解剖学、生理学に触れながら、呼吸、循環、代謝分野を機能的に理解していく。内部系(呼吸・循環・代謝)の思考過程を深めていき、2年次における病気や評価学につながるように展開していく。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	エネルギーの三大栄養素について理解する	講義	機能解剖Ⅰで学習した筋収縮を復習しておくこと
2	エネルギー代謝経路、ATPについて理解する	小テスト・講義	前回分の復習をしっかりと行ってから臨みましょう
3	運動時の呼吸様式、ATについて理解しよう	小テスト・講義・演習	前回分の復習をしっかりと行ってから臨みましょう
4	体の内臓の位置を正確に理解しよう	小テスト・講義	前回分の復習をしっかりと行ってから臨みましょう
5	全身の血管について理解しよう	小テスト・講義	前回分の復習をしっかりと行ってから臨みましょう
6	心臓の基本的な解剖・生理学を復習しよう	小テスト・講義	前回分の復習をしっかりと行ってから臨みましょう
7	身体表面から触知できる動脈を理解しよう	小テスト・講義・演習	前回分の復習をしっかりと行ってから臨みましょう
8	講義1から講義7までの範囲を中間テストにて理解度を図る	中間テスト・振り返り	講義1から講義7までをしっかりと復習してから臨みましょう
9	血圧について理解しよう	小テスト・講義	前回分の復習をしっかりと行ってから臨みましょう
10	循環の調整について理解しよう	小テスト・講義	前回分の復習をしっかりと行ってから臨みましょう
11	血圧が上昇する要因について理解しよう	小テスト・講義	前回分の復習をしっかりと行ってから臨みましょう
12	運動で血圧や心拍数がどのように上がるか確認しよう	小テスト・講義・演習	前回分の復習をしっかりと行ってから臨みましょう
13	呼吸の生理学・筋について理解しよう	小テスト・講義・演習	前回分の復習をしっかりと行ってから臨みましょう
14	肋骨の動き、病的呼吸様式について理解しよう	小テスト・講義	前回分の復習をしっかりと行ってから臨みましょう
15	最終確認テスト	確認テスト・振り返り	講義9から講義14までをしっかりと復習してから臨みましょう

■受講上の注意

■成績評価の方法

毎週実施する小テスト前半25点、後半25点を合算し、合計50点
中間テスト50点、確認テスト50点の平均点とし、合計50点

■テキスト参考書など

「生理学」医学書院

配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である

生理学 I

講師: 川島 清美

単位数: 2単位

時間数: 60時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■ 科目目標

生理学は健常な人体の働きを扱う学問である。しかし、医療従事者が臨床の場において接する患者は何らかの疾病を有している。これら種々の疾病を持つ患者の生理作用を理解するには、まず健常な人体の生理学を修得する必要がある。各臓器の正常な働きを知った上でなければ、その働きが正常でなくなった患者の生理学を理解することは出来ない。このような見地から、健常な人体の生理学を教授しながら、どの臓器がどのように障害されると、どのような症状が出現するのかといった臨床に即した病態生理学についても解説する。生理学は基礎科目に含まれるが、永年の臨床経験に基づいて臨床に役立つ生理学を講義する予定である。

■ 科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	生命現象と人体について理解する。生理学・病態生理とは何かを理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
2	人体におけるエネルギー産生、水、浸透圧、等張液などについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
3	細胞の構造と機能・受容体・チャネル、ポンプについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
4	DNA・RNA・細胞内小器官・静止電位を理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
5	末梢神経の種類、神経の分類、興奮の伝導について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
6	脳神経・脊髄神経、神経線維の分類と種類を理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
7	自律神経、交感神経、副交感神経およびシナプスの働きを理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
8	交感神経刺激症状、副交感神経刺激症状を理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
9	シナプス前抑制、シナプス後抑制について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
10	中枢神経系・脊髄と脳、灰白質と白質、脊髄の上行路と下行路を理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
11	脊髄反射・伸張反射、I b抑制について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
12	自律神経反射、脳幹、延髄、橋の機能について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
13	脳死判定、対光反射、網様体賦活系について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
14	小脳、間脳、視床下部の働きについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
15	大脳皮質、前頭葉、頭頂葉の働きについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
16	側頭葉、高次脳機能および高次脳機能障害、脳波、睡眠の分類、大脳基底核、辺縁系、脳脊髄液を理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
17	筋と骨、筋の分類、骨格筋の興奮収縮について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
18	筋電図、心筋、平滑筋、骨の構造について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
19	骨粗鬆症、感覚、weberの法則、体性感覚について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
20	内臓感覚、内臓痛覚、視覚・杆体細胞・錐体細胞、遠近調整について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること

21 眼球運動、反射、聴覚の働きについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
22 味覚、嗅覚の働きについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
23 血液の機能・赤血球の新生と破壊について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
24 黄疸、鉄の再利用、貧血、白血球、顆粒球の分類について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
25 生体防御、非特異的防御機構、特異的防御機構、血小板について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
26 血液凝固のメカニズム、線溶、血漿、電解質、心臓と循環、刺激伝導系について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
27 心電図、不整脈、心室性期外収縮、血圧について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
28 血圧測定、心周期、心音、心雑音について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
29 圧容関係、前負荷、後負荷、血圧調整、血管収縮神経について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
30 試験 解説	試験	

■受講上の注意

私語を慎むこと。予習をして授業に臨むこと。

■成績評価の方法

出席状況、日常の授業態度、筆記試験の成績等を総合的に判断して評価する。

■テキスト参考書など

標準理学療法学・作業療法学生理学第4版医学書院を使用する。さらに授業中には講義内容とスライドをまとめたプリントを配布して知識の整理を図る。

■備考

■実務経験

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である。

生理学Ⅱ

講師:川島 清美

単位数:2単位

時間数:60時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

生理学は健常な人体の働きを扱う学問である。しかし、医療従事者が臨床の場において接する患者は何らかの疾病を有している。これら種々の疾病を持つ患者の生理作用を理解するには、まず健常な人体の生理学を修得する必要がある。各臓器の正常な働きを知った上でなければ、その働きが正常でなくなった患者の生理学を理解することは出来ない。このような見地から、健常な人体の生理学を教授しながら、どの臓器がどのように障害されると、どのような症状が出現するのかといった臨床に即した病態生理学についても解説する。生理学は基礎科目に含まれるが、永年の臨床経験に基づいて臨床に役立つ生理学を講義する予定である。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	血圧調整、血管収縮神経、微小循環について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
2	静脈環流、冠循環、肺循環、リンパ流について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
3	呼吸とガス運搬、呼吸運動、換気障害について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
4	呼吸気量、ガス交換とガス運搬、呼吸調整について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
5	尿の生成と排泄、腎の構造、尿細管の機能について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
6	集合管、ADH、アルドステロン、クリアランス、eGFRについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
7	排尿蓄尿反射、排尿反射、排尿異常、尿失禁、酸塩基平衡について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
8	消化と吸収、嚥下、食道、胃の消化について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
9	胃底腺と胃液、胃における消化について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
10	十二指腸における消化、膵液、胆汁の働きについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
11	空腸・回腸における消化、大腸の役割、肝臓の役割について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
12	内分泌腺、ホルモン分類・作用の発現メカニズムについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
13	下垂体ホルモン、視床下部ホルモン、甲状腺について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
14	甲状腺ホルモン作用機能異常、副甲状腺ホルモン、ビタミンD、副腎皮質について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
15	副腎皮質、糖質コルチコイド作用、副腎皮質機能低下、副腎髄質ホルモンについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
16	インスリン、グルカゴン、糖尿病の病態生理、性腺ホルモンについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
17	代謝と体温、栄養素、物質代謝、タンパク質合成について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
18	熱の出納、産生、放散の増加、核心温、体温調整、中枢、発熱と解熱のメカニズムについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
19	生殖と発生、男性生殖機能について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
20	女性生殖機能、視床下部、下垂体と女性生殖器、受精着床、胎盤の発生について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること

21 運動生理。筋収縮のエネルギー源について理解する。	講義 講義資料、教科書を熟読すること
22 運動に伴う全身の変化について理解する。	講義 講義資料、教科書を熟読すること
23 血液循環について復習し、理解を深める。	講義 講義資料、教科書を熟読すること
24 呼吸について復習し、理解を深める。	講義 講義資料、教科書を熟読すること
25 腎機能と排泄について復習し、理解を深める。	講義 講義資料、教科書を熟読すること
26 消化と吸収について復習し、理解を深める。	講義 講義資料、教科書を熟読すること
27 内分泌(ホメオスタシス)について復習し、理解を深める。	講義 講義資料、教科書を熟読すること
28 内分泌(生殖)について復習し、理解を深める。	講義 講義資料、教科書を熟読すること
29 運動生理について復習し、理解を深める。	講義 講義資料、教科書を熟読すること
30 試験 解説	試験

■受講上の注意

私語を慎むこと。予習をして授業に臨むこと。

■成績評価の方法

出席状況、日常の授業態度、筆記試験の成績等を総合的に判断して評価する。

■テキスト参考書など

標準理学療法学・作業療法学学生理学第4版医学書院を使用する。さらに授業中には講義内容とスライドをまとめたプリントを配布して知識の整理を図る。

■備考

■実務経験

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である。

運動学 I		講師:川元 大輔
単位数:1単位	時間数:30時間	授業学年:1学年
必修選択:必修		

■科目目標

基礎運動学を学習することは、機能障害を診る理学療法士にとって臨床の場でも必要不可欠であり、生涯に渡り追及していく学問である。授業では上肢の解剖、関節運動、骨の役割、筋肉、靱帯を重視し、授業を進めていく。

- ①人体における運動器の構造と機能を理解する。
- ②特に上肢帯の構造(骨・筋・神経系・血管系)と運動について理解する。
- ③上肢の各関節運動を行う主動筋、神経支配、レベルを理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	鎖骨・上腕骨近位部、肩甲骨の骨格と解剖について理解することができる。	講義	事前に配布している資料について予習をして臨むこと。 教科書P22～25を事前に目を通して事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
2	鎖骨・上腕骨近位部、肩甲骨の骨格と解剖について理解することができる。	講義	教科書P22～25を事前に目を通して事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
3	上肢帯と肩関節の運動について理解することができる。	講義	教科書P22～25を事前に目を通して事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
4	胸鎖関節・肩鎖関節・肩甲胸郭関節(鎖骨の役割、靱帯、筋肉)について理解することができる。	講義	教科書P22～25を事前に目を通して事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
5	肩甲上腕関節(鎖骨の役割、靱帯、筋肉)について理解することができる。	講義	教科書P22～25を事前に目を通して事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
6	肩関節の機能(肩甲上腕リズム・ローテーターカフ)について理解することができる。	講義	教科書P26～28を事前に目を通して事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
7	肩関節・肘関節の筋肉(二関節筋と単関節筋の機能)、神経支配について理解することができる。	講義	講義で習う骨の名称や筋肉の場所、事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
8	肘関節構造(腕尺関節・腕橈関節・腕尺関節)の機能について理解することができる。	講義	教科書P31～36を事前に目を通して事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
9	肘関節・前腕の靱帯・骨間膜・筋肉・支配神経について理解することができる。	講義	教科書P31～36を事前に目を通して事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
10	手関節骨格と解剖について理解することができる。	講義	教科書P41～44を事前に目を通して事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
11	手関節の機能について理解することができる。	講義	教科書P41～44を事前に目を通して事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
12	手指(第1～5指)を構成する関節の骨運動、関節運動に関与する筋について理解することができる。	講義	教科書P45～47を事前に目を通して事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
13	指背腱膜・手のアーチ、腱固定作用について理解することができる。	講義	教科書P47～50を事前に目を通して事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
14	手指の変形の原因について理解することができる。	講義	教科書P51～52を事前に目を通して事前に配布している資料について予習をして臨むこと。
15	運動学 I のまとめ。	講義	運動学 I のまとめとして終講試験を受ける。

■受講上の注意

本授業では、各内容ごとに国家試験問題を課題に充てる。提出期限を設けるため、期限内に提出すること。また、内容のまとめ方については授業中に説明を行うため、順守すること。

■成績評価の方法

筆記試験の総合評価により60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

「15Lecture 運動学」中山書店、配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

運動学Ⅱ		講師:川元 大輔
単位数:1単位	時間数:30時間	授業学年:2学年
必修選択:必修		

■科目目標

基礎運動学を学習することは、機能障害を診る理学療法士にとって臨床の場でも必要不可欠であり、生涯に渡り追及していく学問である。授業では下肢の解剖、関節運動、骨の役割、筋肉、靱帯を重視し、授業を進めていく。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	下肢帯と股関節の運動について理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P246～251
2	股関節の靱帯、機能(pauwelsの法則)について理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P249～250
3	股関節の筋肉(二関節筋と単関節筋の機能)、神経支配について理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P252～256
4	股関節の筋肉(二関節筋と単関節筋の機能)、神経支配について理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P252～256
5	膝の骨格と解剖について理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P256
6	膝関節の筋肉(二関節筋と単関節筋の機能)、神経支配について理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P258～260
7	脛骨大腿関節の骨運動(終末強制回旋運動)膝蓋大腿関節(膝蓋骨の役割、Q角)について理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P258
8	膝の靱帯と半月板の機能について理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P256～258
9	膝関節の筋(二関節の筋と単関節筋の機能)について理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P259
10	足部・足趾の骨格と解剖(ショパール・リスフラン関節など)について理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P260～263
11	距腿関節と距骨下関節の運動メカニズムについて理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P260～263
12	足関節の靱帯と機能について理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P260～263
13	足関節の筋肉と支配神経について理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P263～266
14	足のアーチ、足部の変形について理解することができる。	講義	事前の配布資料を確認し授業に臨むこと。 教科書P266～271
15	運動学Ⅱのまとめ	講義	運動学Ⅱのまとめとして終講試験を実施する

■受講上の注意

本授業では、各内容ごとに国家試験問題を課題に充てる。提出期限を設けるため、期限内に提出すること。また、内容のまとめ方については授業中に説明を行うため、順守すること。

■成績評価の方法

筆記試験の総合評価により60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版、配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

運動学Ⅲ		講師: 上田 晃希
単位数: 1単位	時間数: 30時間	授業学年: 2学年
必修選択: 必修		

■科目目標

運動学Ⅲでは、基本的な運動力学や身体の解剖学的知識を整理し、脊柱・胸郭の運動に結び付けていく。また、さまざまな姿勢や歩行において身体運動がどのように行われているか理解し、動作分析や歩行分析などの応用へつなげる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	脊柱の骨格と解剖について理解することができる。	講義	講義で習う骨の名称や筋肉の場所、起始停止作用神経支配を確認しておくこと。事前に配布している資料につ
2	脊柱の骨運動について理解することができる。	講義	講義で習う骨の名称や筋肉の場所、起始停止作用神経支配を確認しておくこと。事前に配布している資料につ
3	脊柱の靭帯・椎間円板・筋肉について理解することができる。	講義	講義で習う骨の名称や筋肉の場所、起始停止作用神経支配を確認しておくこと。事前に配布している資料につ
4	胸郭と骨格の解剖について理解することができる。	講義	講義で習う骨の名称や筋肉の場所、起始停止作用神経支配を確認しておくこと。事前に配布している資料につ
5	呼吸筋について理解することができる	講義	講義で習う骨の名称や筋肉の場所、起始停止作用神経支配を確認しておくこと。事前に配布している資料につ
6	運動力学(質量と並進運動、慣性モーメントと回転運動、運動量と力積、角運動と角力積)について理解することができる。	講義	Reference book p197-199に目を通し、配布資料を使用して事前学習を行い講義に臨むこと。
7	運動力学(エネルギー、パワーと力学的仕事、力と力のモーメント、力の合成、重力と重心)について理解することができる。	講義	Reference book p199-202に目を通し、配布資料を使用して事前学習を行い講義に臨むこと。
8	姿勢の名称、立位姿勢の安定性にかかわる要因について理解することができる。	講義	事前に配布している資料を使用して予習をして臨むこと。
9	正常歩行の各関節の動きについて理解することができる。	講義	事前に配布している資料を使用して予習をして臨むこと。
10	正常歩行の各関節の動きについて理解することができる。	講義	事前に配布している資料を使用して予習をして臨むこと。
11	歩行における筋の収縮特性について理解することができる。	講義	事前に配布している資料を使用して予習をして臨むこと。
12	重心制御と床反力との関係について理解することができる。	講義	事前に配布している資料を使用して予習をして臨むこと。
13	小児、高齢者の歩行特性について理解することができる。	講義	事前に配布している資料を使用して予習をして臨むこと。
14	運動学習について理解することができる。	講義	事前に配布している資料を使用して予習をして臨むこと。
15	運動学Ⅲのまとめ	講義	運動学Ⅲのまとめとして終講試験を受ける。

■受講上の注意

理解を深めるために、学生同士で協同作業を取り入れる場合がある。積極的な討議を行うことを期待する。

■成績評価の方法

筆記試験の総合評価により60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

「15レクチャーシリーズ理学療法作業療法テキスト 運動学」中山書店、「Reference book」公益財団法人 日本スポーツ協会、配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

臨床運動学		講師:長津 秀文
単位数:1単位	時間数:30時間	授業学年:2学年
必修選択:必修		

■科目目標

運動学および機能運動学で正常運動、動作を学び、臨床運動学において正常からの逸脱、疾患の特異性などを明らかにすることが目的である。

運動異常、運動障害をどのように捉えていくかを理論と実技の両方から学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	臨床運動学とは何かを説明することができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
2	姿勢・動作を理解するための運動力学を理解することができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
3	姿勢の生体力学を理解することができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
4	動作の生体力学を理解することができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
5	姿勢と保持を理解し、高齢者の姿勢予測することができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
6	正常動作の寝返り・起き上がり動作を力学的変化を理解することができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
7	正常な立ち上がり動作の力学的変化と複雑さを述べるすることができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
8	正常な歩行を復習し、制御システムや力学的変化を知り、ケイデンスや歩幅を評価することができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
9	脳血管傷害の姿勢・動作・歩行を理解し、問題点を挙挙することができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
10	パーキンソニズムの姿勢・動作・歩行を理解理解し、問題点を挙挙することができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
11	脳性麻痺、筋ジストロフィーの姿勢・動作・歩行を理解理解し、問題点を挙挙することができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
12	運動失調の姿勢・動作・歩行を理解理解し、問題点を挙挙することができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
13	下肢の機能障害による姿勢・動作・歩行を理解理解し、問題点を挙挙することができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
14	腰部疾患、循環障害による姿勢・動作・歩行を理解理解し、問題点を挙挙することができる。	講義	配布資料を事前に熟読しておくこと
15	本試験 解説	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験および発表を実施し、合計60点以上を合格、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

『基礎運動学』 医歯薬出版

配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員の授業である。

人間発達学

講師: 蓑毛 良助

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

人間の発達段階と発達課題、発達の質・構造の発達の变化を知る。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	「発達の原則」「身体のみざめ⇒心のめざめ」。	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
2	「発達段階と発達課題」	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
3	「胎児期の発達」	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
4	「乳児期の発達」	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
5	「幼児期の発達」	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
6	「児童期の発達」	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
7	「青年期の発達」	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
8	「成人期の発達」	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
9	「高齢期の発達」	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
10	「身体・視覚の発達」	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
11	「聴覚・知能の発達」	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
12	「言語の発達」	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
13	「情緒・社会性の発達」	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
14	「発達障害」	ビデオ視聴	講義 積極的に講義に参加する。
15	試験・解説		

■受講上の注意

日常の取り組む姿勢も評価するため出席、積極性、レポート提出に注意すること。

■成績評価の方法

1) 日常の取り組む姿勢(出席、積極性、レポート) 2) テスト

■テキスト参考書など

「発達」 川島一夫編 福村出版

■備考

■実務経験

病理学概論

講師: 山下 佐英

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

病理学(概論)は疾病の本態とその原因、成り立ちおよび結果などについて理論的、体系的に学ぶもので、医学的位置づけとしては基礎医学に類別される。病理学の対象は人体の病気であるため、基礎医学から臨床医学への掛け橋的役割をなしている。授業では解剖学や生理学の知識を基礎にして、疾病における人体の構造および機能の異常について学び、その知識を臨床医学の理解および医学の実践に役立てることを目標とする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	病理学の概要・病因論、退行性病変と代謝異常が理解できる。	講義	テキスト「病理学」の病理学の概要・病因論、退行性病変と代謝異常を読んでき
2	進行性病変と循環障害、免疫と炎症・感染症が理解できる	講義	テキストの進行性病変と循環障害、免疫と炎症・感染症を読んでき
3	腫瘍と放射線障害、老化と先天性異常・奇形が理解できる	講義	テキストの腫瘍と放射線障害、老化と先天性異常・奇形を読んでき
4	循環器系、呼吸器系が理解できる	講義	テキストの循環器系、呼吸器系を読んでき
5	消化器系、神経系が理解できる	講義	テキストの消化器系、神経系を読んでき
6	運動器系、泌尿器系と生殖器系が理解できる	講義	テキストの運動器系、泌尿器系と生殖器系を読んでき
7	内分泌系と造血器系、皮膚と感覚器系が理解できる	講義	テキストの内分泌系と造血器系、皮膚と感覚器系を読んでき
8	終講試験、まとめ、解説	試験	

■受講上の注意

私語はしないこと、講義の予習をしてくること、忘れ物の無いようにし、主体的に集中して講義に臨むこと。

■成績評価の方法

出席状況・受講態度・終講試験などにより総合的に評価する。

■テキスト参考書など

医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学
プリントやカラー病態スライド

■備考

講義資料については適宜配布する。

■実務経験

本授業は、医師として実務経験のある教員が行う授業である。

医学概論

講師: 山下 佐英

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

理学療法を学ぶに先立ち、医学とはなにか、狭義の医学、医術、医道からなりたっているが、現今の医学教育、医療において「医たる者人たれ」の教訓に則り、患者の痛みや心がわかる立派な医の心をもった医療人を育成することを目標とする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	医学とは何か 医学史	講義	
2	病気の理解と分類 病気の原因(内因と外因)	講義	
3	病気による身体の変化 病気の診断をどのように進めるか	講義	
4	病気の治療とリハビリテーションの必要性 病気の予防(予防医学と衛生学、人間ドックの意義)	講義	
5	新しい医療システムとその役割ならびに医療上の問題点	講義	
6	健康教育と衛生統計	講義	
7	医学の生命へのアプローチ ならびに死の臨床への対応	講義	
8	筆記試験	試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

薬理学

講師: 石田 和久

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

薬に関する情報は、市販の情報誌やテレビ番組、さらにはインターネットや携帯端末などにより容易かつ瞬時に入手できる。そのような環境の中で、必要な情報を正確に把握し、理解できることが大切である。今回の薬理学では、薬の名称や刻印された識別コード等から効果や副作用等を正確に確認できる方法や添付文書の見方を学び、また、処方せんをもとに疾患名や症状を推測できる実践力を養うことを目的とする。また、実習等で遭遇する機会の多い疾患について病態を再確認し、治療薬の作用機序を理解してリハビリに際し予測すべき副作用等を考えられるようにする。その上で、過去の国家試験問題をもとに各回ごとに習得状況を確認する。講義の終了時には各種の病態や薬物療法を理論的に説明できることを目標とし、その成果を筆記試験並びに受講姿勢から総合的に評価する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	①実際の臨床現場で、処方薬から目的や疾患を把握できるよう、検索方法や添付文書の見方を理解し、実際の処方で活用してみる。 ②薬の服用および使用方法について理解を深めるとともに、食品との飲み合わせや吸収に影響を及ぼす相互作用、薬物依存等を考える。 ③中枢系の各部位を模式的に理解し、特徴的な機能を確認する。	講義 GW IT利用検索 医薬品集 処方演習	・第1回薬理学から実施 ・インターネット活用 ・医薬品集、アプリ参照 ・過去の国試をもとに習得状況を確認する
2	①脳の伝達系異常と神経疾患について、心身症、うつ病、パーキンソン病、統合失調症等の病態と薬物療法を理解し、副作用を考える。 ②脳卒中の急性期や回復期、慢性期の薬物療法を学び、その作用から言語聴覚療法への影響を考える。	講義 GW IT利用検索 医薬品集 処方演習	・第2回薬理学を一読しておく ・医薬品集、アプリ参照 ・過去の国試をもとに習得状況を確認する
3	認知症を中心に、各種の病態について進行の特徴を理解し薬物療法を考える。	講義 GW IT利用検索 医薬品集 処方演習	・第3回薬理学を一読しておく ・医薬品集、アプリ参照 ・過去の国試をもとに習得状況を確認する
4	循環器系の疾患に対応するために、心不全、不整脈、狭心症、高血圧、血栓性疾患等の病態を心臓および循環器系を図解化して理解し、治療薬の種類と作用機序、副作用を系統的に学ぶ。	講義 GW IT利用検索 医薬品集 処方演習	・第4回薬理学を一読しておく ・医薬品集、アプリ参照 ・過去の国試をもとに習得状況を確認する
5	①注射剤への理解として、細胞の機能や電解質の役割を理解し、臨床で遭遇する点滴製剤の特徴を学ぶ。高血糖や腎機能低下時の薬物療法への理解も深める。よく利用されるサプリメントについても確認する。 ②高齢者に多い泌尿器障害や排便困難、消化管障害等について、治療薬の種類と作用機序、副作用を考える。	講義 GW IT利用検索 医薬品集 処方演習	・第5回薬理学を一読しておく ・ドラッグストア等で事前にサプリメントを見てみる ・インターネット活用 ・医薬品集、アプリ参照 ・過去の国試をもとに習得状況を確認する
6	①骨粗鬆症について、骨芽細胞や破骨細胞の機能とモデリングを理解し、治療薬の種類と作用機序、副作用を学ぶ。 ②免疫系の疾患への理解をふかめるべく、生体防御機構を理解し、アレルギー用剤、気管支喘息用剤、抗菌剤・抗ウイルス剤、関節リウマチ用剤に加え、抗がん剤についても理解を深める。	講義 GW IT利用検索 医薬品集 処方演習	・第6回薬理学を一読しておく ・医薬品集、アプリ参照 ・過去の国試をもとに習得状況を確認する
7	「痛み」について、伝達経路を図解化して理解し、今回までに学んだ薬の組み合わせ効果、さらにはオピオイド・非オピオイド鎮痛薬等について理解を深める。	講義 GW IT利用検索 医薬品集 処方演習	・第7回薬理学を一読しておく ・医薬品集、アプリ参照 ・過去の国試をもとに習得状況を確認する
8	終講試験およびまとめ	筆記試験	講義に使用した医薬品集およびアプリは利用可

■受講上の注意

私語は慎む。なお、講義中の質問および終了後の質問は積極的に行ってほしい。講義の予習とともに学んだ方法は実践してみること。講義で使用するオリジナルテキストを忘れないようにする。また、図解し演習する機会もあるので、各自で記録可能なノートなどを準備する。主体的に講義に臨むこと。

■成績評価の方法

終講試験(90%)・授業への参加態度(10%)により総合的に評価する。試験は筆記にて行い、その結果を最重要視するが、質問等を通じた講義への積極的な参加など受講態度なども加味する。100点満点として60点未満に再試験を実施する。

■テキスト参考書など

テキスト: 過去5年間の国家試験問題をもとに作成したオリジナルテキストおよび医薬品集を利用。また、IT活用として正確かつ最新の薬剤情報を取得できるアプリも利用する。各回ごとの学びは最近の国家試験問題を解くことで習得したこととする。

■備考

上記のオリジナルテキストおよび医薬品集は事前配布する。講義にはインターネット環境のパソコン1台とプロジェクターを準備。インターネットの検索サイト(pmda、薬価サーチ2022 他)の閲覧およびテキストを投影する。App Store・Android無料アプリ「ヤクチエ添付文書」の活用と機能は講義中に説明する。

■実務経験

本科目は、薬剤師として実務経験のある教員による授業である。

臨床心理学		講師: 山喜 義枝
単位数: 1単位	時間数: 30時間	授業学年: 1学年
必修選択: 必修		

■科目目標

理学療法士・作業療法士は患者様に直接かかわる業務である。本講義では、それを目指されている学生の皆さんがそれぞれ専門職として臨床に従事されるにあたって、患者様の心や行動の意味や構造をよりよく理解することができることを目標にしたい。そのために臨床心理学の立場から人間理解を深めると共に、まず自分自身の心の健康を維持することを意識しながら、患者様の健康を増進するための良好な対人関係のスキルも向上できるような体験学習も取り入れたい。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	臨床心理学の概論を学ぶ	講義・レポート	臨床心理学に興味を持ち、自身の思いをレポートにしてみる
2	臨床心理学の諸理論の基礎を学ぶ	講義・体験学習	臨床心理学を学ぶ意味を理解する。(自身の防衛機制やストレスに気づく)
3	心理アセスメントを学ぶ I 行動観察法・面接法・その他	講義・体験学習	心理アセスメントを疑似体験することで、他者の心への興味も深くなる
4	心理アセスメントを学ぶ II 質問紙法・知能検査・投影法・その他	講義・体験学習	心理アセスメントを疑似体験することで、自身の心への興味も深くなる
5	心理アセスメントを学ぶ III 子どものアセスメント(心理検査・関わりながらアセスメント・テストバッテリー他)	講義・体験学習	心理アセスメントを疑似体験することで、自身の心への興味も深くなる
6	さまざまな心理療法を学ぶ I 心理療法とは 一 精神分析的な心理療法	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、ラポールを取ることの難しさ等を学ぶ
7	さまざまな心理療法を学ぶ II 心理療法とは 一 来談者中心療法	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、受容しながら聴くことの難しさ等を学ぶ
8	さまざまな心理療法を学ぶ III 心理療法とは 一 認知行動療法	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、自身の行動のくせ等に気づき学びを深める
9	さまざまな心理療法を学ぶ IV 箱庭療法・遊戯療法	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、学びを楽しみながら興味を深める
10	さまざまな心理療法を学ぶ V 身体表現法・ゲシュタルト療法・芸術療法	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、学びを楽しみながら興味を深める
11	さまざまな心理療法を学ぶ VI 集団心理療法(サイコドラマ・エンカウンターグループ・セルフヘルプグループ・SST)・家族療法	講義・体験学習	集団心理療法を疑似体験することで、学びを深める
12	さまざまな心理療法を学ぶ VII 親-乳幼児心理療法・交流分析・日本で生まれた療法他	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、学びを深める
13	コミュニティ援助の方法や教育・福祉・産業等の現場での対応を学ぶ	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、学びを深める
14	まとめ I 今日的な心の問題(不登校・ひきこもり・虐待・DV・PTSD他) II テスト対策	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、学びを深める
15	終講試験	筆記試験	十分に準備して試験に臨むこと

■受講上の注意

今ここでしか身につけられないことを、素直に謙虚に誠実に学ぶこと

■成績評価の方法

筆記試験(60%)・授業中のレポート(30%)・講義への参加態度(10%)により、総合的に評価する。

■テキスト参考書など

『徹底図解 臨床心理学』 編著者: 青木紀久代 新星出版社

■備考

■実務経験

精神科・心療内科セラピスト／スクールカウンセラー／大学院発達支援センター委託支援指導員／企業内産業カウンセラー／保健センター心理発達相談員

一般臨床医学

講師: 山下 佐英

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

医学・医療の発達に伴い統合と分化が叫ばれている現在、リハビリテーション医学も類に洩れず細分化されてきている。リハビリテーション医学の対象はきわめて広範囲に及び、それぞれOT, PT, STなどの専門教育がなされている。広義のリハビリテーションでは、各々独自の機能訓練を果たしながら、同時に相互扶助の立場にたって共生しつつ、心ある医療をめざして発展せしめる必要がある。そこで、臨床各科に関する項目について解説して、各科の特性を十分認識した上で総合的に総括できるようにする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	診断学概要が理解できる	講義	テキスト「PT・OT・STのための一般臨床医学」の診断学概要を読んでもらう
2	I. 救急患者観察のポイント及びバイタルサインが理解できる	講義	テキストの救急救命医療を読んでもらう
3	II. 救急処置の基本とそのABCが理解できる	講義	テキストの救急救命医療を読んでもらう
4	III. 心肺蘇生法の理論と実際が理解できる	講義	テキストの救急救命医療を読んでもらう
5	IV. 呼吸不全と呼吸管理が理解できる	講義	テキストの救急救命医療を読んでもらう
6	V. 意識レベルの障害と対応について理解できる	講義	テキストの救急救命医療を読んでもらう
7	VI. ショックとその対応について理解できる	講義	テキストの救急救命医療を読んでもらう
8	外科学総論が理解できる	講義	テキストの外科学総論を読んでもらう

■受講上の注意

私語はしないこと、講義の予習をしてくること。
忘れ物の無いようにし、主体的に集中して講義に臨むこと。

■成績評価の方法

私語はしないこと、講義の予習をしてくること、忘れ物の無いようにし、主体的に集中して講義に臨むこと。

■テキスト参考書など

明石 謙: PT・OTのための一般臨床医学 第3版. 医歯薬出版
プリントやカラー病態スライド

■備考

講義資料については適宜配布する

■実務経験

本授業は、医師として実務経験のある教員が行う授業である。

内科学 I

講師: 田之上 史郎

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

リハビリテーションでは運動機能の障害者のみならず、内科的疾患(内部障害)を合併し患者の機能回復訓練もおこなわれる。ここでは、リハビリテーション治療を安全に行うための知識が必要不可欠である。このため、内科的疾患に伴う症状と病気のなりたち、診察のしかた、検査法、治療法にはどのようなものがあるかを総論的に学習する。そして、循環器、呼吸器、消化器、肝胆膵の疾患についてそれぞれの各論を学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	リハビリテーションとは何か。	講義、DVD	リハビリテーションに必要な内科学
2	診断と治療の実際	講義、DVD	病歴、診察、臨床検査、治療の概要
3	症候学の内容	講義、DVD	症状と徴候のポイント
4	循環器疾患(1)	講義、DVD	心臓の解剖・病態生理
5	循環器疾患(2)	講義、DVD	循環器疾患の特徴、治療、予防
6	呼吸器疾患(1)	講義、DVD	肺の解剖・病態生理
7	呼吸器疾患(2)	講義、DVD	呼吸器疾患の特徴、治療、予防
8	消化器疾患(1)	講義、DVD	消化器の解剖・病態生理
9	消化器疾患(2)	講義、DVD	消化器疾患の特徴、治療、予防
10	肝胆膵疾患(1)	講義、DVD	肝胆膵の解剖・病態生理
11	肝胆膵疾患(2)	講義、DVD	胆膵疾患の特徴、治療、予防
12	肝胆膵疾患(3)	講義、DVD	胆膵疾患の特徴、治療、予防
13	プレテスト(1)	講義、DVD	回数1-5の要点解説、討論
14	プレテスト(2)	講義、DVD	回数6-12の要点解説、討論
15	内科学I試験	筆記試験	設問の読解力、日本語による解答の専門知識、表現力が問われる

■受講上の注意

体調をととのえる(快食・快眠・快便の生活)、予習による読書習慣を体得し思考力と集中力をたかめる。テレビ・スマホの使用は必要最小限度にし視力の消耗を防ぐこと、書籍・新聞等の活字による情報にもとづく問題志向型の考え方を修得することが望ましい。

■成績評価の方法

最終試験(60%)、プレテスト(30%)、授業への参加態度(10%)

■テキスト参考書など

“標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野(奈良 勲, 鎌倉矩子 監修)
内科学 第3版 (前田眞治、上月正博、飯山準一 執筆)”

■備考

資料プリントは適宜配布する。

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

内科学Ⅱ

講師: 田之上 史郎

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

血液・造血器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎・泌尿器疾患、アレルギー疾患・膠原病・類似疾患と免疫不全症、感染症の病態生理と加齢にともなう身体機能の変化を考慮したリハビリテーション治療のありかたを学習する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	血液・造血疾患(1)	講義、DVD	血液成分、造血機能、止血の病態生理
2	血液・造血疾患(2)	講義、DVD	血液疾患の病態生理、検査、治療
3	代謝性疾患(1)	講義、DVD	栄養とエネルギー、代謝調節
4	代謝性疾患(2)	講義、DVD	糖、脂質、ミネラル代謝異常の病態
5	代謝性疾患(3)	講義、DVD	糖尿病、脂質異常症、骨そしょう症
6	内分泌疾患(1)	講義、DVD	内分泌腺とホルモンの解剖、病態生理
7	内分泌疾患(2)	講義、DVD	“視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎の機能亢進と低下の病態生理”
8	腎・泌尿器疾患(1)	講義、DVD	腎臓の解剖、病態生理
9	腎・泌尿器疾患(2)	講義、DVD	腎・泌尿器疾患の特徴、治療、予防
10	アレルギー疾患・(1) 膠原病・類似疾患・(2) 免疫不全症(3)	講義、DVD	免疫系の働き、アレルギーの病態生理 免疫応答の細胞、アレルギー疾患、
11	感染症(1)	講義、DVD	感染症の病原体、感染経路、成立条件
12	感染症(2)	講義、DVD	感染防御、症状、抗生物質、耐性菌
13	プレテスト(1)	講義、DVD	回数1～7の要点解説、討論
14	プレテスト(2)	講義、DVD	回数8～12の要点解説、討論
15	内科学Ⅱ試験	筆記試験	専門知識による解答、表現力が問われる

■受講上の注意

リハビリテーションの専門知識を整理し国家試験にそなえる。書籍・新聞等の最新情報にもとづく問題志向型の考え方を体得し、医療を取りまく社会の変化を理解する。そして、リハビリテーション医療の質向上にむけた生涯教育をめざす。

■成績評価の方法

最終試験(60%)、プレテスト(30%)、授業への参加態度(10%)

■テキスト参考書など

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野(奈良 勲, 鎌倉 矩子 監修)
内科学 第3版 (前田 眞治、上月 正博、飯山 準一 執筆)

■備考

資料プリントは適宜配布する。

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

整形外科学Ⅰ

講師：川元 大輔

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

整形外科分野の基礎科学、診断・治療総論、疾患総論を学ぶ。

具体的には骨・関節の機能と形態、成長と老化、病因・病態の基礎を理解できる。

また、整形外科の診断・治療体系のなかPT・OTがどの領域を担当しているのか理解できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	運動器の生理について、1年次に学習した内容(骨・関節・筋・神経)を復習し整形外科疾患との関連性を理解する。	講義	教科書P8～38を事前に予習しておくこと。
2	運動器の生理について、1年次に学習した内容(骨・関節・筋・神経)を復習し整形外科疾患との関連性を理解する。	講義	教科書P8～38を事前に予習しておくこと。
3	運動器の生理について、1年次に学習した内容(骨・関節・筋・神経)を復習し整形外科疾患との関連性を理解する。	講義	教科書P8～38を事前に予習しておくこと。
4	診察の仕方について学ぶ	講義	とくにPT・OTに重要な身体所見のとり方とその意味を理解する。 教科書P40～47を事前に予習しておくこと。
5	代表的な症候・検査について学ぶ	講義	整形外科に代表的な症候を理解し、各検査の目的・特徴・欠点・合併症などを理解する。教科書P48～75を事前に予習しておくこと。
6	整形外科の保存療法を学ぶ。	講義	保存療法の中で、理学療法・作業療法の位置づけを理解する。 教科書P76～85を事前に予習しておくこと。
7	手術治療の概略を学ぶ。	講義	手術適応の決定・術前・術中・後療法(術後リハビリ)のすべてが広義の手術治療であり、手術治療の中で理学療法・作業療法の位置づけを理解する。 教科書P86～95を事前に予習しておくこと。
8	骨折・脱臼について理解する	講義	
9	骨折・脱臼について理解する	講義	
10	慢性関節疾患を学ぶ。	講義	配付のプリントに事前に目を通し、授業中の重要事項を書き足していく。
11	慢性関節疾患を学ぶ。	講義	配付のプリントに事前に目を通し、授業中の重要事項を書き足していく。
12	関節リウマチを学ぶ。	講義	配付のプリントに事前に目を通し、授業中の重要事項を書き足していく。
13	脊椎疾患を学ぶ。	講義	配付のプリントに事前に目を通し、授業中の重要事項を書き足していく。
14	講義のまとめをおこなう	講義	
15	終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

各項目ごとに、内容に合わせて国家試験問題を配布する。問題に準じて教科書を用いて探究する力を身に付けること。

■成績評価の方法

合否は終講試験の結果60点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

病気がみえるvol11 運動器・整形外科
標準整形外科 第13版 医学書院

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

整形外科学Ⅱ

講師: 菊野 竜一郎、川元 大輔

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

* 運動器(骨・関節・筋肉・腱・神経)の機能障害をきたす疾患について学ぶ。

* 病態を理解した上で、能力低下を評価・治療して、より効果的に再び能力をできるだけ発揮させ、社会復帰させるための基礎知識を学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	肩関節の疾患 肩甲帯の疾患	講義	
2	肩関節の疾患 肩甲帯の疾患	講義	
3	胸郭、上腕・肘、手の疾患	講義	
4	手関節・手の疾患	講義	
5	胸椎・腰椎の疾患	講義	
6	頸椎・胸椎の疾患	講義	
7	肩疾患・スポーツ外傷・熱傷について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
8	肩疾患・スポーツ外傷・熱傷について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
9	末梢神経疾患について学ぶ。	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
10	末梢神経疾患について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
11	脊髄損傷について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
12	脊髄損傷について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
13	骨系統疾患・腫瘍について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
14	骨系統疾患・腫瘍について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
15	試験	筆記試験	

■受講上の注意

授業では国家試験問題を配布する。教科書を使用して探求する力を身に付けること。

比較的遭遇する疾患・重要な疾患について部位別に講義する

■成績評価の方法

記述問題・国家試験に準ずる問題を使用した筆記試験

■テキスト参考書など

標準整形外科学 (参考資料: 紳中整形外科 及び その他の数種の成書、最近の文献)

病気が見えるVo.11運動器・整形外科

■備考

■実務経験

本科目は、医師および理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

神経内科学 I

講師:上床 太心

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

- (1)神経疾患のリハビリテーションの前提となる主な機能障害の症候、神経所見および検査所見を説明できる。
- (2)Ⅱに必要な神経系の機能や解剖を理解する。
- (3)Ⅲの症候や神経所見の機序や背景等に興味や関心をもつ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	各種運動麻痺の態様を説明できる。 上位運動ニューロン・下位運動ニューロン・筋の障害における基本的な症候、神経所見を説明できる。	講義	随意運動の仕組みの概要を予習すること。大脳皮質運動野から筋までの運動ニューロンの経路を予習すること。
2	上位運動ニューロン・下位運動ニューロン・筋の障害における基本的な症候、神経所見を説明できる。 筋トーンの異常、共同運動、代表的な腱反射、病的反射、運動麻痺の評価について説明できる。	講義	前回の要点を復習して臨むこと。 腱反射、病的反射について予習すること。
3	大脳基底核系の運動調節障害の症候や神経所見を説明できる。	講義	大脳基底核系による運動調節の概要を予習すること。
4	小脳系の運動調節障害による症候や神経所見を説明できる。	講義	小脳系による運動調節の概要を予習すること。
5	体性感覚(特に温痛覚、深部感覚)障害の症候や神経所見を説明できる。	講義	体性感覚について予習すること。温痛覚と(意識できる)深部感覚の神経経路を予習すること。
6	特殊感覚(特に視覚、平衡感覚)障害の症候や神経所見を説明できる。	講義	視覚の経路や前庭神経の機能を予習すること。
7	三叉神経障害、顔面神経障害、球麻痺/偽性球麻痺の症候や神経所見を説明できる。	講義	三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経の機能を予習すること。
8	自律神経障害、排尿排便障害、性機能障害の概要について説明できる。	講義	自律神経系の機能について予習すること。
9	高次脳機能障害のうち失認、失行の症候や局在を説明できる。	講義	側頭・後頭・頭頂葉の機能の概要について予習すること。
10	高次脳機能障害のうち失語、前頭連合野障害の症候、記憶障害の分類、認知症の概要を説明できる。	講義	前頭葉機能、言語に関する機能局在、記憶の分類について予習すること。認知機能とは何か、予習すること。
11	てんかんとけいれんについて説明できる。 ここまでの学習内容をまとめ総合的に理解する。	講義	てんかんの定義、けいれんの定義について予習すること。 前回までの学習内容を復習して臨むこと。
12	頭蓋内圧亢進症状の概要を説明できる。	講義	脳脊髄液の流れや脳脊髄液圧・頭蓋内圧との関係について予習すること。
13	頭痛、意識障害、脳浮腫、脳ヘルニアの概要を説明できる。 CTとMRIの特徴について説明できる。	講義	頭痛の分類、覚醒を保つ仕組み、ヘルニアに関連する部位の解剖について予習すること。
14	脳のマクロ解剖、断面像、各脳動脈の灌流域を図示できる。	講義	脳の解剖、脳の各動脈の分枝、走行等を予習すること。
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

- (1)他科目で学習した解剖学的、生理学的な知識が基盤となるので、上記「学習上の留意点」に示したような基礎的な関連事項について、予め整理して受講すること。

■成績評価の方法

終講試験を中心に平素の学習状況を加味して評価する。

■テキスト参考書など

- (1)病気がみえる〈vol.7〉脳・神経 第2版(メディックメディア)
- (2)標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版(医学書院)

■備考

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

神経内科学Ⅱ

講師: 上床 太心

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

- (1)Ⅲハビリテーションの現場で遭遇する主な神経系の傷病の症候、神経所見、検査所見および経過を説明できる。
- (2)Ⅳに必要な神経系の機能や解剖を理解する。
- (3)Ⅳの症候や神経所見の機序や背景等に興味や関心をもつ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	神経根症、腕神経叢損傷、胸郭出口症候群、手根管症候群、肘部管症候群、橈骨神経麻痺、総腓骨神経麻痺、三叉神経痛、顔面神経麻痺の症候と神経所見を説明できる。	講義	脊髄神経(頸髄、腰髄)の支配筋とデルマトーム、正中・尺骨・橈骨・総腓骨・三叉・顔面神経の支配筋と感覚支配、腱反射、下位運動ニューロン障害の症候と神経所見等を復習してのぞむこと。
2	多発ニューロパチーの症候、神経所見を説明できる。ギランバレー症候群の症候や経過を説明できる。	講義	下位運動ニューロン障害の症候と神経所見を復習してのぞむこと。
3	デュシェンヌ型筋ジストロフィー症・多発筋炎の症候、神経所見、検査所見、経過、リハの留意点を説明できる。重症筋無力症、筋緊張症の症候を説明できる。	講義	筋障害の症候と神経所見を復習してのぞむこと。
4	運動ニューロン病(主にALS)の症候、神経所見を説明できる。	講義	上位運動ニューロン障害、下位運動ニューロン障害の症候、所見を復習してのぞむこと。
5	パーキンソン病の症候、神経所見、リハを説明できる。パーキンソニズムを来す疾患・状況を説明できる。	講義	大脳基底核系の運動調節障害の症候、所見を復習してのぞむこと。
6	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の概要、症候、神経所見、リハ、経過を説明できる	講義	小脳系の運動調節障害の症候、所見を復習してのぞむこと。
7	認知症の中核症状とBPSD、認知機能の評価法を説明できる。4大認知症の症候や特徴を説明できる。	講義	高次脳機能障害全般および認知症の定義を復習してのぞむこと。
8	脳血管障害、脳卒中の概要を説明できる。	講義	脳の解剖と前期に学習した各所の機能を復習してのぞむこと。
9	各部の脳梗塞(閉塞動脈ごと)の症候、神経所見、画像所見、経過を説明できる。	講義	脳の解剖と各脳動脈の灌流域を復習してのぞむこと。
10	脳出血(被殻、視床、橋、小脳、皮質下)の血腫進展状況による症候、神経所見、画像所見を説明できる。	講義	脳の解剖と各動脈の走行を復習してのぞむこと。
11	くも膜下出血の原疾患、症候、経過、合併症、画像所見を説明できる。	講義	髄膜、脳脊髄液、頭蓋内圧亢進症状を復習してのぞむこと。
12	正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫の症候、経過、画像所見について説明できる。	講義	髄膜の構成、脳室の解剖、脳脊髄液の流れ等について復習してのぞむこと。
13	急性硬膜外/下血腫、脳挫傷、びまん性軸索損傷の症候、経過、画像所見について説明できる。 多発性硬化症の症候、神経所見を説明できる。	講義	髄膜の構成、脳室の解剖、脳脊髄液の流れ等について復習してのぞむこと。 中枢神経系の障害により生じる運動障害、感覚障害全般を復習してのぞむこと。
14	髄膜炎、脳炎、脳膿瘍、HAM、急性灰白髄炎、脳腫瘍、頭痛、てんかんの症候について説明できる。	講義	髄膜刺激症状、頭蓋内圧亢進症状、頭痛の分類、てんかんといけいんの差異等について復習してのぞむこと。
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

(1) 神経内科 I で学習した知識が基盤となるので、上記「学習上の留意点」に示したような関連事項については、予め復習して受講すること。

(2) 本科目で最低限習得すべき内容は、下記のテキストに概ね記載されている。しかし授業は様々なページを行き来しながら進行し、さらに基礎的な関連事項や、症候・神経所見の機序・背景はテキストには記載されていないことも少なくないので、ノートや記録に留意が必要である。

■成績評価の方法

終講試験により評価する。

■テキスト参考書など

(1) 病気がみえる〈vol.7〉脳・神経 第2版(メディックメディア)

(2) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版(医学書院)

<注> 神経根症、脊髄損傷の項では、

「標準整形外科学 第15版(医学書院)」など整形外科のテキストも参照する。

■備考

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

精神医学 I		講師: 築瀬 誠
単位数: 1単位	時間数: 30時間	授業学年: 2学年
必修選択: 必修		

■科目目標

精神障害の分類と精神症状、統合失調症、感情障害、神経症性障害および精神作用物質により障害の病態と治療について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神障害の成因と分類について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
2	精神機能の障害と精神症状について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
3	精神機能の障害と精神症状について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
4	精神機能の障害と精神症状について理解できる	講義ビデオ	教科書での予習・復習が必要である
5	統合失調症およびその関連障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
6	統合失調症およびその関連障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
7	統合失調症およびその関連障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
8	統合失調症およびその関連障害について理解できる	講義ビデオ	教科書での予習・復習が必要である
9	感情障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
10	感情障害について理解できる	講義ビデオ	教科書での予習・復習が必要である
11	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
12	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害について理解できる	講義ビデオ	教科書での予習・復習が必要である
13	神経作用物質による精神および行動の障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
14	精神作用物質による精神および行動の障害について理解できる	講義ビデオ	教科書での予習・復習が必要である
15	最終試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

授業中の私語は慎む

■成績評価の方法

最終試験による

■テキスト参考書など

上田武治(編): 標準理学療法学・作業療法学「精神医学」(第4版). 医学書院

■備考

試験は、理学療法士・作業療法士の国家試験の過去問を中心に出题する。

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

精神医学Ⅱ		講師: 築瀬 誠
単位数: 1単位	時間数: 30時間	授業学年: 2学年
必修選択: 必修		

■科目目標

脳器質性障害、てんかん、摂食障害、パーソナリティ障害、精神遅滞、発達障害の病態と治療、および精神医療の歴史、関連法規について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神障害の分類、精神機能の障害と精神症状について理解できる(精神医学Iの復習)	講義	教科書での予習・復習が必要である
2	脳器質性障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
3	脳器質性障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
4	てんかんについて理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
5	生理的障害および身体的要因に関連した障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
6	精神遅滞について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
7	心理的発達の障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
8	精神障害の診断と評価について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
9	精神障害の治療とリハビリテーションについて理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
10	精神障害の治療とリハビリテーションについて理解できる。感情障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
11	精神障害の治療とリハビリテーションについて理解できる。感情障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
12	精神医療の歴史について理解できる	講義	事前に配布される資料での予習が必要である
13	精神保健福祉法および関連法規について理解できる	講義	事前に配布される資料での予習が必要である
14	精神障害者に関わる障害者総合支援法の内容について理解できる	講義	事前に配布される資料での予習が必要である
15	最終試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

授業中の私語は慎む

■成績評価の方法

最終試験による

■テキスト参考書など

上田武治(編): 標準理学療法学・作業療法学「精神医学」(第4版). 医学書院
(副読本として以下の2冊を勧めます)

■備考

試験は、理学療法士・作業療法士の国家試験の過去問を中心に出题する。

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

小児科学		講師:有馬 純久
単位数:1単位	時間数:30時間	授業学年:2学年
必修選択:必修		

■科目目標

- ・小児の発達を理解する
- ・患児の主疾患について理解する
- ・患児の合併症を考慮して訓練計画をたて、家族への助言ができるようにする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	小児科学概論	講義 有馬	
2	診断と治療の概要	講義	
3	新生児・未熟児疾患	講義	
4	循環器疾患	講義	
5	呼吸器疾患	講義	
6	感染症	講義	
7	消化器疾患	講義	
8	免疫・アレルギー疾患、膠原病	講義	
9	腎・泌尿器疾患	講義	
10	睡眠・心身医学	講義	
11	先天異常と遺伝病	講義 田中	
12	神経筋疾患	講義	
13	内分泌・代謝疾患	講義	
14	血液疾患	講義	
15	重度心身害児	講義	

■受講上の注意

■成績評価の方法

国試形式の設問＋記述問題のテスト
ただし、長期休暇の課題レポートの点数も参考にする

■テキスト参考書など

「標準理学療法学 小児科学」第5版（医学書院）

■備考

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

スポーツ医学		講師: 川元 大輔、上田 晃希、鮫島 康太
単位数: 1単位	時間数: 30時間	授業学年: 2学年
必修選択: 必修		

■科目目標

スポーツ医学を通じてスポーツ外傷と障害の理解を深め、それに対応する予防法や対処法に触れ、スポーツに関わることの意義と責任感を育む

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	スポーツの意義と価値を学び、現代社会におけるスポーツ需要と、その可能性について多角的に捉え理解することができる	講義・GW	配布資料に目を通し内容を確認しておく
2	スポーツの文化的特性を学び、スポーツ宣言日本またはオリンピズムにおけるスポーツの意義と価値の捉え方を理解する	講義・GW	配布資料に目を通し内容を確認しておく
3	スポーツが人格形成に重要な役割を担っていることを学び、スポーツ権として憲法上保証される権利を理解する	講義・GW	配布資料に目を通し内容を確認しておく
4	ガバナンスとは何かを学習し、スポーツの自治について総合的に理解する	講義・GW	配布資料に目を通し内容を確認しておく
5	スポーツにおけるインテグリティ(誠実・真摯・高潔)を学習し、スポーツ固有の問題としてドーピングについて理解する	講義・GW	配布資料に目を通し内容を確認しておく
6	スポーツと健康において、本邦における現状と課題に触れ、運動の健康に対する意義を説明することができる アスリートの健康管理体制を学び、アスリートの内科的障害と対策を通じ、メディカルチェックの必要性を説明することができる	講義	配布資料に目を通し内容を確認しておく
7	スポーツ外傷と障害の違いを明確に区分し、それらの発症要因や年代別による特性を説明することができる。また頭部・体幹のスポーツ外傷および障害概論を学び説明することができる	講義	配布資料に目を通し内容を確認しておく
8	頭部・体幹のスポーツ外傷および障害の治療と予防を関係づけることができる	講義	配布資料に目を通し内容を確認しておく
9	上肢のスポーツ外傷および障害概論を学び説明することができる	講義	配布資料に目を通し内容を確認しておく
10	上肢のスポーツ外傷および障害の治療と予防を関係づけることができる	講義	配布資料に目を通し内容を確認しておく
11	下肢のスポーツ外傷および障害概論を学び説明することができる	講義	配布資料に目を通し内容を確認しておく
12	下肢のスポーツ外傷および障害の治療と予防を関係づけることができる	講義	配布資料に目を通し内容を確認しておく
13	スポーツ傷害の発生する頻度が高い部位や治療に関わる部位について、超音波を使用して正常解剖を観察することができる。	講義・演習	配布資料に目を通し内容を確認しておく
14	コンディショニングの手法として、ストレッチの目的と効果、種類を把握し、実施することができる	講義・演習	配布資料に目を通し内容を確認しておく
15	スポーツ医学まとめ	本試験	

■受講上の注意

理解を深めるため、対話的な共同学習や実技を交えた内容も組み入れながら授業を進める。受講者は積極的に取り組むことを期待する。

■成績評価の方法

提出物と筆記試験の総合評価により60点以上を合格、59点以下を不合格とする

■テキスト参考書など

Reference book 編集発行: 公益財団法人 日本スポーツ協会

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である

老年学

講師: 原田 智晃

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

わが国では、高齢化が進み、2025年以降に75歳以上の人の数が著しく増加することから、多くの問題が発生することが予想されている。特に医療においては高齢者に多い疾病、フレイルなど高齢者の自立を阻害する病態の予防と治療が問題となっていることから、理学療法士・作業療法士においては、その基礎となる身体・心理の加齢的变化や高齢者に特有な症候群を学ぶ必要がある。本講義では、老年期の加齢的变化を中心に、栄養や予防等のリハビリテーションに必要な基本的知識を8回に分けて学んでゆく。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	老年学総論 老年学と高齢者医療におけるリハビリテーションの役割について 老化と高齢者の定義 人口動態について	講義	
2	老年期における生理機能の変化について説明できる	講義	
3	老年期における身体構造の変化について説明できる	講義	
4	老年期における栄養について説明できる	講義	
5	老年期における精神心理面の変化について説明できる。高齢者の接し方について説明できる。	講義	
6	高齢者に特徴的な症候群について説明できる(意識障害、認知機能障害、せん妄、抑うつ、不眠、めまい、言語障害、嚥下障害、熱中症など)	講義	
7	老年期における予防について説明できる	講義	
8	本試験、解説	試験	

■受講上の注意

遅刻、欠席、居眠りのない様にする。配布資料のみのため紛失することないようにファイリング

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、未満を不合格とする。

■テキスト参考書など

特になし

【参考図書】

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士・作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

画像診断

講師: 川元 大輔、木下 恵美、横山 尚宏

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

疾患診断に役立つ必要な医用画像について、各種診断機器による画像の成り立ちを理解したうえで、これまで学習で得た解剖学、生理学や病態学の知識に基づき、画像解剖学的事項、疾患の医用画像の臨床的評価、代表的な疾患の画像所見について学習する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	脳の解剖および画像上の各部位の位置関係を理解する。		事前に脳の解剖について復習しておくこと。
2	脳画像の撮影機器(CT・MRI)の理解とそれぞれの特徴を理解する①		配布資料を熟読し、受講すること。
3	脳画像の撮影機器(CT・MRI)の理解とそれぞれの特徴を理解する②		配布資料を熟読し、受講すること。
4	画像診断の基本としてレントゲン・CT・MRIの検査目的の違いを説明することができる。また、脊椎・脊髄画像の正常画像(レントゲン・CT・MRI)を理解し、脊椎・脊髄疾患の異常所見を解釈できる。	講義	教科書目次: 第三部 脊椎・脊髄より症例提示されている病態について、授業前に確認しておくこと。
5	代表的な上肢の正常画像(レントゲン・CT・MRI)を理解し、上肢運動器疾患の異常所見を解釈できる。	講義	教科書目次: 第四部 骨・関節において、上肢に関連する症例提示されている病態について、授業前に確認しておくこと。 授業中に、画像所見から予測される症状・評価・リスク管理・ADL上の注意等についてグループワークを実施する。
6	代表的な下肢の正常画像(レントゲン・CT・MRI)を理解し、下肢運動器疾患の異常所見を解釈できる。	講義	教科書目次: 第四部 骨・関節において、下肢に関連する症例提示されている病態について、授業前に確認しておくこと。 授業中に、画像所見から予測される症状・評価・リスク管理・ADL上の注意等についてグループワークを実施する。
7	呼吸・循環 X線やCT画像から、正常な臓器の位置や病態メカニズムを理解することが出来る	講義	配布資料があるので持参してくること
8	試験 まとめ	試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

本試験を実施。
3名の専任教員分野を合算し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

リハビリテーション医療に活かす画像のみかた 南江堂
病気がみえる vol.7 脳・神経 メディックメディア

■備考

■実務経験

本授業は、理学療法士として実務経験を有した教員が授業をおこなう。

リハビリテーション概論		講師: 仲村 弘幸
単位数: 1単位	時間数: 30時間	授業学年: 1学年
必修選択: 必修		

■科目目標

リハビリテーションの意味を理解し、各専門職種の内容を理解する。
障害の分類と評価の概要と随意運動の制御と中枢神経機構の概要を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	歴史と定義・法律その他①	講義	
2	歴史と定義・法律その他②	講義	
3	理学療法について	講義	
4	作業療法について	講義	
5	言語療法について／他の関連職種について	講義	
6	国際生活機能分類(ICF)について	講義	
7	国際障害分類(ICIDH)について	講義	
8	障害の評価①	講義	
9	障害の評価②	講義	
10	廃用症候群について	講義	
11	認知症とその対応	講義	
12	外傷(主に老人の骨折について)	講義	
13	随意運動の制御と中枢機構について①	講義	
14	随意運動の制御と中枢機構について②	講義	
15	まとめ、筆記試験	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

適宜配布資料を使用する。

参考書: リハビリテーション医学テキスト[改定第5版] 南江堂 監修 三上 真弘

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

多職種連携論 I

講師: 山下 喬之

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

教育目標: 自らの職業、出会った他職種(リハビリテーション関連職種)の概要を理解する

行動目標

- ・人々の相互関係を成立させるコミュニケーションについて説明できる
- ・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の職業の概要について説明できる
- ・他職種を尊重した態度で、必要な情報を収集、意見交換ができる

○科目を履修することで獲得できる態度・知識・技能

- 1) 将来、リハビリテーションのフィールドで多くの人が協働することとなる作業療法士と言語聴覚士を目指す学生と出会うことが出来ます。
- 2) 異なる資格を目指す学生と同じ課題に臨むことで、お互いに関連する法規や資格の定義、観点の違いを理解することが出来ます。
- 3) ジレンマ学習を経験することで、答えの出ない課題に対する姿勢と観点を獲得することが出来ます。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
	授業オリエンテーションと多職種連携の概要理解 到達目標		
1	1) シラバスを用いて、自らで科目目標と各回の到達目標を確認することができる。 2) 多職種連携(Inter Professional Work; IPC)の定義、必要性和その背景を理解し、説明できる。 3) 多職種連携教育(Inter Professional Education; IPE)を履修する目的と意義を理解し、説明できる。 4) 当該科目のテーマで「食を考える」を取り上げる目的と意義を説明できる。	講義	※他学科との合同授業
	チームの理解とコミュニケーションの実践 到達目標		
2	1) チームの定義を理解し、説明することが出来る。 2) 集団中で発生するコミュニケーションのトラブルについて、ワークを通して体感する。	講義/演習	理学療法学科単科
	協働のテーマ、「食」と専門職同士の連携の理解 到達目標		
3	1) 人にとっての「食とは何か」の概念を理解し、説明できる。 2) 栄養の3大要素と、それらが身体運動にどのように関連するかを説明できる。 3) 自分にとっての「食の現状」を表出して周囲と共有、振り返りができる。	講義/演習	外部: 管理栄養士講座 ※他学科との合同授業
	学科合同の活動を通した職業理解と共有 到達目標		
4	1) 他学科の学生どうして構成されたチーム内で自己紹介をし合い、他職種と出会う。 2) 自らが所属する学科の職業を紹介するポスターを共同で完成させることができる。 3) 制作したポスターを掲示してポスターツアーを実施、他班の情報を収集し、共有することができる。	講義/演習	※他学科との合同授業
	表: VR実習を通し、多職種協働の場面を体験する。 裏: ジレンマ課題に取り組み、答えの出ない課題を体験する。 到達目標		
5	1) 多職種連携の場面を視聴覚教材を用いて視聴し、ワークシートを完成させることができる。 2) ジレンマ課題に取り組み、自他の課題を周囲と共有する為のワークシートを完成させることができる。	演習	VRを用いた演習を実施する ジレンマ課題を用いたグループワークを実施する ※他学科との合同授業
	・事例課題①: 事例に対する思考を共有することで、自他の観点の違いを体感する。 到達目標		
6	1) テーマに沿った学習を行い、成果物を完成、提出することが出来る。 2) 人々が対峙する食に関する困りごとや不便とは何かを、編成されたグループで協議し、対象者に自職種がどのような関わりが出来るかを考えて、他職種と共有できる。	講義/演習	課題に対するワークを行い、その成果物を他職種と共有し、観点の違いを知る。 ※他学科との合同授業、もしくは単科
	・事例課題②: 事例に対する思考を共有することで、自他の観点の違いを体感する。 到達目標		
7	1) テーマに沿った学習を行い、成果物を完成、提出することが出来る。 2) 人々が対峙する食に関する困りごとや不便とは何かを、編成されたグループで協議し、対象者に自職種がどのような関わりが出来るかを考えて、他職種と共有できる。	講義/演習	課題に対するワークを行い、その成果物を他職種と共有し、観点の違いを知る。 ※他学科との合同授業、もしくは単科
8	筆記試験	試験・振り返り	多職種連携論 I のまとめとして 終講試験を受ける

■受講上の注意

おおかた、シラバス通りの講義日程で開講するが、協同する学科、企業等との調整の関係で日程が前後することもある。

■成績評価の方法

授業内に作成した成果物(ワークシート、ポスター等)と筆記試験の合計得点で算出する。欠席時の回の課題は、自ら取りに来て取り組みの後に提出すること。未提出の場合、その回の得点は加算しない。
100点満点中60点以上をもって合格とし、満たなかった場合に再試験を実施する。

■テキスト参考書など

- ・配布資料、ワークシート
- ・JOLLYGOOD+

■備考

VR使用の際に、ヘッドマウントディスプレイで気分不良を訴える場合は、2Dで個別に映像を視聴する場合もある。

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

多職種連携論Ⅱ

講師: 山下 喬之

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

科目のテーマ「何のための誰の為の多職種連携か」

教育目標: 保健、医療、福祉及び患者に関わる全ての人々の役割を理解し、連携する方法を学ぶ

行動目標:

- 1 多職種連携における対立・葛藤・意見調整(コンフリクトマネジメント)について説明できる
- 2 事例に対するシミュレートを通して、主体的な問題解決へ向けて自分自身の能力を知る
- 3 多職種連携の意義を説明できる

○科目を履修することで獲得できる態度・知識・技能

- 1) 他者と協働する際のコンフリクトに対する具体的な行動の方法を獲得できます。
- 2) 多職種協働した働き方のメリットとデメリットを理解することが出来るようになります。
- 3) 将来現場で行う協議・カンファレンスを、実際の多職種を合同でシミュレートすることが出来ます。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
	1) 多職種連携の必要性和チームの概要説明 ねらい: 多職種連携論Ⅰで学習した内容を想起し、多職種連携の必要性和チームの理解を深め、課題に対する解答を表出することが出来る。 方法: パワーポイントスライドショーと講義資料を使用して、一斉講義を行う。		
	2) VRカンファレンスへの参加 ねらい: 実際に多職種で行われるカンファレンスに実習生視点で疑似参加し、雰囲気を感じて学習意欲を高める。 方法: VR使用した360°映像教材の視聴(30名)	一斉講義 持参 VR演習 講義資料 シンクペ 筆記用具 アシェア	
1	※副科目として、VR視聴の30名以外の30名は、「よりよいチームとは」の課題作成に取り組む。		
	3) コンフリクトの概要理解 ねらい: VRで体感したカンファレンス時の職員同士のコンフリクト現象を列挙し、講義を受講して、チーム内における対立・葛藤・意見調整(コンフリクト)について考え、コンフリクトの長所と短所を説明できる。 方法: パワーポイントスライドショーと講義資料を使用して、一斉講義を行う。		
	1) 多職種連携の課題の理解 ねらい: 前回授業の内容を振り返り、多職種連携の課題を抽出する。 方法: パワーポイントスライドショーと講義資料を使用して、一斉講義を行う。		持参物 ・講義資料、事例集 ・筆記用具
	2) 課題の共有 ねらい: 各個で感じた事象を共有し、解説を通して多職種連携の課題の要素を理解する。	一斉講義/ ラウンド ロビン/ クリティ カルディ ベート	・PC (Wi-Fi ID: IHG-Public-G / パス: Igh2694b)
2	方法: Slidoを使用して意見の表出と集約の後に、教員による解説を実施する。	課題 ADL1) 洗い終わった洗濯物を干す ADL2) 食材買い出しの為の買い物 ADL3) 調理 ADL4) 風呂掃除と入浴 QOL) 家族のお墓参り	
	3) 事例に対するディスカッション ねらい: 何のため、誰のためのIPEか? を事例を通して再考し、自らの職種、他の職種の観点を共有しながら、事例に対して設定された問いの答えを表出することが出来る。 方法: パワーポイントスライドショーと講義資料を使用した事例の説明、グループディスカッションを行う。		
	1) 疑似カンファレンスの実施 ねらい: 異なる役割の視点からそれぞれの解を考えだし、折り合いをつけた解を導く流れを体験する 方法: 理学療法士1~2名、作業療法士1名、家族1名の役割を作成。自らの立場での解を表出する。	持参物 ・講義資料、事例集 ・筆記用具 ・PC (Wi-Fi ID: IHG-Public-G)	
3	2) リーフレットの作成 ねらい: ADL(日常生活活動)をテーマに、理学療法士・作業療法士の観点から事例に対して設定された課題5点に対するチームの最善解から、対象者へ提供するためのリーフレットを作成する。 方法: グループ内のメンバーに役割を設定し、カンファレンスを実施する。①まずは自分の役割の解を提示する。②次に他者の解を折り合いをつける。③解をまとめ、対象者へ提供するためのリーフレットを作成する。	一斉講義/ ラウンド ロビン/ クリティ カルディ ベート	課題 ADL1) 洗い終わった洗濯物を干す ADL2) 食材買い出しの為の買い物 ADL3) 調理 ADL4) 風呂掃除と入浴 QOL) 家族のお墓参り

4	1)疑似カンファレンスの実施 ねらい:異なる役割の視点からそれぞれの解を考えだし、折り合いをつけた解を導く流れを体験する 方法:理学療法士1~2名、作業療法士1名、家族1名の役割を作成。自らの立場での解を表出する。	ラウンド ロビン/ バズグ ループ/ ジグソー / ロールブ レイ	持参物 ・講義資料、事例集 ・筆記用具 ・PC (Wi-Fi ID:IHG-Public-G)
	2)リーフレットの作成 ねらい:ADL(日常生活活動)をテーマに、理学療法士・作業療法士の観点から事例に対して設定された課題5点に対するチームの最善解から、対象者へ提供するためのリーフレットを作成する。 方法:グループ内のメンバーに役割を設定し、カンファレンスを実施する。①まずは自分の役割の解を提示する。②次に他者の解を折り合いをつける。③解をまとめ、対象者へ提供するためのリーフレットを作成する。		課題 ADL1) 洗い終わった洗濯物を干す ADL2) 食材買い出しの為の買い物 ADL3) 調理 ADL4) 風呂掃除と入浴 QOL) 家族のお墓参り
5	情報共有・交換会 ねらい:各グループで作成されている現状の情報を共有し、自班に戻り、制作しているリーフレットに反映させ、質を高める。 方法:他班の良いところ、参考になったところをメモし、自らのグループで制作中の課題に反映させる。	ポスター ツアー/ ジグソー	持参物 ・講義資料、事例集 ・筆記用具 ・PC (Wi-Fi ID:IHG-Public-G)
	1)疑似カンファレンスの実施 ねらい:異なる役割の視点からそれぞれの解を考えだし、折り合いをつけた解を導く流れを体験する 方法:理学療法士1~2名、作業療法士1名、家族1名の役割を作成。自らの立場での解を表出する。		持参物 ・講義資料、事例集 ・筆記用具 ・PC (Wi-Fi ID:IHG-Public-G) / パス:Igh2694b)
6	2)リーフレットの完成 ねらい:ADL(日常生活活動)をテーマに、理学療法士・作業療法士の観点から事例に対して設定された課題5点に対するチームの最善解から、対象者へ提供するためのリーフレットを完成させる。 方法:グループ内のメンバーに役割を設定し、カンファレンスを実施する。 ①まずは自分の役割の解を提示する。②次に他者の解を折り合いをつける。③解をまとめ、対象者へ提供するためのリーフレットを作成する。	ラウンド ロビン/ バズグ ループ/ ジグソー / ロールブ レイ	課題 ADL1) 洗い終わった洗濯物を干す ADL2) 食材買い出しの為の買い物 ADL3) 調理 ADL4) 風呂掃除と入浴 QOL) 家族のお墓参り
	7 発表		ポスターツアー 自班で制作したリーフレット
8	筆記試験、まとめ	筆記試験/ 解説	

■受講上の注意

おおかた、シラバス通りの講義日程で開講するが、協同する学科、企業等との調整の関係で日程が前後することもある。

■成績評価の方法

授業内に作成した成果物(ワークシート、ポスター等)と筆記試験の合計得点で算出する。
100点満点中60点以上をもって合格とし、満たなかった場合に再試験を実施する。

■テキスト参考書など

- ・配布資料、ワークシート
- ・JOLLYGOOD+

■備考

VR使用の際に、ヘッドマウントディスプレイで気分不良を訴える場合は、2Dで個別に映像を視聴する場合もある。

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

多職種連携論Ⅲ

講師: 山下 喬之

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

教育目標: 教育目標: 専門職として、自他職の理解ができる

行動目標

- 1) 自職種を顧みることが出来る
- 2) 一員としての自覚のある言動をとることができる。
- 3) チーム内での多職種との関係性および自職種としての役割、職場における自職種の役割と責任について理解する
- 4) 他職種の専門性と役割を理解できる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	・シラバスを用いて、自らで科目目標と各回の到達目標を確認することができる。 ・多職種連携コンピテンシーを確認し、対象者中心で進める支援に必要となる関連職種間に必要となるコミュニケーションや他職種の理解、態度等を理解して説明できる。	講義、演習	
2	IPW、IPEの課題と歴史 ・IPEの歴史を理解し、各専門職を説明ができる。	講義、演習	
3	自分たちが暮らす地域包括ケアを知る ・地域で行われている地域包括支援センターや行政の情報を調べる。 ・様々な住まい方について説明ができる。	講義、演習	
4	長期療養施設におけるチームマネジメント1 ・課題に取り組み、説明ができる。	講義、演習	
5	長期療養施設におけるチームマネジメント2 ・課題に取り組み、説明ができる。	講義、演習	
6	急性期病棟におけるチームマネジメント1 ・課題に取り組み、説明ができる。	講義、演習	
7	急性期病棟におけるチームマネジメント2 ・課題に取り組み、説明ができる。	講義、演習	
8	筆記試験、まとめ	筆記試験/ 解説	

■受講上の注意

知識獲得よりも、多職種共同の概念理解、他者理解の概念理解を学習する目的を主眼において履修してください。他者の価値、観点を意識して合同授業に臨んでください。

■成績評価の方法

ワークシート、ポスター、プレゼンテーションデータを40点分。筆記試験を60点分の100点満点で換算し、60点以上を合格とし、不合格者には再試験の結果をもって判定する。

■テキスト参考書など

配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として実務経験のある教員による授業である。

理学療法概論 I

講師: 山下 喬之

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

理学療法士の基礎を学ぶ入門科目という位置づけです。授業では、理学療法士の役割や定義、歴史、関連法規、疾病・障害の捉え方、多様な理学療法の領域（運動療法、物理療法、日常生活、補装具、地域、産業）を学習します。また、臨床実習に向けた実習の目的や流れ、必要な準備（自己PR、目標設定、様式理解）を実施します。講義とグループワークを通して、理学療法士に必要な知識と技能を体系的に学びます。

○科目を履修することで獲得できる態度・知識・技能

- 1) 理学療法の定義、歴史、関連する法規等を理解して説明できるようになります。
- 2) 理学療法の柱である運動療法と物理療法にはどのようなものがあるか理解して説明できるようになります。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1. 授業オリエンテーション 2. 仕事としての「理学療法」を知り、自らが理学療法士として働く意味を考える。 理学療法の仕事のイメージを周囲と共有し、講義を受講して改めて理学療法とは何か、理学療法士とは何かの理解を深める。加えて、理学療法の技術（理学療法を構成する柱（運動療法、物理療法、ADL練習、補装具療法）を知る。	講義/GW	・テキストを持参すること ・配布資料を使用
2	到達目標 1) 授業の概要と方法を理解する。 2) 専門学校入学段階における自らの「理学療法士」に対するイメージを表出することが出来る。 3) 対話を通し、グループメンバーの既有知識で理学療法士の定義を作成、発表することが出来る。 リハビリテーションと理学療法、理学療法の歴史と理念を理解する。また、理学療法士および作業療法士法に明記されている「理学療法の定義」を基に、テキストと教室環境を利用して、運動療法と物理療法の概要を理解する。 講義において、理学療法の歴史と理念を解説し、グループワークを通して知識を共有する。	講義	・テキストを持参すること ・配布資料を使用
3	到達目標 1) 理学療法の起源と日本の理学療法に関する歴史の概要について説明できる。 2) 理学療法に関わるEBMとVBMについて理解し説明することが出来る。 3) 運動療法の目的と手段を説明できる。 4) 物理療法の目的と手段を説明できる。 理学療法に関連する法規等と学習して理解する。	講義	・テキストを持参すること ・配布資料を使用
4	到達目標 1) 理学療法士および作業療法士法の概要を説明することが出来る。 2) 日本の医療保険・介護保険の仕組みの概要を説明することが出来る。 3) 診療報酬の概要について説明することが出来る。 4) 理学療法に関連する懲罰等の概要について説明することが出来る。 疾病と障害に対する視点を学習して理解する。	講義/GW	・テキストを持参すること ・配布資料を使用
5	到達目標 1) 理学療法の定義を基に、日常生活に介入する理学療法と補装具療法、地域理学療法、産業理学療法の概要を理解する。	講義/GW	・テキストを持参すること ・配布資料を使用
6	到達目標 1) 理学療法士が日常生活に介入する目的と手段を説明できる。 2) 補装具療法の目的と手段を説明できる。 3) 地域理学療法の目的と手段を説明できる。 4) 産業理学療法の概要について説明できる。 臨床実習対策① 見学実習の目的と到達目標を確認し、実際の実習の流れを理解する。	講義/GW	・テキストを持参すること ・配布資料を使用
6	到達目標 1) 臨床実習 I（臨床見学体験実習）の目的と到達目標を理解して説明することができる。 2) 実習時の1日の流れを理解して説明することが出来る。 3) 実習時の注意事項を理解して説明することが出来る。	講義/GW	・臨床実習マニュアル ・配布資料を使用

臨床実習対策②

見学実習に必要な様式等を理解し、実習中の指導者とやり取りの概要を理解する。

7 到達目標

- 1)自己PRと実習目標を記したガイドを作成することが出来、ポートフォリオに綴ることが出来る。
- 2)実習時に必要となる様式を把握して説明することが出来る。
- 3)実習時に提出する必要がある様式を把握して説明することが出来る。

講義/GW ・臨床実習マニュアル
・配布資料を使用

8 本試験と振り返り

試験・振り返り 理学療法概論Ⅰのまとめとして終講試験を受ける

■受講上の注意

テキストベースの講義になります。試験の出題範囲もテキストからが主となりますので、テキストとテキストに注釈を記録するボールペン、蛍光ペンを持参してください。

Formsを使用することがあります。スマートフォンを持参してください。

基本的にシラバスの単元の実施順序は守りますが、授業中の対話の意味内容や文脈に合わせて、前後することがあります。

※臨床実習Ⅰ(臨床見学体験実習)に関する6、7コマ目の内容は実習の日程に合わせて時間割を変更して実施する事があります。

■成績評価の方法

1. 本試験点数と合わせる課題は、事前に通達する。(製作したポスターなど)
2. 本試験は、授業中課題と筆記試験の成果を合わせた100点満点で構成する。合格は60点以上とし、不合格者には再試験を筆記試験にて実施する。

■テキスト参考書など

理学療法概論 第1版 羊土社

■備考

楽しくて、実りがあって、学習者それぞれにとって「意味」のある授業を、共に作りましょう。

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

理学療法概論Ⅱ

講師: 山下 喬之

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

理学療法士としてのキャリア形成と臨床実習準備を目的とした科目です。授業では、自己の目標・目的の再考、将来設計、臨床思考の基盤となる論理的思考力を養います。特に、概念地図作成では外傷や転倒といった事例を用い、実践的な思考を表出するトレーニングを行います(ブレインストーミング、KJ法、マンダラート、概念地図)。また、検査測定体験実習に向け、実習目標の設定、必要書類の理解と作成、指導者との連携方法等、具体的な準備を行います。

○科目を履修することで獲得できる態度・知識・技能

- 1) 自らのキャリアを考えることが出来るようになり、事象に対する目的と目標の違いを理解できるようになります。
- 2) 臨床推論につながるロジカルシンキングの技法を習得できます(ブレインストーミング/KJ法/マンダラート/概念地図作成法)。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1.	授業オリエンテーション 2. 理学療法士になる目的と目標を再考し、卒後のキャリアを再考する。		
1	到達目標 1) 授業の概要と方法を理解する。 2) 目標と目的の違いを理解して説明することが出来る。 3) 人材と人財の違いを理解して説明することが出来る。 理学療法リテラシー・ロジカルシンキング① 思考を表出するトレーニングを実施し表出する技術を修得する。	講義	・配布資料、ワークシートを使用
2	到達目標 1) ブレインストーミングのルールを理解し、自らの頭と心の中にある概念を表出することが出来る。 2) 表出した概念でワークシートを作成し、提出することが出来る。 理学療法リテラシー・ロジカルシンキング② 表出した概念を整理する技術を修得する。	講義	・配布資料、ワークシートを使用 ・思考法のトレーニングなので、技術獲得を目的とし、写真と動画見て感じたことを思考して表出、対話を通して解を出すプロセスを繰り返します。
3	到達目標 1) KJ法のルールを理解し、自らで表出した概念を整理して命名することが出来る。 2) 実施したKJ法の成果を、提出することが出来る。 理学療法リテラシー・ロジカルシンキング③ 表出した概念を整理する技術を修得する。	講義・GW	・配布資料、ワークシートを使用 ・思考法のトレーニングなので、技術獲得を目的とし、写真と動画見て感じたことを思考して表出、対話を通して解を出すプロセスを繰り返します。
4	到達目標 1) マンダラートのルールを理解し、すべてのマスを埋めて提出することが出来る。 2) 概念地図の作成法を理解し、提示された課題に対する概念地図を作成することが出来る。 理学療法リテラシー・ロジカルシンキング④ 表出した概念を整理する技術を修得する。	講義・GW	・配布資料、ワークシートを使用 ・思考法のトレーニングなので、技術獲得を目的とし、写真と動画見て感じたことを思考して表出、対話を通して解を出すプロセスを繰り返します。
5	到達目標 1) 外傷の写真を対象とした課題に対する概念地図を作成することが出来る。 2) 転倒の動画を対象とした課題に対する概念地図を作成することが出来る。 臨床実習対策① 検査測定体験実習の目的と到達目標を確認し、実際の実習の流れを理解する。	講義・GW	・配布資料、ワークシートを使用 ・思考法のトレーニングなので、技術獲得を目的とし、写真と動画見て感じたことを思考して表出、対話を通して解を出すプロセスを繰り返します。
6	到達目標 1) 臨床実習Ⅱ(検査測定体験実習)の目的と到達目標を理解して説明することが出来る。 2) 実習時の1日の流れを理解して説明することが出来る。 3) 実習時の注意事項を理解して説明することが出来る。 臨床実習対策② 検査測定体験実習に必要な様式等を理解し、実習中の指導者とやり取りの概要を理解する。	講義	・配布資料 ・臨床実習マニュアル
7	到達目標 1) 自己PRと実習目標を記したガイドを作成することが出来、ポートフォリオに綴ることが出来る。 2) 実習時に必要となる様式を把握して説明することが出来る。 3) 実習時に提出する必要がある様式を把握して説明することが出来る。	講義・実技	・配布資料 ・臨床実習マニュアル
8	本試験と振り返り	試験・振り返り	理学療法概論Ⅱのまとめとして終講試験を受ける

■受講上の注意

対話型学習、課題に対する成果物作成が主体となる授業の為、参加することに意義が存在する。協働学習に臨む心得を大切に
とらえてもらいたい。

欠席時の回の課題は、自ら取りに来て取り組みの後に提出すること。未提出の場合、その回の得点は加算しない。

※臨床実習Ⅱ(臨床検査測定体験実習)に関する6、7コマ目の内容は実習の日程に合わせて時間割を変更して実施する事があります。

■成績評価の方法

最終コマで実施する筆記試験結果とBS(10点分)、KJ法(10点)、マンドラート(10点)、概念地図(10点)を合算して得点で総合結果を算出します。

※提出物の配点が大半を占めるので欠席者は必ず事後に様式をもらいに来て、提出するようにしてください(授業日から1週間以内)。

■テキスト参考書など

#1. 配布資料

#2. 臨床実習マニュアル

■備考

楽しくて、実りがあって、学習者それぞれにとって「意味」のある授業を、共に作りましょう。

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

理学療法概論Ⅲ

講師：山下 喬之

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

当該科目は、1年次の理学療法概論Ⅰ、2年次の理学療法概論Ⅱのまとめにあたるもので、3・4年次に履修する総合臨床実習につながる「実践的な臨床思考」と「実践的なリスク管理」を学習する事を目的とする。

授業は、理学療法を行う上で遭遇する“問題”の捉え方と、問題を解決するための思考を具体的技法(概念地図作成法)を用いて学習する。加えて、考えたり実施したことを論理的に記録する技法(SOAP記述法)を学習する。特に、事例に対する検査測定項目の列挙、その目的の確認の重要性を知り、リスク管理の観点も含んだ総合的な体験を通して「考えたことを実行に移すことが出来るか(適用・実践できるか)」というプロセスを体験する(トップダウン型思考を中心に)。

○科目を履修することで獲得できる態度・知識・技能

- 1)現場における医療事故に対する観点、知識、スタンダードプリコーション、SBARの技能を修得できます。
- 2)理学療法評価の実施時に必要となる、トップダウンとボトムアップの観点を理解できます。
- 3)臨床推論の基礎を理解し、事例に対する概念図を作成できるようになります。
- 4)臨床現場での記録の必要性和重要性を理解し、事例に対する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
	1.授業オリエンテーション 2.理学療法士になる目的と目標を再考し、卒後のキャリアを再考する。		
1	到達目標 1)授業の概要と方法を理解する。 2)医療安全の概要を学習し、科目における学習の要点を把握する。 3)今後の臨床実習の流れを学習し、実習の概要を把握する。 臨床現場におけるリスク管理について理解する	講義	・前年度の学習成果物を用いて説明 ・配布資料
2	到達目標 1)「医療事故」という概念を理解して、関連する用語定義を説明することが出来る。 2)通常使用する「事故」について説明することが出来る。 3)リハビリテーションに関連する「事故」について説明することが出来る。 医療事故を防ぐ要素の1つである医療安全コミュニケーションとその重要性について学ぶ。	講義・GW	・配布資料 ・ワークシート
3	到達目標 1)医療事故とコミュニケーションの関連性について理解して説明することが出来る。 2)SBARの概要を理解し、SBARワークシートを作成することが出来る。 感染症の理解と対策の具体的な方法を修得する	講義・GW	・配布資料 ・ワークシート
4	到達目標 1)病原体と感染の概要について理解して説明することが出来る。 2)接触感染、飛沫感染、空気感染を理解して説明することが出来る。 3)ガウン・ゴーグル・マスク・手袋の着脱の手順を理解して説明することが出来る。 3年次の臨床実習Ⅳ(評価実習)、4年次の臨床実習Ⅴ(長期実習Ⅰ・Ⅱ)の概要を理解する	講義	・配布資料 ・ワークシート
5	到達目標 1)臨床実習Ⅳと臨床実習Ⅴの目的を理解して説明することが出来る。 2)実習にあたり必要となる臨床思考「トップダウンとボトムアップ」について理解して説明することが出来る。 3)実習時に記録、作成、提出が必要な媒体(ディリー/クリニカルレコード/体験症例報告書/その他レポート等)を理解して説明することが出来る。 理学療法に関連する「教育」について、その概要を理解する	講義	事例に対する概念地図を作成し、提出する。 ・配布資料 ・臨床実習マニュアルのコピー ・ワークシート
6	到達目標 1)教育とは何か、臨床実習教育とは何か。その必要性和価値を理解して説明することが出来る。 2)教育を受ける側の立場として、どのような学習者像が理想かを表出して協議し、自らに置き換えて考えることが出来る。 3)成績報告書のルーブリックを参考に、自らの到達度を確認することが出来る。	講義・GW	・配布資料 ・臨床実習ルーブリック

理学療評価法の原点に戻り、概念地図を使用した臨床思考と臨床推論を学習する

到達目標

- 1) 理学療法評価を行う中で、臨床推論を繰り返しながら診断するプロセスを理解して説明することが出来る。
- 2) 対象者の状態から「どこで」「何が起きているか」を推論し、概念地図に表記して文章化することが出来る。

事例

- 7
- ① 変形性膝関節症に対する痛みと可動域制限の関連、必要な検査測定
 - ② 腰椎椎間板ヘルニアの患側下肢の筋力低下と異常感覚の関連、必要な

検査測定

- ③ 脳卒中片麻痺(下肢BRSⅢ)の痙縮とぶんまわし歩行の関連、必要な検査測定
- ④ スポーツ選手の膝内側部痛とニーイン動作の関連、必要な検査測定

手順

- 1) 提示された課題に対し、チームでブレインストーミングを実施し、概念を抽出する。
- 2) 抽出された概念をKJ法を用いて再配置し、ワークシートを完成させる。
- 3) KJ法の結果を元に、個人で概念地図を作成して提出する。

理学療評価法の原点に戻り、概念地図を使用した臨床思考と臨床推論を学習する

到達目標

- 1) 理学療法評価を行う中で、臨床推論を繰り返しながら診断するプロセスを理解して説明することが出来る。
- 2) 対象者の状態から「どこで」「何が起きているか」を推論し、概念地図に表記して文章化することが出来る。

事例

- 8
- ① 変形性膝関節症に対する痛みと可動域制限の関連、必要な検査測定
 - ② 腰椎椎間板ヘルニアの患側下肢の筋力低下と異常感覚の関連、必要な

検査測定

- ③ 脳卒中片麻痺(下肢BRSⅢ)の痙縮とぶんまわし歩行の関連、必要な検査

測定

- ④ スポーツ選手の膝内側部痛とニーイン動作の関連、必要な検査測定

手順

- 1) 提示された課題に対し、チームでブレインストーミングを実施し、概念を抽出する。
- 2) 抽出された概念をKJ法を用いて再配置し、ワークシートを完成させる。
- 3) KJ法の結果を元に、個人で概念地図を作成して提出する。

事例に対する概念地図を作成し、提出する。

- ・配布資料
- ・ワークシート

具体的方法

- 講義・GW
- 1) 付箋を用いてBSをおこなう(A3の紙使用)。
 - 2) KJ法を用いて付箋を貼り直し、整理する。
 - 3) KJ法の結果に必要な事項を書き込む。
- 以上の過程で作成した概念地図を学習成果物として提出する。

事例に対する概念地図を作成し、提出する。

- ・配布資料
- ・ワークシート

具体的方法

- 講義・GW
- 1) 付箋を用いてBSをおこなう(A3の紙使用)。
 - 2) KJ法を用いて付箋を貼り直し、整理する。
 - 3) KJ法の結果に必要な事項を書き込む。
- 以上の過程で作成した概念地図を学習成果物として提出する。

■受講上の注意

前半は医療安全に関連する講義、後半は臨床実習の検査測定と思考方法、理学療法評価の記録に関する演習形式になります。後半は実技の出来る格好と物品の準備を自分たちでして授業に臨んでください。

■成績評価の方法

最終コマで実施する筆記試験結果とSBAR(10点分)、KJ法ポスター(10点)、概念地図(10点)、クリニカルレコード(40点)を合算して得点で総合結果を算出します。欠席時の回の課題は、自ら取りに来て取り組みの後に提出すること。未提出の場合、その回の得点は加算しない。
※提出物の配点が大半を占めるので欠席者は必ず事後に様式をもらいに来て、提出するようにしてください(授業日から1週間以内)。

■テキスト参考書など

- #1. 理学療法評価学
- #2. 配布資料
- #3. 臨床実習マニュアル

■備考

楽しくて、実りがあって、学習者それぞれにとって「意味」のある授業を、共に作りましょう。

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

理学療法コミュニケーション論

講師: 松木 陽一

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

医療・保健・福祉など多種多様な分野に関わる理学療法士にとって、コミュニケーションは必要不可欠である。
この授業では、接遇におけるコミュニケーションだけではなく、他者とのコミュニケーションプロセスの基礎を学習する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	コミュニケーションの基本的な考え方 ・コミュニケーションを考える視点を学習する。	講義実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
2	コミュニケーションの基本的な考え方 ・コミュニケーションの役割について学習する。	講義実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
3	他者との関係を築くコミュニケーション ・コミュニケーションの要素を学習し、コミュニケーションにおけるメッセージ伝達の手段について学習する。	講義実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
4	他者との関係を築くコミュニケーション ・好感・信頼感を高める言語表現や非言語表現、立ち居振る舞いについて学習する。	講義実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
5	他者との関係を築くコミュニケーション ・敬意を伝えるコミュニケーションについて学習する。	講義実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
6	対象者の理解と情報の交換、行動化の支援 ・相手を受容し、共感するために必要なコミュニケーションスキルについて学習する。	講義実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
7	対象者の理解と情報の交換、行動化の支援 ・苦情・クレームの背景の理解と心構えについて学習する。 ・苦情・クレーム対応のスキルについて学習する。	講義実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
8	対象者の理解と情報の交換、行動化の支援 ・他者に対する説明や同意の確認の仕方について学習する。	講義実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
9	対象者の理解と情報の交換、行動化の支援 ・主体的な選択や行動を引き出す、コーチングの基礎知識について学習する。	講義実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
10	対象者の理解と情報の交換、行動化の支援 ・コーチング・コミュニケーションのステップと支援活動について学習する。	講義実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
11	対象者の理解と情報の交換、行動化の支援 ・主体的な選択や行動を引き出す、コーチング・コミュニケーションのコアスキルについて学習する。	講義実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
12	チームワークとコミュニケーション ・チームの一員として仕事を進めるために必要な要素について学習する。 ・よりよいチームワークのためのマナーとコミュニケーションについて学習する。	講義演習	配布する資料を事前に確認しておくこと
13	チームワークとコミュニケーション ・3つの自己表現スタイルとコミュニケーションのスタイルについて学習する。 ・アサーティブなコミュニケーションについて学習する。	講義演習	配布する資料を事前に確認しておくこと
14	その人らしさを大切にするコミュニケーション ・視聴覚言語障害を持つ被援助者とのコミュニケーションについて学習する。 ・認知症の被援助者とのコミュニケーションについて学習する。	講義演習	配布する資料を事前に確認しておくこと
15	本試験 解説	試験	

■受講上の注意

理学療法士としても人としてもコミュニケーションは非常に重要となります。積極的に講義に参加する。

■成績評価の方法

授業中の態度・レポート・試験の結果の統合評価とし、合格基準は6割以上とする。それ以下は不合格とする。

■テキスト参考書など

1. ケア・コミュニケーション
2. PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド

■備考

■実務経験

本講義は理学療法士として実務経験を有する者が行う講義である。

理学療法基本動作論

講師：川元 大輔

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

理学療法士は、身体の機能障害を抱えた患者様に、基本動作（寝返り・起き上がり・立ち上がり・移乗・歩行）や日常生活の改善につなげ、生活の質を改善させる職種である。基本動作は、健康であれば普段何気なく当たり前に行われている動作であるが、上肢・下肢・体幹の機能が複合されている。本授業では、基本動作の力学的観点や機能を学習し、実技を通して理学療法士の職業理解を深め、今後学習する疾患の病態や理学療法評価、治療につなげることを目的とする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	理学療法士の実務を理解し、基本動作の必要性を説明できる。	講義	配布資料と授業ファイルを準備すること。
2	動作を観察する際に必要な運動面と運動軸を理解し、基本的な関節運動を述べることができる。	講義・実技	実習着で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
3	動作観察に必要な支持基底面と重心を理解し、互いの関係性を説明できる。	講義・実技	実習着で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
4	寝返り動作の正常を把握し、寝返りに含まれる上肢・下肢・体幹の機能を理解することができる。	講義・実技	実習着で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
5	寝返り動作の正常を把握し、寝返りに含まれる上肢・下肢・体幹の機能を理解することができる。	講義・実技	実習着で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
6	寝返り動作の確認項目を整理し、動作遂行困難な症例から原因を列挙できる。	講義・実技	実習着で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
7	起き上がり動作の正常を把握し、起き上がりに含まれる上肢・下肢・体幹の機能を理解することができる。	講義・実技	実習着で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
8	起き上がり動作の確認項目を整理し、動作遂行困難な症例から原因を列挙できる。	講義・実技	実習着で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
9	正常な安静時立位の指標を理解し、互いにアライメントを確認することができる。立位の構えと作業、活動との関係を知ることができる。立ち上がり動作の正常を把握し、立ち上がりに含まれる上肢・下肢・体幹の機能を理解することができる。	講義・実技	実習着で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
10	立ち上がり動作の確認項目を整理し、動作遂行困難な症例から原因を列挙できる。	講義・実技	実習着で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
11	歩行に関連する用語を把握し、立脚相・遊脚相中の下肢関節の動きを理解することができる。また、歩行に関わる力学を理解し、重心や支持基底面と絡め、効率化を理解することができる。	講義・実技	実習着で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
12	歩行の確認項目を整理し、動作遂行困難な症例から原因を列挙できる。	講義・実技	実習着で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
13	移乗動作を理解し、介助の方法を模倣することができる。	講義・実技	事前課題を出しますので、必ず遂行して授業に臨むこと。実習着で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
14	移乗動作をする上で、注意点を確認し、共同学習にて内容を整理することができる。また、注意点を理解して、正しい移乗含む介助動作を修得することができる。	講義・実技	実習着で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。授業ではデジタル教材を使用するため、携帯等実技試験までには一定の期間を設けるため、自己学習時間を設けて練習すること。
15	筆記・実技試験		

■受講上の注意

実技時の白衣など忘れ物がないように注意すること

■成績評価の方法

筆記試験50点、実技試験50点、合計100点で評価をおこない、60点以上を合格、未満を不合格とする

■テキスト参考書など

テキストⅠ：動作分析 臨床活用講座メディカルビュー社

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

理学療法学総論

講師:専任教員全員

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

長期実習において、症例の病態や症状、経過や予後予測などを事前に学習しておくことは、非常に重要である。

学生の現有能力を確認するために客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination:OSCE)を実施する。

対策学習と検定を通し、課題として提示された事例を学び、理学療法評価と理学療法治療プログラムの立案に必要な臨床推論と技能を経験する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	授業オリエンテーション 課題提示	講義	OSCEに向けた導入と課題の理解
2	事例に対する個別学習①	講義・個別学習	事例に対する疾病と障害像の理解を深める
3	事例に対する個別学習②	講義・個別学習	疾病と障害像を基本とした個人学習 ワークシートを作成する
4	事例に対する協同学習①	GW・ポスター制作	個人で制作したワークシートを持ち 寄り、グループで協働して理解を深 める。
5	事例に対する協同学習②	GW・ポスターツアー	作成したポスターを掲示し、他グルー プと情報共有、対話を行う。
6	運動器疾患に関する課題① ・変形性関節症等	GW・実技	成果物は、デジタルデータ化し、全員 更なる知識と技能の向上を目的と し、検定とは別に準備された事例の 学習を行う。
7	運動器疾患に関する課題② ・骨折等	GW・実技	更なる知識と技能の向上を目的と し、検定とは別に準備された事例の 学習を行う。
8	神経系疾患に関する課題① ・脳卒中後遺症等	GW・実技	更なる知識と技能の向上を目的と し、検定とは別に準備された事例の 学習を行う。
9	神経系疾患に関する課題② ・パーキンソン病等	GW・実技	更なる知識と技能の向上を目的と し、検定とは別に準備された事例の 学習を行う。
10	内部疾患に関する課題 ・糖尿病等	GW・実技	更なる知識と技能の向上を目的と し、検定とは別に準備された事例の 学習を行う。
11	その他疾患に関する課題 ・脳性麻痺等	GW・実技	更なる知識と技能の向上を目的と し、検定とは別に準備された事例の 学習を行う。
12	OSCEオリエンテーション	講義	検定試験時の方法、実施後の振り返 り学習に関するオリエンテーションを 実施する。
13	検定	実技試験	検定要領に従って試験を受験する
14	実施後振り返り学習①	GW・ポスター制作	検定者が撮影した動画を視聴し、GW を通して課題に対するポスターを制 作する。
15	実施後振り返り学習②	講義・個別学習	検定実施後にグループで行った振り 返りを参考に、自分の動画を視聴し て、個人の振り返りシートを制作す

■受講上の注意

グループ学習と実技を中心に授業を進めるため、体調不良等で欠課がないように自己管理すること。

動きやすい服装で練習に臨むこと。

■成績評価の方法

事前課題、実技試験結果、振り返りで制作した学習成果物を合わせた総合評価で判定する。

■テキスト参考書など

PTOTのための臨床技能とOSCE 第二版補訂版

実践!動作分析 第二版

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

理学療法管理学

講師: 鮫島 淳一、山下 喬之

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

質の高い理学療法を提供するため、「保健、医療、福祉に関する制度の理解」、「組織運営に関するマネジメント」、「理学療法倫理」、「理学療法教育」についてディスカッションを交えながら理解を深める。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
	チーム医療、多職種協働の概要を学習し、理解する		
1	到達目標 1) チームとは何か、グループとは何かを理解して説明することが出来る。 2) 保健・医療・福祉のフィールドにおいて、理学療法士と関わる他職種にはどのような専門職があるか説明することが出来る。 3) 多職種連携の必要性和その背景、用語の定義について説明することが出来る。 多職種協働事例演習 脳卒中後遺症の片麻痺患者に対するチーム医療の実際を協議する	講義・GW 配布資料 (担当: 山下)	
2	到達目標 1) 脳卒中の概要について説明することが出来る。 2) 脳卒中に対するボツリヌス療法について説明することが出来る。 3) ボツリヌス療法が処方された対象者に理学療法士と作業療法士がどの様に関わるかを理解して説明することが出来る。 多職種協働VR演習/コンフリクトの概要理解	講義・演習 配布資料 (担当: 山下)	
3	到達目標 1) コンフリクトの事例を検討し、コンフリクトとは何かを理解して課題を作成して提出することが出来る。 2) ボツリヌス療法の360°映像を2Dスクリーンで視聴し、医師の診療を見学する事が出来る。 3) VRデバイスの使用演習を通して、ヘッドマウントディスプレイの使用方法を習得する。 表: ボツリヌス療法前後の理学療法士と作業療法士の評価を見学する。 裏: 事例検討「何のための誰の為の多職種連携か」についてレポートを作成する。	講義・演習 配布資料、ヘッドマウントディスプレイ (担当: 山下)	
4	到達目標 1) 表: 理学療法士が実施していた検査測定が何であったかを表出し、説明することが出来る。 2) 表: 作業療法士が実施していた検査測定が何であったかを表出し、説明することが出来る。 3) 裏: 課題に対するレポートを作成し、提出することが出来る。 表: ボツリヌス療法前後の理学療法士と作業療法士の評価を見学する。 裏: 事例検討「何のための誰の為の多職種連携か」についてレポートを作成する。	VR実習	表科目では、ヘッドマウントディスプレイを使用して、多職種連携ボツリヌス療法編(PT・OT)を見学し多職種協働の実際を学習する。 裏科目では、事例に対する説明を受け、レポートを作成する。 (担当: 山下)
5	到達目標 1) 表: 理学療法士が実施していた検査測定が何であったかを表出し、説明することが出来る。 2) 表: 作業療法士が実施していた検査測定が何であったかを表出し、説明することが出来る。 3) 裏: 課題に対するレポートを作成し、提出することが出来る。 VR実習を見学して得たものを、実際の学習成果としてまとめる	VR実習	表科目では、ヘッドマウントディスプレイを使用して、多職種連携ボツリヌス療法編(PT・OT)を見学し多職種協働の実際を学習する。 裏科目では、事例に対する説明を受け、レポートを作成する。 (担当: 山下)
6	到達目標 以下に記す項目に準じた50点分の本試験問題(筆記形式)を作成する。 ・多職種連携の定義理解について(資料/課題より) ・多職種協働に関連する専門職の種類について(資料/課題より) ・ボツリヌス療法時の医師と看護師の業務と連携について(VR実習より) ・ボツリヌス療法前後で行った理学療法/作業療法評価について(VR実習より)	講義・演習 授業を受講して学習した内容をまとめ、試験問題を作成する。 (担当: 山下)	

7 マネジメントとは？セルフマネジメントについて理解する	講義・実習 マネジメントやセルフマネジメントとは何か予習してから臨むこと
8 社会人基礎力について理解する	講義・実習 社会人として求められるスキルについて学習する。自分がどうい社会人になりたいか考えてから臨むこと
9 組織のマネジメントやリーダーシップについて理解する	講義・実習 テキスト「Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ」章を予習して臨むこと
10 理学療法士の教育について理解する	講義・実習 卒前・卒後教育について実例を交えながら学習する。テキスト「Ⅴ」章を予習して臨むこと
11 医療安全やリスクマネジメント理解する	講義・実習 テキスト「Ⅶ」章を予習して臨むこと
12 倫理について理解する	講義・実習 テキスト「Ⅳ章 P46～P49」を予習して臨むこと
13 労務管理とハラスメントについて理解する	講義・実習 テキスト「Ⅳ」章を予習して臨むこと
14 社会保障制度や関連法規、コンプライアンス、個人情報保護法について理解する	講義・実習 テキスト「Ⅸ」章を予習して臨むこと
15 理学療法管理学のまとめ.	講義・筆記試験 理学療法管理学のまとめとして終講試験を受ける.

■受講上の注意

学習を深めるために、予習・復習をしっかりと行って講義に臨んでください

■成績評価の方法

- 1.定期試験機関に筆記試験(多肢選択問題と記述問題)を行う。
- 2.不合格者は定期試験終了後に再試験を行う。
- 3.試験は60点以上を合格、59点以下を不合格とする

■テキスト参考書など

リハビリテーション管理学・運営 実践ガイドブック 第1版 メディカルビュー社2018

■備考

資料プリントは適宜配布する.

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である.

理学療法リスク管理学

講師:横山 尚宏、松木 陽一

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

理学療法評価や治療を行っていく上で、対象者の全身状態を把握することは必要不可欠である。この講義では、医学的情報の収集の方法、フィジカルアセスメント、リスク管理および対処法を理解し、安全な運動療法を行う上で必要な知識や技術を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	理学療法評価や治療を行っていく上で必要な、フィジカルアセスメント(一般情報の収集・問診)について学習する	講義GW	配布する資料を事前に確認しておくこと
2	理学療法評価や治療を行っていく上で必要な、フィジカルアセスメント(一般情報の収集・問診)について学習する	講義GW	配布する資料を事前に確認しておくこと
3	理学療法評価や治療を行っていく上で必要な、フィジカルアセスメント(全身状態を把握するための情報)について学習する	講義GW	配布する資料を事前に確認しておくこと
4	理学療法評価や治療を行っていく上で必要な、フィジカルアセスメント(全身状態を把握するための情報)について学習する	講義GW	配布する資料を事前に確認しておくこと
5	理学療法評価や治療を行っていく上で必要な、フィジカルアセスメント(医学的情報)について学習する	講義・実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
6	理学療法評価や治療を行っていく上で必要な、フィジカルアセスメント(医学的情報)について学習する	講義・実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
7	理学療法評価や治療を行っていく上で必要な、フィジカルアセスメント(医学的情報)について学習する	講義・実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
8	理学療法評価や治療を行っていく上で必要な、フィジカルイグザミネーションの基本手順(視診・触診・打診・聴診)について学習する	講義・実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
9	理学療法評価や治療を行っていく上で必要な、フィジカルイグザミネーションの基本手順(視診・触診・打診・聴診)について学習する	講義・実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
10	応急手当の目的・必要性(心停止の予防等を含む)等を説明することができる	講義・実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
11	基本的心肺蘇生法やAEDの使用方を説明することができ、実施することができる	講義・実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
12	循環の解剖・生理学を復習し、知識として再度インプットすることが出来る。心疾患である狭心症のリスク管理について理解することができる	講義	配布資料を一読しておく
13	心疾患である心筋梗塞の病態・症状・リスク管理について理解することが出来る。	講義	配布資料を一読しておく
14	心疾患である弁疾患について理解することが出来る	講義	配布資料の準備をしておく。
15	心疾患である大動脈瘤、大動脈解離の病態・症状・リスク管理について理解することができる	講義	配布資料を一読しておく

■受講上の注意

■成績評価の方法

出席状況、授業態度、レポート提出を加味して総合的に評価する。
60点以上を合格、59点以下を不合格とする

■テキスト参考書など

メジカルビュー社 Crosslink理学療法学テキスト 小児理学療法学

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

基本的理学療法評価学Ⅰ

講師：西田 徳和、木下 恵美

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

理学療法士として治療プログラムを立てる上で、評価は必要不可欠である。その為、患者さんへ接触する前の医療職として必要な情報となる医療面接を学習し、患者の適正な評価が行えるように評価の概論と各種検査測定的基础を学習し体験する。なお、バイタルチェックは、オリエンテーションから実施、記録まで出来るようになる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	観察・検査・測定について理解する。 評価の目的、意義について理解する。	講義	評価の意義・目的・過程について読んでおくこと。
2	評価法の対象(ICIDH・ICF)を理解する。	講義	評価法の対象(ICIDH・ICF)について読んでおくこと。
3	評価記録・問題点の抽出について理解する。 評価の手順について理解する。	講義	記録、問題点の整理の仕方、評価の手順について読んでおくこと。
4	一般的評価事項(医療面接と情報収集、各種検査)①について理解する。	講義	一般的評価事項(医療面接と情報収集、各種検査)について読んでおくこと。
5	一般的評価事項(医療面接と情報収集、各種検査)②について理解する。	講義	一般的評価事項(医療面接と情報収集、各種検査)について読んでおくこと。
6	触察方法① 触察概要	実技形式	
7	触察方法② 上肢の筋	実技形式	
8	触察方法③ 頸部・肩背部の筋	実技	
9	触察方法④ 腰部・臀部の筋	実技	
10	触察方法⑤ 下肢の筋	実技	
11	触察方法⑥ まとめ～治療への応用の具体	実技	
12	バイタルサイン(血圧・脈拍)について学ぶ。	講義	次の講義で実際に測定等行うので講義内容を熟知できるようにしっかり聴講すること。
13	バイタルサイン(血圧・脈拍)を実際に測定できるようになる①	実技	バイタルサインの測定方法を確認し、実際に測定できるようになる。
14	バイタルサイン(血圧・脈拍)を実際に測定できるようになる②	実技	バイタルサインの測定方法を確認し、実際に測定できるようになる。
15	理学療法評価学Ⅰのまとめ。	講義	理学療法評価学Ⅰのまとめとして終講試験を受ける。

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験と実技試験の総合評価により60点以上を合格、59点以下を不合格とする。
2名の専任教員分野を合算し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

「理学療法評価学 改訂6版 金原出版」配布資料
「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 メジカルビュー社」

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

基本的理学療法評価学Ⅱ

講師: 鮫島 康太

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

人間が人間である所以たる「動き」という現象について、改めて目を向け体感する。動作分析のイントロダクションとして、「動き」を観察・表現する事の意義を体験し、解剖学・生理学・機能解剖学・運動学等の止揚を目標とする。

- 1) 日常の「動き」を、改めて観察する
- 2) 「動き」の仕組みを質的・量的な視点で観察する
- 3) 動きやすい・動きにくいポイントを体験し、他者へ伝える工夫を行う
- 4) 解剖学・生理学・運動学の各要素への還元を行う
- 5) 「動き」を紙面上に表現し、それを他者へプレゼンテーションする
- 6) 力や速度・加速度、質量といった自然科学の要素に触れる
- 7) ニュートン力学に触れる(慣性の法則・運動方程式・作用 反作用の法則)
- 8) 生体におけるテコ・重心・速度・加速度を体験する
- 9) 生体における床反力・関節モーメントを体験する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	ヒトの安静姿勢を観察し、剛体モデルを描画する。	講義・実技	白衣、その他の準備すること
2	支持基底面と重心の関係性について理解する。	講義・実技	白衣、その他の準備
3	片脚立位を描画し、安静立位と比較し身体にどのような変化が起きるのか比較し他者へ発表する。	講義・実技	白衣、その他の準備
4	寝返り動作、起き上がり動作のフェーズを確認し、描画する	講義・実技	白衣、その他の準備
5	様々な座位姿勢を観察、模式図化し他者へ伝える	講義・実技	白衣、その他の準備
6	立ち上がり動作を観察し、フェーズを確認し描画する	講義・実技	白衣、その他の準備
7	歩行周期の各相を理解する。	講義・実技	白衣、その他の準備
8	歩行を時間軸に沿った矢状面での観察、描画する	講義・実技	白衣、その他の準備
9	物体の運動と力の関係(重力・力・摩擦・剛体・テコなど)運動の3法則の観察・記録をする	講義・実技	白衣、その他の準備
10	物体の運動と力の関係(重心・速度・加速度など)重心や速度・加速度を観察・記録	講義・実技	白衣、その他の準備
11	片脚立位の動きから、ニュートン力学を考える 片脚立位の動きから、重心・剛体・テコを観察・記録・発表	講義・実技	白衣、その他の準備
12	立位保持の際に診られる戦略を理解し他者へ説明する。 立ち上がり動作を観察し、「重心」についてディスカッションする。立ち上がり動作を観察し、「重心」について説明する。	講義・実技	白衣、その他の準備
13	ニュートン力学の復習を発表。力をベクトル・モーメントという観点から観察・記録・発表する。	講義・実技	白衣、その他の準備
14	歩行を観察し、関節角度の変化を検討する 歩行を観察し、ベクトル・モーメントの観点から模式図などで表現する。	講義・実技	白衣、その他の準備
15	歩行のベクトル・モーメントの視点から観察、記録する 歩行の個人差や戦略差を、ベクトル・モーメントの観点から観察、記録、発表する	講義・実技	白衣、その他の準備

■受講上の注意

実技の際に実習着の準備をしておく。

■成績評価の方法

筆記試験を行い、60点以上を合格する。

■テキスト参考書など

基礎運動学(医歯薬出版)
観察による歩行分析(医学書院)

■備考

白衣、方眼用紙、バインダーの準備

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

基本的理学療法評価学Ⅲ

講師: 林 浩之

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

理学療法評価の基本となる関節可動域測定 of 技術を身につけることを目的とする。また、測定を通して、関節可動域制限因子の考察や、関節可動域制限の治療方法などを学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	関節可動域測定の意義・目的について学ぶ。	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
2	関節可動域測定の際の注意点について学ぶ。	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
3	関節可動域測定(肩)の測定が実施できるようになる①	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
4	関節可動域測定(肩)の測定が実施できるようになる②	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
5	関節可動域測定(肘・前腕)の測定が実施できるようになる	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
6	関節可動域測定(手関節)の測定が実施できるようになる	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
7	関節可動域測定(股関節)の測定が実施できるようになる	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
8	関節可動域測定(膝関節・足関節)の測定が実施できるようになる	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
9	関節可動域測定(肩甲骨)の測定が実施できるようになる	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
10	関節可動域測定(頸部・体幹)の測定が実施できるようになる	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
11	関節可動域測定(母指・手指・足趾)の測定が実施できるようになる	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
12	関節可動域測定(上肢全体一連)の測定が実施できるようになる	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
13	関節可動域測定(下肢全体一連)の測定が実施できるようになる	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
14	まとめ: 実技・筆記試験の流れを説明する	講義・実技	実習着で受講し、教科書と配布資料を準備すること。
15	実技・筆記試験を受験し、修得状況を確認する。	試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験(50点)、実技試験(50点)の合計点数で評価する(60点以上合格)。

■テキスト参考書など

理学療法評価学 金原出版

基礎運動学 医歯薬出版

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である

基本的理学療法評価学Ⅳ

講師：林 浩之

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

理学療法士として治療プログラムを立案するうえで評価は必要不可欠である。その中でも特に筋力の評価は身体機能を把握するうえで非常に重要である。本講義では、臨床で普及しているDanielsらの徒手筋力検査法について講義でその方法を理解し、さらに学生間での実技を通して筋力の適正な評価が行えるようになる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	徒手筋力検査法の概要を説明できる。	講義実技	新・徒手筋力検査法第10版 序論を読んでおく。
2	上肢各論 肩甲骨・肩・肘・前腕・手・指の各動作の主動作筋、検査方法(肢位、固定、抵抗)、判定方法、代償動作について理解し、実際に検査が行える。	講義実技	新・徒手筋力検査法第10版を読んでおく。 基礎運動学第6版補訂を読み、主動作筋、起始、停止、神経支配を確認しておく。
3	上肢各論 肩甲骨・肩・肘・前腕・手・指の各動作の主動作筋、検査方法(肢位、固定、抵抗)、判定方法、代償動作について理解し、実際に検査が行える。	講義実技	新・徒手筋力検査法第10版を読んでおく。 基礎運動学第6版補訂を読み、主動作筋、起始、停止、神経支配を確認しておく。
4	上肢各論 肩甲骨・肩・肘・前腕・手・指の各動作の主動作筋、検査方法(肢位、固定、抵抗)、判定方法、代償動作について理解し、実際に検査が行える。	講義実技	新・徒手筋力検査法第10版を読んでおく。 基礎運動学第6版補訂を読み、主動作筋、起始、停止、神経支配を確認しておく。
5	上肢各論 肩甲骨・肩・肘・前腕・手・指の各動作の主動作筋、検査方法(肢位、固定、抵抗)、判定方法、代償動作について理解し、実際に検査が行える。	講義実技	新・徒手筋力検査法第10版を読んでおく。 基礎運動学第6版補訂を読み、主動作筋、起始、停止、神経支配を確認しておく。
6	上肢各論 肩甲骨・肩・肘・前腕・手・指の各動作の主動作筋、検査方法(肢位、固定、抵抗)、判定方法、代償動作について理解し、実際に検査が行える。	講義実技	新・徒手筋力検査法第10版を読んでおく。 基礎運動学第6版補訂を読み、主動作筋、起始、停止、神経支配を確認しておく。
7	下肢各論 股・膝・足・足趾の各動作の主動作筋、検査方法(肢位、固定、抵抗)、判定方法、代償動作について理解し、実際に検査が行えるようになる。	講義実技	新・徒手筋力検査法第10版を読んでおく。 基礎運動学第6版補訂を読み、主動作筋、起始、停止、神経支配を確認しておく。
8	下肢各論 股・膝・足・足趾の各動作の主動作筋、検査方法(肢位、固定、抵抗)、判定方法、代償動作について理解し、実際に検査が行えるようになる。	講義実技	新・徒手筋力検査法第10版を読んでおく。 基礎運動学第6版補訂を読み、主動作筋、起始、停止、神経支配を確認しておく。
9	下肢各論 股・膝・足・足趾の各動作の主動作筋、検査方法(肢位、固定、抵抗)、判定方法、代償動作について理解し、実際に検査が行えるようになる。	講義実技	新・徒手筋力検査法第10版を読んでおく。 基礎運動学第6版補訂を読み、主動作筋、起始、停止、神経支配を確認しておく。
10	下肢各論 股・膝・足・足趾の各動作の主動作筋、検査方法(肢位、固定、抵抗)、判定方法、代償動作について理解し、実際に検査が行えるようになる。	講義実技	新・徒手筋力検査法第10版を読んでおく。 基礎運動学第6版補訂を読み、主動作筋、起始、停止、神経支配を確認しておく。
11	下肢各論 股・膝・足・足趾の各動作の主動作筋、検査方法(肢位、固定、抵抗)、判定方法、代償動作について理解し、実際に検査が行えるようになる。	講義実技	新・徒手筋力検査法第10版を読んでおく。 基礎運動学第6版補訂を読み、主動作筋、起始、停止、神経支配を確認しておく。

頸部・体幹各論 12 頭部・頸部・体幹の各動作の主動作筋、検査方法（肢位、固定、抵抗）、判定方法、代償動作について理解し、実際に検査が行えるようになる。	新・徒手筋力検査法第10版を読んでおく。 講義実技 基礎運動学第6版補訂を読み、主動作筋、起始、停止、神経支配を確認しておく。
頸部・体幹各論 13 頭部・頸部・体幹の各動作の主動作筋、検査方法（肢位、固定、抵抗）、判定方法、代償動作について理解し、実際に検査が行えるようになる。	新・徒手筋力検査法第10版を読んでおく。 講義実技 基礎運動学第6版補訂を読み、主動作筋、起始、停止、神経支配を確認しておく。
頸部・体幹各論 14 頭部・頸部・体幹の各動作の主動作筋、検査方法（肢位、固定、抵抗）、判定方法、代償動作について理解し、実際に検査が行えるようになる。	新・徒手筋力検査法第10版を読んでおく。 講義実技 基礎運動学第6版補訂を読み、主動作筋、起始、停止、神経支配を確認しておく。
15 本試験	筆記試験・実技試験 これまでの講義内容を振り返り、学習しておく。また、実技に関しては繰り返し練習を行い、各検査が円滑に行えるよう準備を行っておく。

■受講上の注意

各関節の種々の運動方向に対しての検査法であるため、主動作筋・起始・停止・神経支配について事前学習を行い、実際の検査においては講義後、各々で実技練習を行うことが必要である。

■成績評価の方法

筆記試験（50点）と実技試験（50点）を総合して評価する（60点以上合格）。

■テキスト参考書など

新・徒手筋力検査法 原著第10版 協同医書出版社

基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版株式会社

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

基本的理学療法評価学Ⅴ

講師: 酒匂 久光、木下 恵美

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

医療福祉の専門職として求められる専門分野の基本的知識・理論や技能を体系的に理解していこうとしていることを前提とする。理学療法における基本的な評価方法を理解し、選択および実践できるように学習する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	感覚検査: 感覚の種類、感覚のメカニズム、検査方法を理解し、実施、記録することができる。	講義・実技	理学療法評価学第7章知覚検査を読み、理解しておくこと。実技でティッシュペーパー、爪楊枝を使用するので忘れないこと。
2	感覚検査: 感覚の種類、感覚のメカニズム、検査方法を理解し、実施、記録することができる。	講義・実技	理学療法評価学第7章知覚検査を読み、理解しておくこと。実技でティッシュペーパー、爪楊枝を使用するので忘れないこと。
3	感覚検査: 感覚の種類、感覚のメカニズム、検査方法を理解し、実施、記録することができる。	講義・実技	理学療法評価学第7章知覚検査を読み、理解しておくこと。実技でティッシュペーパー、爪楊枝を使用するので忘れないこと。
4	反射検査: 伸張反射のメカニズム、反射の種類、各検査法を理解し、検査を実施し、記録することができる。	講義・実技	理学療法評価学第8章反射検査を読み、理解しておくこと。実技で打診器を使用するので忘れないこと。
5	反射検査: 伸張反射のメカニズム、反射の種類、各検査法を理解し、検査を実施し、記録することができる。	講義・実技	理学療法評価学第8章反射検査を読み、理解しておくこと。実技で打診器を使用するので忘れないこと。
6	反射検査: 伸張反射のメカニズム、反射の種類、各検査法を理解し、検査を実施し、記録することができる。	講義・実技	理学療法評価学第8章反射検査を読み、理解しておくこと。実技で打診器を使用するので忘れないこと。
7	筋トーン検査: 筋トーンのメカニズム、Ashworth Scale、各種検査法を理解し、実施、記録することができる。	講義・実技	理学療法評価学第12章筋トーン検査を読み、理解しておくこと。
8	筋トーン検査: 筋トーンのメカニズム、Ashworth Scale、各種検査法を理解し、実施、記録することができる。	講義・実技	理学療法評価学第12章筋トーン検査を読み、理解しておくこと。
9	小児の粗大運動の発達過程について理解する①	講義・実技	小児理学療法学テキスト第2章5『姿勢と粗大運動』および配布資料を読んでおくこと
10	小児の粗大運動の発達過程について理解する②	講義・実技	小児理学療法学テキスト第2章5『姿勢と粗大運動』および配布資料を読んでおくこと
11	代表的な発達評価について理解する。	講義・実技	小児理学療法学テキスト第2章5『姿勢と粗大運動』および配布資料を読んでおくこと
12	姿勢反射検査①小児運動発達赤ちゃんの発育・姿勢反射の存在意義	講義	脳の成熟による反射の理解をする
13	姿勢反射検査②姿勢反射概念立ち直り反応・平衡機能の役割	講義	正常発達検査の理解を行う
14	姿勢反射・運動発達検査のまとめ	講義・実技	姿勢反射・運動発達検査授業の復習をしておくこと
15	本試験・解説	試験	

■受講上の注意

解剖学、生理学の知識が必要とされます。事前学習をしておいてください。実技において検査道具を使用するため、必要な道具を忘れないように持参ください。

■成績評価の方法

筆記試験(50点)と実技試験(50点)を実施し、合計60点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

理学療法評価学 改訂第6版 松澤 正 金原出版株式会社.
病気が見えるvol.7 脳・神経 MEDIC MEDIA.

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する。

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

神経理学療法評価学

講師: 酒匂 久光

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

神経疾患における基本的な評価方法を理解し、選択および実践できるように学習する。

1. 神経疾患の病態と障害を理解し、基本的な評価法を選定し、実践することができる。
2. 各神経疾患の病態を理解し、疾患ごとの検査法を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
	神経系の解剖、生理学の復習を行う。		
1	中枢神経と抹消神経の違いを理解し、それが障がいされた場合の病態や症状を理解する。	講義	理学療法評価学総論を読み、理解しておくこと。
2	片麻痺運動機能検査: 麻痺の回復過程、共同運動、連合反応を理解する。 Brunnstrom test、12段階式片麻痺機能テスト、SIASの検査法を理解し、実施、記録することができる。	講義	理学療法評価学第13章片麻痺機能検査を読み、理解しておくこと。
3	片麻痺運動機能検査: 麻痺の回復過程、共同運動、連合反応を理解する。 Brunnstrom test、12段階式片麻痺機能テスト、SIASの検査法を理解し、実施、記録することができる。	講義 実技	理学療法評価学第13章片麻痺機能検査を読み、理解しておくこと。
4	片麻痺運動機能検査: 麻痺の回復過程、共同運動、連合反応を理解する。 Brunnstrom test、12段階式片麻痺機能テスト、SIASの検査法を理解し、実施、記録することができる。	講義 実技	理学療法評価学第13章片麻痺機能検査を読み、理解しておくこと。
5	脳神経検査: 脳神経検査を実施することができる。	講義 実技	理学療法評価学第14章脳神経検査を読み、理解しておくこと。
6	脳神経検査: 脳神経検査を実施することができる。	講義 実技	理学療法評価学第14章脳神経検査を読み、理解しておくこと。
7	高次脳機能障害の概要を知る。	講義 実技	理学療法評価学第20章高次脳機能検査を読んでおくこと。
8	高次脳機能障害の検査を実施できる。	講義 実技	理学療法評価学第20章高次脳機能検査を読んでおくこと。
9	協調性検査: 協調性検査を実施できるようになる。	講義	理学療法評価学第17章協調性検査を読んでおくこと。
10	協調性検査: 協調性検査を実施できるようになる。	講義 実技	理学療法評価学第17章協調性検査を読んでおくこと。
11	錐体路障害の検査を実施し、結果を記録することができる。	講義 実技	今までの講義資料、参考書を読んでおくこと。
12	錐体外路障害(特にパーキンソン病)の検査を実施し、結果を記録することができる。	講義 実技	今までの講義資料、参考書を読んでおくこと。
13	小脳障害の検査を実施し、結果を記録することができる。	講義 実技	今までの講義資料、教科書を読んでおくこと。
14	筋萎縮性側索硬化症の検査を実施し、結果を記録することができるようになる。	講義 実技	今までの講義資料、教科書を読んでおくこと。
15	本試験 解説	試験	

■受講上の注意

解剖、生理学の知識が必要とされます。特に神経系の復習をしておいてください。実技において検査道具を使用するため、必要な道具を持参してください。

■成績評価の方法

筆記試験(50点)、実技試験(50点)を実施し、合計60点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

理学療法評価学 改訂第6版 松澤 正 金原出版株式会社。

病気が見えるvol.7 脳・神経 MEDIC MEDIA。

各実技にて検査道具を使用します。(打診器、ティッシュペーパー、爪楊枝など)

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する。

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

運動器理学療法評価学

講師: 上田 晃希

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

運動器理学療法評価学では、運動器疾患における代表的疾患の病態を整理し、検査・測定項目を適宜抽出できるように理解を深めると実践することが目的である。代表的な疾患として、骨折、変形性関節症、リウマチ、膝関節損傷、肩関節疾患、捻挫、肉離れ、脊椎疾患、末梢神経損傷などがあり、特性を踏まえて解釈していくことが求められる。また、近年理学療法士に対して、画像評価の理解も必要性が高まっているため、読影も含めて理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	骨折の病態、治療課程、X線学的評価、症状、合併症を確認し、代表的な骨折の疾患を中心に骨折における評価を講義・GWで検討し、目的を説明できる。	講義GW	評価の目的を解釈するうえで、解剖学、運動学の知識が必要となる為、テキストを準備すること。
2	代表的な骨折の疾患を中心に整形外科的検査や疾患の特性に応じた評価を実践する。	実技	白衣で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
3	代表的な骨折の疾患を中心に整形外科的検査や疾患の特性に応じた評価を実践する。	講義GW実技	評価の目的を解釈するうえで、解剖学、運動学の知識が必要となる為、テキストを準備すること。
4	変形性関節症(主に股関節・膝関節)の病態、X線学的評価、手術療法を確認し、変形性関節症における評価を講義・GWで検討し、目的を説明できる。	講義GW	評価の目的を解釈するうえで、解剖学、運動学の知識が必要となる為、テキストを準備すること。
5	変形性関節症(主に股関節・膝関節)の評価を基に、整形外科的検査や疾患の特性に応じた評価を実践する。	実技	白衣で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
6	ACL損傷と半月板損傷の病態、X線学的評価、手術療法を確認し、形性関節症における評価を講義・GWで検討し、目的を説明できる。	講義GW	評価の目的を解釈するうえで、解剖学、運動学の知識が必要となる為、テキストを準備すること。
7	ACL損傷と半月板損傷の評価を基に、整形外科的検査や疾患の特性に応じた評価を実践する。	実技	白衣で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
8	肩関節周囲炎と腱板損傷の病態、X線学的評価、手術療法を確認。肩関節疾患における評価を講義・GWで検討し、目的を説明できる。	講義GW	評価の目的を解釈するうえで、解剖学、運動学の知識が必要となる為、テキストを準備すること。
9	肩関節周囲炎と腱板損傷の評価を基に、整形外科的検査や疾患の特性に応じた評価を実践する。	実技	白衣で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
10	捻挫・肉離れの病態、X線学的評価、手術療法を確認。捻挫・肉離れにおける評価を講義・GWで検討し、目的を説明できる。	講義GW	評価の目的を解釈するうえで、解剖学、運動学の知識が必要となる為、テキストを準備すること。
11	捻挫・肉離れの評価を基に、整形外科的検査や疾患の特性に応じた評価を実践する。	実技	白衣で受講し、配布資料と授業ファイルを準備すること。
12	脊椎疾患の病態、X線学的評価、手術療法を確認。脊椎疾患における評価を講義・GWで検討し、目的を説明できる。	講義GW実技	評価の目的を解釈するうえで、解剖学、運動学の知識が必要となる為、テキストを準備すること。
13	末梢神経損傷の病態、X線学的評価、手術療法を確認。末梢神経損傷における評価を講義・GWで検討し、目的を説明できる。	講義GW実技	評価の目的を解釈するうえで、解剖学、運動学の知識が必要となる為、テキストを準備すること。
14	関節リウマチの病態、X線学的評価、手術療法を確認し、変形性関節症における評価を講義・GWで検討し、目的を説明できる。	講義GW実技	評価の目的を解釈するうえで、解剖学、運動学の知識が必要となる為、テキストを準備すること。
15	本試験・まとめ	試験	授業のまとめとして試験をおこなう。

■受講上の注意

講義前には課題を課す事もあるので、事前学習を行い授業に臨むこと。

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、未満を不合格とする。

■テキスト参考書など

Crosslink 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学、標準整形外科学、病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科、配布資料

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である

内部障害理学療法評価学

講師: 松木 陽一、横山 尚宏

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

内部障害に関する基本的な知識(解剖学・生理学)を身につける。さらに内部障害を細分化(呼吸器、循環器、運動負荷)し、各専門領域の基礎を学習する。
また、各専門領域の評価項目を理解し、各分野の評価機器を体験する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	循環に必要な解剖学について説明できる	講義	1年次の解剖学を復習しておく。解剖学の教科書やファイルを準備しておく
2	循環に必要な生理学について説明できる	講義・実技	1年次の生理学を復習しておく。生理学の教科書やファイルを準備しておく
3	確認テストにて習得状況を確認する、心電図の基礎について説明できる	講義	解剖・生理学をしっかりと復習しておくこと。確認テストは加点分となる。
4	心電図波形の見方を説明できる	講義・実技	心電図を見るために必要な知識を習得し、異常波形や異常の種類をみる。配布資料を予習してくる
5	心電図を実際に貼付することができる。	講義・実技	上半身と、足関節に貼付するため、肌が露出できる服装が望ましい
6	呼吸器系の解剖学・運動学 呼吸器系に関わる臓器、筋肉、骨を理解し、呼吸に伴う胸郭の運動学を学習する。	講義	これまでに学習した呼吸器の解剖学・運動学について復習しておく
7	呼吸器系の生理学 呼吸器系の生理学について学習する。	講義	これまでに学習した呼吸器の生理学について復習しておく
8	小テスト(呼吸器の解剖学・生理学) 呼吸機能の評価(1) 呼吸機能の評価の目的や種類について学習する。	小テスト講義	呼吸器の解剖学・運動学・生理学について学習し小テストに臨む 配布する資料を事前に確認しておく
9	呼吸機能の評価(2) 呼吸機能検査より得られた結果からどのような考察を行うのかを学習する。	講義・実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
10	呼吸機能の評価(3) 実際にスパイロメーター検査を体験し、検査結果から自分の呼吸機能を理解する。	講義・実技	配布する資料を事前に確認しておくこと
11	運動耐容能の評価の目的を理解する	講義	運動耐容能をVO2でみる
12	運動負荷試験の方法を理解する	講義	症候限界負荷試験、定常負荷試験の種類を知りましょう
13	症候限界負荷試験の手順を理解する	講義	一人でも実施できるようになりましょう
14	症候限界負荷試験(シャトルウォーキングテスト)	実技	得られた結果を評価してみましょう
15	定常負荷試験(6分間歩行試験)演習	実技	得られた結果を評価してみましょう

■受講上の注意

基本は座学となるため、教科書や配布資料にしっかりと目を通しておく。
実技の際には、動きやすい服装の準備をしてください。

■成績評価の方法

授業中の態度・レポート・小テストの統合評価により、60点以上を合格、未満を不合格とする。

■テキスト参考書など

1年次に使用した解剖・生理学の教科書、配布資料

■備考

ファイルの準備

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

理学療法総合評価学 I

講師: 林 浩之、鮫島 康太

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

理学療法士として、対象者の疾患や状況に応じて必要と思える検査測定を的確に遂行できるようになるための基本要点の修得を目指す。また、検査測定で得られたデータを多方面から解釈できるよう、ICFに基づき機能障害・活動制限・参加制約における検査間データの関連性について学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	評価学総論: 患者に対し理学療法を実施するには、まず患者の現状を評価することは必須である。ここでは検査測定結果から評価に至るまでのプロセスを理解する。	講義GW	テキストおよび配布資料を読んでおくこと
2	病態(中枢神経疾患)をもとに評価項目を列挙し、評価のために必要な検査測定項目を考える。また、検査測定に必要な記録用紙を確認する。	講義GW実技	中枢神経障害の病態について復習しておくこと。
3	検査測定を実施できるようになる(バイタルサイン・形態測定)。	講義GW実技	中枢神経障害の病態について復習しておくこと。 実施する検査について復習しておくこと。
4	検査測定を実施できるようになる(関節可動域測定)。	講義GW実技	中枢神経障害の病態について復習しておくこと。 実施する検査について復習しておくこと。
5	検査測定を実施できるようになる(筋緊張検査・深部腱反射)。	講義GW実技	中枢神経障害の病態について復習しておくこと。 実施する検査について復習しておくこと。
6	検査測定を実施できるようになる(病的反射・片麻痺機能検査)。	講義GW実技	中枢神経障害の病態について復習しておくこと。 実施する検査について復習しておくこと。
7	検査測定を実施できるようになる(協調性検査・感覚検査)。	講義GW実技	中枢神経障害の病態について復習しておくこと。 実施する検査について復習しておくこと。
8	検査測定を実施できるようになる(筋力検査・脳神経検査)。	講義GW実技	中枢神経障害の病態について復習しておくこと。 実施する検査について復習しておくこと。
9	検査測定を実施できるようになる(痛みの検査・高次脳機能障害)。	講義GW実技	中枢神経障害の病態について復習しておくこと。 実施する検査について復習しておくこと。
10	検査測定を実施できるようになる(バランステスト)。	講義GW実技	中枢神経障害の病態について復習しておくこと。 実施する検査について復習しておくこと。
11	運動器の復習(解剖学的構成)を行い、理解の程度を確認する。	講義、GW	1年次に修得した解剖学の知識をしっかりと確認する。
12	運動器疾患に対する検査ROMを行う。(下肢)	講義、演習(実技)	基本的ROMの復習を行って来る。
13	運動器疾患に対する検査ROMを行う。(上肢・体幹)	講義、演習(実技)	基本的ROMの復習を行って来る。
14	末梢神経損傷への感覚検査を行う。 疼痛検査を行う。	講義、演習(実技)	末梢神経の解剖学を復習しておく
15	姿勢・動作分析を行う。 立位・座位、歩行・立ち上がり動作	講義、演習(実技)	基礎運動学で基本的な姿勢、歩行を確認しておく。

■受講上の注意

講義前には課題を課す事もあるので、きちんと事前学習を行い提出期限を遵守する。実習着を用意すること。

■成績評価の方法

講義ごとに課される課題により評価し、60点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

テキスト:理学療法評価学（金原出版）
病気が見える7 脳・神経（メディックメディア）

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

理学療法総合評価学Ⅱ

講師: 林 浩之、鮫島 康太

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

理学療法士として、対象者の疾患や状況に応じて必要と思える検査測定を的確に遂行できるようになるための基本要点の修得を目指す。また、検査測定で得られたデータを多方面から解釈できるよう、ICFに基づき機能障害・活動制限・参加制約における検査間データの関連性について学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	評価学総論:これまでの授業で習ってきたことを復習し、授業内で触れる検査項目のキーワードを列挙する。	講義GW	テキストおよび配布資料を読んでおくこと
2	中枢神経障害の病態や障害を理解し、評価を列挙できるようになる。各種評価の意義・目的を挙げることができる。	講義GW実技	中枢神経障害の病態、評価法について復習しておくこと。
3	中枢神経障害における評価を実施できるようになる。歩行分析、基本動作分析から予測できる機能障害を列挙できる。	講義GW実技	中枢神経障害の病態について復習しておくこと。
4	中枢神経障害における検査を実施できるようになる①	講義GW実技	中枢神経障害の病態、検査法について復習しておくこと。
5	中枢神経障害における検査を実施できるようになる②	講義GW実技	中枢神経障害の病態、検査法について復習しておくこと。
6	中枢神経障害における検査を実施できるようになる③	講義GW実技	中枢神経障害の病態、検査法について復習しておくこと。
7	中枢神経障害における検査を実施できるようになる④	講義GW実技	中枢神経障害の病態、検査法について復習しておくこと。
8	中枢神経障害における評価のまとめ。	講義GW実技	これまでの講義で行った検査用紙(結果記入済み)を準備する。
9	運動器の復習(解剖学的構成)を行い、理解の程度を確認する。	講義、GW	1年次に修得した解剖学の知識をしっかりと確認する。
10	運動器疾患に対する検査ROMを行う。(下肢)	講義、演習(実技)	基本的ROMの復習を行って来る。
11	運動器疾患に対する検査ROMを行う。(上肢・体幹)	講義、演習(実技)	基本的ROMの復習を行って来る。
12	筋力の検査を行う。	講義、演習(実技)	事前にMMTの復習を行っておく
13	末梢神経損傷への感覚検査を行う。 疼痛検査を行う。	講義、演習(実技)	末梢神経の解剖学を復習しておく
14	姿勢・動作分析を行う。 立位・座位、歩行・立ち上がり動作	講義、演習(実技)	基礎運動学で基本的な姿勢、歩行を確認しておく。
15	実技試験を行い、修得状況を確認する。		

■受講上の注意

講義前には課題を課す事もあるので、きちんと事前学習を行い提出期限を遵守する。実習着を用意すること。

■成績評価の方法

レポート提出・実技試験により60点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

テキスト: 理学療法評価学 (金原出版)
病気が見える7 脳・神経(メディックメディア)

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

基本的理学療法治療学Ⅰ

講師: 原田 太樹

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

理学療法の柱として運動療法がある。運動療法の各論は多岐にわたり、本項では基本的運動療法の概要(定義・目的・対象・方法)を理解するとともに、基本的な治療プログラムの立案能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	運動療法の歴史・目的を理解する	講義	
2	運動時の生理学的応答(呼吸・循環)を理解する	講義	換気応答の変化の理由や心拍出量について把握しよう
3	運動と老化の関係性について理解する(加齢に伴う変化や運動不足が身体に及ぼす影響について)。	講義	配布資料に目を通しておくこと。
4	運動プログラムの目標設定(運動の種類や強度、時間、回数)を学習し、適した運動方法を処方できるようになる。	講義	FITTを理解できるように事前学習、復習を行う。
5	運動を継続させるための注意点を理解し、プログラムを立案することが出来る。また、運動負荷試験を実施し、プログラムを立案するための一助となるように理解する。	講義	運動のいい効果と悪い効果をしっかり理解し、正しい運動方法で処方ができるようになる。
6	関節可動域制限の機序(関節拘縮、筋緊張、筋短縮)を理解する	講義	関節拘縮、筋の変性をしっかりおさえよう
7	関節可動域運動の種類(動的ストレッチ、静的ストレッチ、モビライゼーション等)・目的・方法を理解する	講義	伸張反射、Ib抑制を事前に復習しておくこと
8	筋力増強維持運動の基礎となる、筋力の向上、筋力に与える因子、処方の原則を理解する。	講義	筋の解剖、生理を知り、筋力増強維持運動につなげる
9	筋力増強維持運動処方の際、評価、留意点、を理解する。収縮様式別のトレーニングを知る。	講義	実践を意識し、処方をできるようにする
10	運動時の代謝を理解する	講義	好氣的代謝、解糖、呼吸商、代謝当量を簡単に復習しておくこと
11	全身持久力運動処方の仕方を学ぶ	講義	3～5コマ目の授業を復習しておくこと
12	神経系の運動療法(運動麻痺、協調運動障害)の理論について理解する	講義	中枢神経、末梢神経について復習しておくこと
13	呼吸・循環・代謝障害に対する運動療法について理解する	講義	内部障害について復習しておくこと
14	全体の復習	講義	今までの資料を持って来ること
15	本試験	紙面	

■受講上の注意

講義の前後に必要な解剖運動生理学について予習・復習し、より理解を深めること。

■成績評価の方法

筆記試験にて60点以上を合格、59点以下を不合格とする

■テキスト参考書など

配布資料

運動療法治療学 第2版 文光堂

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

基本的理学療法治療学Ⅱ

講師:長津 秀文

単位数:1単位

時間数:15時間

授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

理学療法の最も大きな柱として運動療法は位置づけられている。理学療法治療学で学んだことに基づき、基本的な運動療法(持久力運動、筋力増強運動、協調性に対する運動療法)を実施できるようになる。また、関節可動域制限の要因を評価し、治療の選択と実施ができるようになる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	関節可動域 ①皮膚組織、皮下組織による制限へのアプローチを理解する。	講義	事前配布資料を熟読しておく
2	関節可動域 ②筋膜に対するアプローチ 筋膜リリースを理解する。	講義	同上
3	関節可動域 ③筋に対するアプローチ 各種ストレッチを理解する。	講義	同上
4	④関節包内運動へのアプローチ 関節モビライゼーションを理解する。	講義	同上
5	筋力増強 各運動様式による利点と欠点および運動負荷と頻度を理解し、処方と実施ができる。	講義	同上
6	局所持久力および全身持久力が理解でき、局所持久力の評価および治療の実施ができる。	講義	同上
7	全身持久力の評価および治療の実施	講義	
8	試験 解説	講義	

■受講上の注意

理学療法の治療に必要な基本的な技術の理解を深める。

■成績評価の方法

授業中の態度・レポート・試験結果の統合評価により、60点以上を合格、59点未満を不合格とする。

■テキスト参考書など

運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 文光堂

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員の授業である。

神経筋理学療法治療学Ⅰ

講師: 谷吉 航

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

これまで学んだ脳卒中片麻痺に対する基礎知識を理解したうえで、エビデンスに基づいた治療学として落とし込む。損傷の場所や種類、時期に応じてどのような理学療法を行うか思考し、選択できるようになる。また、講義やグループワークを行う中で、わからない点や疑問に思う点を共有・討論することで思考能力及び知的好奇心の育成が図れるよう講義を進めていく。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	神経障害理学療法総論及び脳血管障害について理解する。	講義	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
2	グループワークを通して脳血管障害について理解を深める(1)	講義、演習	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
3	グループワークを通して脳血管障害について理解を深める(2)	演習	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
4	グループワークを通して脳血管障害について理解を深める(3)	演習	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
5	脳血管障害について深めた内容をアウトプットする(1)	講義、演習	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
6	脳血管障害について深めた内容をアウトプットする(2)	講義、演習	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
7	脳の機能と構造(1)について理解する	講義	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
8	脳の機能と構造(2)について理解する	講義	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
9	脳卒中後片麻痺に対する急性期・回復期の理学療法について理解する(1)	講義	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
10	脳卒中後片麻痺に対する急性期・回復期の理学療法について理解する(2)	講義	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
11	脳卒中片麻痺に対する理学療法の実際について症例を通し理解を深める	講義、演習	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
12	脳卒中片麻痺に対する理学療法の実際について症例を通しグループワークを行い理解を深める(1)	演習	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
13	脳卒中片麻痺に対する理学療法の実際について症例を通しグループワークを行い理解を深める(2)	演習	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
14	グループワークを通して深めた内容をアウトプットする	講義、演習	15レクチャーシリーズ 神経筋障害理学療法学Ⅰを熟読し授業に参加すること。
15	試験	終講試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

参考資料: 15レクチャーシリーズ 神経筋理学療法治療学Ⅰ、配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

神経筋理学療法治療学Ⅱ

講師: 谷吉 航

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

“脳卒中片麻痺、神経変性疾患への理学療法を学習してきたが、さらに一歩進み「エビデンスに基づいた理学療法の実践」という脳科学の知見に基づいた運動療法へ興味を持てるように授業を進めていく。

①課題志向的アプローチを基本とした機能的な動作能力を獲得するために必要な理学療法介入について学ぶ。

②主要な生体力学的特徴や筋活動、機能障害や適応によってパフォーマンスに起こる変化を学ぶ。”

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	リスク管理について理解していく	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
2	ポジショニング、関節可動域練習について理解し実施できるようになる。	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
3	ファシリテーション(促通手技)について理解し、実施できるようになる。	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
4	片麻痺者特有の床上動作(寝返り、起き上がり)の方法、治療法を理解し、実施することができる。	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
5	座位、立ち上がり、立位について理解し治療できるようになる。	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
6	片麻痺者の歩行について理解し治療(機能障害)できるようになる。	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
7	片麻痺者の歩行について理解し治療(歩行練習)できるようになる。	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
8	応用歩行、装具を用いた歩行練習について理解し治療できるようになる。	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
9	高次脳機能障害を有する対象者について理解し治療できるようになる。	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
10	パーキンソン病に対する治療を実施できるようになる(1)。	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
11	パーキンソン病に対する治療を実施できるようになる(2)。	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
12	脊髄小脳変性症に対する治療を実施できるようになる(1)。	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
13	脊髄小脳変性症に対する治療を実施できるようになる(2)。	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
14	神経筋理学療法を総合的に実施できるようになる。	講義、GW、演習	動きやすい服装で受講すること
15	試験・まとめ		

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験等により60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

参考資料: 15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

神経筋理学療法治療学Ⅲ

講師：板敷 裕喜

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

脊髄損傷の病態、治療方針を理解し、基本的な理学療法アプローチの立案やリスク管理が出来るようにする。また、四肢麻痺・対麻痺も残存レベル別の獲得可能動作を学び、機能レベルの正確な評価の重要性と特有の動作パターンで代償的に機能を獲得していることを理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	脊髄損傷総論 脊髄損傷の病態と臨床症状を学ぶ。	講義	テキスト第16章『脊髄損傷の原因、脊髄の解剖・機能』および配布資料について読んでおくこと
2	脊髄の解剖学 脊髄の構造・伝導路を学び、麻痺の種類を理解する	講義	テキスト第16章『脊髄損傷の原因、脊髄の解剖・機能』および配布資料について読んでおくこと
3	診断および評価 Zancolli 分類、ASIA評価、Frankelの分類を学び、key muscle について理解する。	講義実技	テキスト第16章『脊髄損傷の原因、脊髄の解剖・機能』第18章『脊髄損傷の評価』および配布資料について読んでおくこと
4	診断および評価 Zancolli 分類、ASIA評価、Frankelの分類を学び、key muscle について理解する。	講義実技	テキスト第16章『脊髄損傷の原因、脊髄の解剖・機能』第18章『脊髄損傷の評価』および配布資料について読んでおくこと
5	随伴症状と合併症 呼吸障害・起立性低血圧・排尿障害・自律神経過緊張反射などの特徴的な合併症を理解し、対応策を学ぶ。	講義	テキスト第17章『自律神経と脊髄損傷の随伴・合併症』および配布資料について読んでおくこと
6	随伴症状と合併症 呼吸障害・起立性低血圧・排尿障害・自律神経過緊張反射などの特徴的な合併症を理解し、対応策を学ぶ。	講義	テキスト第17章『自律神経と脊髄損傷の随伴・合併症』および配布資料について読んでおくこと
7	随伴症状と合併症 呼吸障害・起立性低血圧・排尿障害・自律神経過緊張反射などの特徴的な合併症を理解し、対応策を学ぶ。	講義	テキスト第17章『自律神経と脊髄損傷の随伴・合併症』および配布資料について読んでおくこと
8	理学療法評価 評価項目を確認しながら、評価の流れを学習する。	講義実技	テキスト第18章『脊髄損傷の評価』および配布資料について読んでおくこと
9	理学療法評価 評価項目を確認しながら、評価の流れを学習する。	講義実技	テキスト第18章『脊髄損傷の評価』および配布資料について読んでおくこと
10	動作分析 頸髄(C6)・脊髄(Th12)損傷をモデルとして動作の実演をし動作分析を行う。	実技	テキスト第19章『四肢麻痺の理学療法(急性期)』第20章『四肢麻痺の理学療法(回復期)』第21章『実習1』第22章『実習2』および配布資料について読んでおくこと
11	動作分析 頸髄(C6)・脊髄(Th12)損傷をモデルとして動作の実演をし動作分析を行う。	実技	テキスト第19章『四肢麻痺の理学療法(急性期)』第20章『四肢麻痺の理学療法(回復期)』第21章『実習1』第22章『実習2』および配布資料について読んでおくこと
12	治療 PNF、レベル別動作指導(除圧・起居・移乗動作など)	講義実技	テキスト第19章『四肢麻痺の理学療法(急性期)』第20章『四肢麻痺の理学療法(回復期)』および配布資料について読んでおくこと
13	治療 PNF、レベル別動作指導(除圧・起居・移乗動作など)	講義実技	テキスト第19章『四肢麻痺の理学療法(急性期)』第20章『四肢麻痺の理学療法(回復期)』および配布資料について読んでおくこと

14 治療
PNF、レベル別動作指導(除圧・起居・移乗動作など)

講義実技 テキスト第19章『四肢麻痺の理学療法(急性期)』第20章『四肢麻痺の理学療法(回復期)』および配布資料について読んでおくこと

15 本試験・まとめ

脊髄損傷のまとめを行い、本試験を受ける

■受講上の注意

講義前には課題を課す事もあるので、きちんと事前学習を行い提出期限を遵守する

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、未満を不合格とする。

■テキスト参考書など

テキスト:中枢神経障害理学療法学テキスト 改訂第2版

参考書:南江堂 運動療法学 脊髄損傷マニュアル 脊髄損傷の理学療法

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

神経筋理学療法治療学Ⅳ

講師: 小山 尚宏

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

各疾患の病態、治療方針を理解し、基本的な理学療法アプローチの立案やリスク管理が出来るようにする。

1. 筋萎縮性側索硬化症
2. 重症筋無力症
3. 多発性硬化症
4. 筋ジストロフィー症
5. 二分脊椎

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	筋萎縮性側索硬化症の病態、およびリスク管理を理解する。 またそのリハビリテーションの進め方を知る。		病気がみえるVol7 筋萎縮性側索硬化症 を読んでおくこと。
2	重症筋無力症の病態、およびリスク管理を理解する。 またそのリハビリテーションの進め方を知る。		病気がみえるVol7 重症筋無力症 を読んでおくこと。
3	多発性硬化症の病態、およびリスク管理を理解する。 またそのリハビリテーションの進め方を知る。		病気がみえるVol7 多発性硬化症 を読んでおくこと。
4	筋ジストロフィーの病態、およびリスク管理を理解する。 またそのリハビリテーションの進め方を知る。		病気がみえるVol7 筋ジストロフィー を読んでおくこと。
5	筋ジストロフィーの病態、およびリスク管理を理解する。 またそのリハビリテーションの進め方を知る。		病気がみえるVol7 筋ジストロフィー を読んでおくこと。
6	二分脊椎の病態、およびリスク管理を理解する。 またそのリハビリテーションの進め方を知る。		病気がみえるVol7 二分脊椎 を読んでおくこと。
7	二分脊椎の病態、およびリスク管理を理解する。 またそのリハビリテーションの進め方を知る。		病気がみえるVol7 二分脊椎 を読んでおくこと。
8	本試験、まとめ		

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験100点で評価をおこない、60点以上を合格、未満を不合格とする

■テキスト参考書など

病気がみえるVol7 MEDIC MEDIA

15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法評価学Ⅱ

■備考

資料プリントは適宜配布する。

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

運動器理学療法治療学Ⅰ

講師: 上田 晃希

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

整形外科疾患の病態の理解、それらに対応する評価、及び治療法の基礎について理解する。

中でも本科目においては、理学療法士がよく経験する疾患(運動器不安定症、骨折・脱臼、変形性関節症、人工関節置換術、関節リウマチ、頸・腰椎疾患)について解説する。また各章において実践編としての実際の症例を提示し、評価及び治療法の模擬体験やその思考を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	①運動器不安定症に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
2	②運動器不安定症に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
3	①大腿骨頸部骨折・腰椎圧迫骨折に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
4	②大腿骨頸部骨折・腰椎圧迫骨折に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
5	③大腿骨頸部骨折・腰椎圧迫骨折に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
6	①橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
7	②橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
8	①変形性膝関節症に対する病態について理解を深め、保存療法及び外科的治療における基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
9	②変形性膝関節症に対する病態について理解を深め、保存療法及び外科的治療における基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
10	③変形性膝関節症に対する病態について理解を深め、保存療法及び外科的治療における基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
11	①変形性股関節症に対する病態について理解を深め、保存療法及び外科的治療における基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
12	②変形性股関節症に対する病態について理解を深め、保存療法及び外科的治療における基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
13	①関節リウマチに対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
14	②関節リウマチに対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
15	試験、まとめ		

■受講上の注意

授業後に生理学、運動学、整形外科学を復習することで学習が深まります。

■成績評価の方法

筆記試験(100点満点)にて評価を行う。60点以上を合格、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である

運動器理学療法治療学Ⅱ

講師:上田 晃希

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

運動器理学療法治療学Ⅰに引き続き、整形外科疾患の病態の理解、それらに対応する評価、及び治療法の基礎について理解する。

本科目においては、脊椎疾患、末梢神経損傷、肩関節疾患、膝関節疾患、足関節疾患について解説する。また各章において実践編としての実際の症例を提示し、評価及び治療法の模擬体験やその思考を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	①脊椎疾患(頸椎症性脊髄症、OPLL)に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
2	②脊椎疾患(頸椎症性脊髄症、OPLL)に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
3	①脊椎疾患(ヘルニア、非特異的腰痛)に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
4	②脊椎疾患(ヘルニア、非特異的腰痛)に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
5	①腰部脊柱管狭窄症に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
6	②腰部脊柱管狭窄症に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
7	脊椎疾患(頸椎症性脊髄症、OPLL)に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
8	②末梢神経損傷に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
9	①肩関節疾患に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
10	②肩関節疾患に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
11	①膝関節疾患に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
12	②膝関節疾患に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
13	①足関節疾患に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
14	②足関節疾患に対する病態について理解を深め、基本的な理学療法評価及び治療について理解することができる。	講義・実技	動きやすい服装を準備すること。
15	試験、まとめ	試験	

■受講上の注意

授業後に生理学、運動学、整形外科学を復習することで学習が深まります。

■成績評価の方法

筆記試験(100点満点)にて評価を行う。60点以上を合格、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

内部障害理学療法治療学Ⅰ

講師：松木 陽一

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

吸理学療法は、疾患や年齢を問わず様々な患者が対象となる。本講義では、呼吸機能に障害を持つことにより、身体機能にどのような問題が生じるかを学習し、基本的な呼吸器系の評価、治療技術を習得し、慢性呼吸不全や急性期及び周術期における呼吸理学療法について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	呼吸理学療法総論 呼吸リハビリテーション及び呼吸理学療法の概念を述べることができる	講義	レクチャー1を事前に読んでおく
2	呼吸器系の解剖学・運動学 呼吸理学療法を行う上での基礎となる、呼吸器系の解剖学および運動学について説明することができる	講義・小テスト	レクチャー2を事前に読んでおく
3	呼吸器系の生理学 呼吸の意味や目的を理解し、呼吸によって取り入れられた酸素がどのように体内に入っていくかを説明することができる	講義・小テスト	レクチャー3を事前に読んでおく
4	呼吸不全の病態と呼吸器疾患 呼吸不全の概念や病態、呼吸理学療法の対象となる呼吸不全を呈する代表的な疾患について説明することができる	講義	レクチャー4を事前に読んでおく
5	呼吸理学療法のための評価 患者の状態を把握するために必要な医療面接について説明することができる。運動耐容能について、その意義、目的、適応について説明することができる。	講義	レクチャー5を事前に読んでおく レクチャー6を事前に読んでおく
6	呼吸理学療法基本手技(1) コンディショニングの位置付けを理解し、その目的や種類、実際の方法を説明することができる。	講義・実技	レクチャー7を事前に読んでおく
7	呼吸理学療法基本手技(2) 排痰の目的や必要性について理解し、具体的な方法を説明することができる。	講義・実技	レクチャー8を事前に読んでおく
8	呼吸理学療法基本手技(3) 呼吸困難の症状や発生機序を理解し、身体機能に及ぼす影響について説明することができる。	講義・実技	レクチャー9を事前に読んでおく レクチャー10を事前に読んでおく
9	酸素療法と呼吸理学療法 呼吸理学療法を実施するうえで必要となる酸素療法について、その意義、目的、方法などを説明することができる。	講義	レクチャー11を事前に読んでおく
10	疾患別呼吸理学療法(1) COPDの病態や問題点を理解し、呼吸理学療法の介入のポイント、具体的な治療について説明することができる。	講義	レクチャー13を事前に読んでおく
11	疾患別呼吸理学療法(2) 急性呼吸不全の病態を理解し、外科手術が生体に与える影響や術後の生体反応について説明することができる。	講義	レクチャー14を事前に読んでおく
12	人工呼吸療法と呼吸理学療法 人工呼吸療法の目的、役割を理解し、人工呼吸器が生体に与える影響を説明することができる。	講義	レクチャー12を事前に読んでおく
13	吸引(1) 呼吸理学療法における吸引の目的を説明することができる。	講義	レクチャー15を事前に読んでおく
14	吸引(2) 安全かつ清潔な吸引操作の方法を説明することができる。	講義・実技	レクチャー15を事前に読んでおく
15	本試験 解説	試験	

■受講上の注意

遅刻、欠席のない様にすること。

講義中の私語、携帯等の音については十分に注意すること。

■成績評価の方法

授業態度、小テスト及び筆記試験にて総合点60点以上を合格とし、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

15レクチャーシリーズ 内部障害理学療法学 呼吸 中山書店

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

内部障害理学療法治療学Ⅱ

講師:菅原 直美

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

循環器疾患における理学療法を行う上で必要な病態に対する知識、診断、治療について理解でき、リハビリテーションの効果やリスク管理、実際について理解できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1)心臓及び血管の構造と特徴を理解できる。 2)循環動態における調節機構について理解できる。	講義	1)LECTURE1, 3を読んでおく
2	1)心電図のしくみ, 心電図の基本波形, 正常心電図を理解できる。 2)心電図モニター, 標準12誘導心電図を装着することができる。	講義	LECTURE2を読んでおく
3	不整脈1 1)理学療法を行う上で, 注意すべき不整脈を判読することができ, 不整脈の重症度を理解できる。 2)心筋虚血と急性心筋梗塞の心電図変化を理解し, 12誘導心電図から梗塞部位を推測することができる。	講義	LECTURE2を読んでおく
4	不整脈2 1)理学療法を行う上で, 注意すべき不整脈を判読することができ, 不整脈の重症度を理解できる。 2)心筋虚血と急性心筋梗塞の心電図変化を理解し, 12誘導心電図から梗塞部位を推測することができる。	講義	LECTURE2を読んでおく
5	虚血性心疾患1 1)虚血性心疾患における病態, 診断, 治療について理解できる。 2)虚血性心疾患における心臓リハビリテーションを理解できる。	講義	LECTURE5を読んでおく
6	虚血性心疾患2 1)虚血性心疾患における病態, 診断, 治療について理解できる。 2)虚血性心疾患における心臓リハビリテーションを理解できる。	講義	LECTURE5を読んでおく
7	心不全1 1)心不全における病態, 診断, 治療について理解できる。 2)心不全における心臓リハビリテーションを理解できる。	講義	LECTURE8を読んでおく
8	心不全2 1)心不全における病態, 診断, 治療について理解できる。 2)心不全における心臓リハビリテーションを理解できる。	講義	LECTURE8を読んでおく
9	弁膜疾患, 大動脈疾患における病態, 治療について理解できる。	講義	LECTURE6を読んでおく
10	1)ICUにおける早期リハビリテーションを理解できる。 2)開胸術後における心臓リハビリテーションを理解できる。	講義	LECTURE6を読んでおく
11	1)運動時におけるエネルギー代謝及び循環・代謝応答について理解できる。 2)運動耐容能とその評価について理解できる。	講義	LECTURE4を読んでおく
12	1)心肺運動負荷試験(CPX)の目的, 方法, 得られる情報を理解できる。 2)心疾患に対する運動療法について理解できる。	講義	LECTURE4, 14を読んでおく
13	グループワーク1 症例を通して, 循環器疾患におけるリハビリテーションの実際(問題点の抽出, リスク管理, プログラム立案, 運動療法の効果)を理解できる。	GW	1)これまでの講義の復習をしておく 2)これまでの配布資料を持参する
14	グループワーク2 症例を通して, 循環器疾患におけるリハビリテーションの実際(問題点の抽出, リスク管理, プログラム立案, 運動療法の効果)を理解できる。	GW	1)これまでの講義の復習をしておく 2)これまでの配布資料を持参する
15	テストを通じて, 内部障害理学療法治療学Ⅱにおける重要事項を理解できる。	試験	これまでの講義の復習をしておく

■受講上の注意

受講前に関連するLECTUREに目を通しておく。

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格, 59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

15レクチャーシリーズ-内部障害理学療法学【循環・代謝】

■備考

少しでも興味を持って下さったら嬉しいです！一緒に頑張りましょう(*´艸`)

■実務経験

本科目は, 理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

内部障害理学療法治療学Ⅲ

講師：菅原 直美

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

代謝性疾患における理学療法を行う上で必要な病態に対する知識，診断，治療について理解でき，リハビリテーションの効果やリスク管理，実際について理解できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
	糖尿病1		
1	1) 糖尿病の概念，診断，成因について理解できる。 2) 糖尿病における薬物療法について理解できる。	講義	LECTURE9を読んでおく
	糖尿病2		
2	1) 糖尿病における急性合併症，慢性合併症を理解できる。 2) 理学療法を行う上で必要な評価及び注意すべき合併症について理解できる。	講義	LECTURE10を読んでおく
	糖尿病3		
3	1) 糖尿病における運動療法，食事療法について理解できる。 2) 糖尿病における療養指導について理解できる。	講義	LECTURE15を読んでおく
	腎疾患1		
4	1) 腎疾患における概念，診断，成因について理解できる。 2) 腎疾患におけるリハビリテーションを理解できる。	講義	LECTURE1，11，12を読んでおく
	腎疾患2		
5	1) 腎疾患における概念，診断，成因について理解できる。 2) 腎疾患におけるリハビリテーションを理解できる。	講義	LECTURE1，11，12を読んでおく
6	1) 末梢動脈疾患における病態，診断，治療について理解できる。 2) 肝疾患における病態，診断，治療を理解できる。 3) 末梢動脈疾患における心臓リハビリテーション，肝疾患を合併した患者に対するリハビリテーションを理解できる。	講義	LECTURE7を読んでおく
7	症例を通して，代謝性疾患におけるリハビリテーションの実際(問題点の抽出，リスク管理，プログラム立案，運動療法の効果)を理解できる。	GW	1)これまでの講義の復習をしておく 2)これまでの配布資料を持参する
8	テストを通じて，内部障害理学療法治療学Ⅲにおける重要事項を理解できる。	筆記試験	これまでの講義の復習をしておく

■受講上の注意

受講前に関連するLECTUREに目を通しておく。

■成績評価の方法

筆記試験にて60点以上を合格とし、59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝

■備考

少しでも興味を持って下さったら嬉しいです！一緒に頑張りましょう(*´艸`)

■実務経験

本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

内部障害理学療法治療学Ⅳ

講師: 富岡 一俊

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

がんの基礎的な知識を理解し、がんのリハビリテーションの実践に必要な基本的理学療法を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	がんの基礎的な知識やがんのリハビリテーションの概要を理解する	講義	テキストの「がんのリハビリテーション総論」の項について読んでおくこと
2	がんの病態や治療戦略を考慮した評価を理解し実践できる	講義	「がんのリハビリテーションガイドライン2013」の評価の項を調べて参加すること
3	乳がんの基礎知識と周術期リハビリテーションを理解する	講義	テキストの「乳がんの特徴・治療・リハビリテーションの概要」の項について読んでおくこと
4	リンパ浮腫の基礎知識とリハビリテーションを理解する	講義	四肢の周径を評価するためにメジャーを用意して臨むこと
5	骨転移患者に対するリスク管理とリハビリテーションを理解する	講義	テキストの「骨・軟部腫瘍、骨転移、脊髄腫瘍の特徴・治療・リハビリテーションの概要」の項について読んでおくこと
6	がん患者に対する緩和ケアの基礎的な知識やリハビリテーションの概要を理解する	講義	テキストの「進行がん・末期がん患者におけるリハビリテーションの概要」の項について読んでおくこと
7	がんのリハビリテーションに求められるコミュニケーション・スキルを身につける	講義	コミュニケーションに関するロールプレイを行いますので、積極的な姿勢で臨むこと
8	試験 まとめ	試験	

■受講上の注意

がんのリハビリテーションを理解するには解剖学や病態生理学の知識が必要になりますので、復習をして臨むこと

■成績評価の方法

1. 定期試験期間に筆記試験(多肢選択問題と記述問題)を行う。
2. 不合格者は定期試験終了後に再試験を行う。”

■テキスト参考書など

テキスト: がんのリハビリテーションマニュアル 周術期から緩和ケアまで, 医学書院, 2011

参考資料: がんのリハビリテーションガイドライン, 金原出版, 2013

國澤洋介・他: 臨床実習サブノート がん. PTジャーナル 50:215-220, 2016

■備考

資料は適宜配布する

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

小児理学療法治療学Ⅰ

講師: 木下 恵美

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

正常発達、障害のある子どもたちの臨床像を学び、その評価・介入について学ぶ。
また、小児理学療法適応疾患の特徴と特有の評価・介入を理解し、理学療法アプローチの立案やリスク管理が出来るようにする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	小児総論 DVD視聴①	講義・GW	
2	小児総論 DVD視聴②	講義・GW	
3	粗大運動発達と姿勢反射の出現・消失(統合)との関係を理解する	講義・GW	テキスト第2章5『姿勢と粗大運動』および配布資料を読んでおくこと
4	新生児・乳児に対するハンドリングを実践できる	講義・実技	配布資料を読んでおくこと
5	脳性麻痺総論: 脳性麻痺の概要を理解できる	講義	テキスト第3章2『脳性麻痺』および配布資料について読んでおくこと
6	脳性麻痺各論①: 痙直型脳性麻痺児(者)に対するリハビリテーションを理解する	講義	テキスト第3章2『脳性麻痺』および配布資料について読んでおくこと
7	脳性麻痺各論②: アトニー型脳性麻痺児(者)に対するリハビリテーションを理解する	講義	テキスト第3章2『脳性麻痺』および配布資料について読んでおくこと
8	NICUのリハビリテーションについて理解する	講義	テキスト第3章1『低出生体重児・ハイリスク児』および配布資料について読んでおくこと
9	二分脊椎症について理解する	講義	テキスト第3章4『小児整形疾患』および配布資料について読んでおくこと
10	産前産後のウィメンズリハビリテーションの概要を理解する	講義	配布資料を読んでおくこと
11	重症心身障害について理解する	講義	テキスト第3章3『重症心身障害』および配布資料について読んでおくこと
12	小児に用いられる補装具について理解する	GW	配布資料を読んでおくこと
13	運動発達促進のためのハンドリングを実施する	講義・実技	配布資料を読んでおくこと
14	まとめ	講義・実技	これまでの講義内容を復習しておくこと
15	本試験	筆記試験	これまでの講義内容を復習しておくこと

■受講上の注意

講義前には課題を課す事もあるので、きちんと事前学習を行い提出期限を遵守する

■成績評価の方法

筆記試験の総合評価により60点以上を合格, 59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

メジカルビュー社「Crosslink理学療法学テキスト 小児理学療法学」
及び配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

小児理学療法治療学Ⅱ

講師: 木下 恵美

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

日常、関わりの少ない子どもの理学療法分野を身近に感じ、その概要を理解する事を目標とする。各論では、狭義における発達障害の疾患概要に加えて、ダウン症の概要とその評価、理学療法の介入方法、児童発達支援・放課後等デイサービスに関する事項も理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	Down症候群とその理学療法について理解する	講義	テキスト1、視聴覚教材2、配布資料3を使用
2	発達障害の概要を理解	講義	テキスト1、視聴覚教材2、配布資料3を使用
3	自閉スペクトラム症の概要を理解する	講義	テキスト1、視聴覚教材2、配布資料3を使用
4	注意欠如多動症の概要を理解する	講義	テキスト1、視聴覚教材2、配布資料3を使用
5	限局性学習症の概要を理解する	講義	テキスト1、視聴覚教材2、配布資料3を使用
6	協調性協調運動症の概要を理解する	講義	テキスト1、視聴覚教材2、配布資料3を使用
7	理学療法士が関わる児童発達支援	講義	テキスト1、配布資料すべてを持参
8	本試験	筆記試験	

■受講上の注意

特に必要とされる場合は、視聴覚教材を使用する。聴講者は、動画を視聴したうえで疾患のイメージを捉え、参考書の概念と照合し理解を深め

■成績評価の方法

筆記試験100点満点中60点以上を合格とし、それ以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

1. 理学療法学テキスト 小児理学療法学 藪中良彦, メジカルビュー
2. 視聴覚教材(動画視聴)
3. 配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

物理療法学Ⅰ		講師: 鮫島 康太
単位数: 1単位	時間数: 15時間	授業学年: 2学年
必修選択: 必修		

■ 科目目標

物理療法は生体が元来有する自然治癒力を賦活してくために、物理的エネルギーを加えることによって治療効果を得ようとするものであり、個々に対して適切に使えるようにする。
 各治療法の作用機序、適応と禁忌、注意点について理解し、生理学的背景とともに理解していくことが目的とする。

■ 科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	物理療法の現状ならびに物理療法の枠組みについて理解する 温熱療法 温熱療法の基礎、作用機序を理解する。 伝導熱の生理学的作用、適応と禁忌、注意点を理解する。 輻射熱の生理学的作用、適応と禁忌、注意点を理解する。	講義	教科書(lecture2、3)を予習しておくこと
2	温熱療法各論: エネルギー変換熱の生理学的作用、適応と禁忌、注意点を理解する。 光線療法の生理学的作用、適応と禁忌、注意点を理解する。	講義	教科書(lecture4)を予習しておく。
3	超音波療法の生理学的作用、適応と禁忌、注意点を理解する。	講義	Lecture8を予習しておく。
4	寒冷療法の生理学的作用、適応と禁忌、注意点を理解する。	講義	Lecture6を予習しておく。
5	水治療法の生理学的作用、適応と禁忌、注意点を理解する。	講義	Lecture7を予習しておく。
6	電気刺激療法の生理学的作用、適応と禁忌、注意点を理解する。	講義	Lecture9を予習しておく。
7	機械力学的刺激療法の生理学的作用、適応と禁忌、注意点を理解する。	講義	Lecture13、14を予習しておく。
8	練習問題	グループワーク	授業内容を国歌試験問題を用い振り返る

■ 受講上の注意

教科書と配布資料の準備

■ 成績評価の方法

筆記試験を実施し、60点以上を合格とする。

■ テキスト参考書など

理学療法テキスト15レクチャーシリーズ 物理療法学・実習(中山書店)

■ 備考

なし

■ 実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

物理療法学Ⅱ

講師: 鮫島 康太

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

物理療法Ⅰで学習した生理学的作用、適応、禁忌を理解し説明ができるようにする。
各物理療法機器の使用方法や使用時の注意事項を説明出来るようになる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	物理療法Ⅰで学習した各物理療法の生理学的作用、適応、禁忌を各グループに分かれ復習し、実施方法を学習する。	講義、GW	教科書・物理療法Ⅰの配布資料を忘れないようにしておくこと
2	物理療法Ⅰで学習した各物理療法の生理学的作用、適応、禁忌を各グループに分かれ復習し、実施方法を学習する。	講義、GW	教科書・物理療法Ⅰの配布資料を忘れないようにしておく。
3	物理療法Ⅰで学習した各物理療法の生理学的作用、適応、禁忌を各グループに分かれ復習し、実施方法を学習する。	講義、GW	教科書・物理療法Ⅰの配布資料を忘れないようにしておく。
4	物理療法Ⅰで学習した各物理療法の生理学的作用、適応、禁忌を各グループに分かれ復習し、実施方法を学習する。	講義、GW	教科書・物理療法Ⅰの配布資料を忘れないようにしておく。
5	神経筋刺激療法(脱神経筋に対するアプローチ)の生理学的作用、適応、禁忌を説明することができ、使用方法を実践する。	講義・実技	学習内容の発表を行うため、powerpointでの準備を行う。
6	神経筋刺激療法(中枢神経麻痺に対するアプローチ)の生理学的作用、適応、禁忌を説明することができ、使用方法を実践する。	講義・実技	学習内容の発表を行うため、powerpointでの準備を行う。
7	ホットパックの生理学的作用、適応、禁忌を説明することができ、使用方法を実践する。	講義・実技	学習内容の発表を行うため、powerpointでの準備を行う
8	パラフィン浴の生理学的作用、適応、禁忌を説明することができ、使用方法を実践する。	講義・実技	学習内容の発表を行うため、powerpointでの準備を行う。
9	超短波・極超短波の生理学的作用、適応、禁忌を説明することができ、使用方法を実践する。	講義・実技	学習内容の発表を行うため、powerpointでの準備を行う。
10	超音波の生理学的作用、適応、禁忌を説明することができ、使用方法を実践する。	講義・実技	学習内容の発表を行うため、powerpointでの準備を行う。
11	寒冷療法の生理学的作用、適応、禁忌を説明することができ、使用方法を実践する。	講義・実技	学習内容の発表を行うため、powerpointでの準備を行う。
12	牽引療法の生理学的作用、適応、禁忌を説明することができ、使用方法を実践する。	講義・実技	学習内容の発表を行うため、powerpointでの準備を行う。
13	水治療法の生理学的作用、適応、禁忌を説明することができ、使用方法を実践する。	講義・実技	学習内容の発表を行うため、powerpointでの準備を行う。
14	経皮的電気刺激(TES)の生理学的作用、適応、禁忌を説明することができ、使用方法を実践する。	講義・実技	学習内容の発表を行うため、powerpointでの準備を行う。
15	筆記試験	筆記試験	

■受講上の注意

教科書と配布資料の準備

■成績評価の方法

筆記試験を実施し、グループ発表の点数を合計し60点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

理学療法テキスト15レクチャーシリーズ 物理療法学・実習(中山書店)
配布資料

■備考

各単元での準備物を忘れないようにする。

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

日常生活活動 I

講師: 酒匂 久光

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	ADLの概念: ADL・QOLの概念を理解する。 国際生活機能分類ICFコードを理解し、分類することができる。	講義	「日常生活活動学」1日常生活活動とは(P2~20)を読み、理解しておくこと。
2	ADLの評価: Barthel-Index、Kenny 式セルフケア得点、PULSESプロフィール、Katz index、Wee FIM、PEDI、その他の評価を理解する。	講義	「日常生活活動学」2日常生活活動評価の概要(P22~71)を読み、理解しておくこと。
3	ADLの評価: FIMの概要、セルフケアを理解し、点数付けできるようにする。	講義	講義資料を読み、理解しておくこと。
4	FIM: 排泄コントロール、移乗、移動、階段昇降の項目を理科し点数付けできるようにする。	講義	講義資料を読み、理解しておくこと。
5	FIM: 社会的認知の項目を理解し、点数付けできるようにする。	講義	講義資料を読み、理解しておくこと。
6	ADLの評価(BI・FIM)の確認テストを行う。	講義	今までの講義資料を確認しておくこと。
7	基本動作を理解する。 複合動作を理解する。 リハビリテーション支援機器を理解する。	講義	「日常生活活動学」3 基本動作とセルフケア(P74~138)を読み、理解しておくこと。
8	本試験	試験	

■受講上の注意

理学療法における必要な基本理念を学ぶ講義です。十分に事前学習をして講義に臨んで下さい。

■成績評価の方法

筆記試験を実施します。60点以上を合格、未満を不合格とします。

■テキスト参考書など

CrossLink 理学療法学テキスト
日常生活活動学

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する。
実技は実習着で行います。身だしなみには十分留意すること。

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

日常生活活動Ⅱ

講師: 山下 喬之、松木 陽一

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

一般目標

- ◎特異的な運動機能障害を理解し、それに基づいた個別化された理学療法介入を計画・実施できるようになる。
- ◎安全かつ効果的な動作補助技術を習得し、患者への適切な指導を行えるようになる。
- ◎患者中心のケアの重要性を認識し、倫理観を持って理学療法士としての役割を果たせるようになる。
- ◎問題解決能力、コミュニケーション能力、チームワーク能力を向上させ、将来、理学療法士として活躍するために必要な基盤を築く。

行動目標

知識・理解

- 各疾患(整形外科疾患・障害、神経疾患・障害)における運動機能障害の特徴を説明できる。
- 日常生活動作の分析方法を理解し、動作の目的や必要な筋力などを分析できる。
- 対象者の生活環境・社会背景と関連付けたアセスメントをすることができる。
- 各種補助具の使用法と適応について説明できる。
- 安全管理の重要性を理解し、事故防止のための対策を講じることができる。

技能

- 学生同士で再現した模擬患者を用いて、安全かつ適切な動作補助(体幹、上肢、下肢支持など)を行うことができる。
- 患者への指導計画を作成し、実践できる。
- 患者とのコミュニケーションを効果的に行い、信頼関係を築くことができる。
- グループワークを通して、他の学生と協力し、課題解決に取り組むことができる。

態度

- 患者中心のケアの重要性を理解し、患者に寄り添った姿勢で接することができる。
- 専門職としての倫理観を持ち、患者情報の保護に努めることができる。
- 自ら学び、成長しようとする意欲を持つ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	教育目標、授業方法、成績判定の説明、日常生活活動に対する理学療法治療学的な介入の具体を理解する。 1)授業の概要と方法を理解する。 2)ADL I で履修した内容に沿って作成されたワークシートの作成を実施できる。	講義/実技	ワークシートの作成は、参考書を参考に実施する。 (担当: 山下)
2	ADL動作に関連する治療を理解し、技術を修得する 到達目標 事前に反転学習教材を視聴してレポート冊子の必要事項に記載した後に受講する。授業中の実技技術の伝達を通して以下の運動療法の目的を説明し、実施できるようになる。 実技1. 側臥位での運動 肩甲骨の挙上と下制 実技2. 側臥位での運動 骨盤帯の挙上と下制	反転学習/ 実技	・PNF理論を参考にして、正しい用手接触、リズムミクイニシエーション、リズムミックスタビライゼーション、抵抗を利用して基本的な運動を実施できるようになる。 ・実技の主項目を通して、ADLにつながる基本動作を意識したハンドリングや運動の方向、口頭指示の仕方などを習得してもらう。 ・実技の出来る服装を着用する。 ・実技中は治療者役と模擬患者役に分かれて反復練習する。 (担当: 山下)
3	ADL動作に関連する治療を理解し、技術を修得する 到達目標 事前に反転学習教材を視聴してレポート冊子の必要事項に記載した後に受講する。授業中の実技技術の伝達を通して以下の運動療法の目的を説明し、実施できるようになる。 実技3. 股関節外転 実技4. ブリッジ 実技5. 座位での運動 脊柱と骨盤帯	反転学習/ 実技	・PNF理論を参考にして、正しい用手接触、リズムミクイニシエーション、リズムミックスタビライゼーション、抵抗を利用して基本的な運動を実施できるようになる。 ・実技の主項目を通して、ADLにつながる基本動作を意識したハンドリングや運動の方向、口頭指示の仕方などを習得してもらう。 ・実技の出来る服装を着用する。 ・実技中は治療者役と模擬患者役に分かれて反復練習する。 (担当: 山下)
4	ADL動作に関連する治療を理解し、技術を修得する 到達目標 事前に反転学習教材を視聴してレポート冊子の必要事項に記載した後に受講する。授業中の実技技術の伝達を通して以下の運動療法の目的を説明し、実施できるようになる。 実技3. 股関節外転 実技4. ブリッジ 実技5. 座位での運動 脊柱と骨盤帯	反転学習/ 実技	・PNF理論を参考にして、正しい用手接触、リズムミクイニシエーション、リズムミックスタビライゼーション、抵抗を利用して基本的な運動を実施できるようになる。 ・実技の主項目を通して、ADLにつながる基本動作を意識したハンドリングや運動の方向、口頭指示の仕方などを習得してもらう。 ・実技の出来る服装を着用する。 ・実技中は治療者役と模擬患者役に分かれて反復練習する。 (担当: 山下)

ADL動作に関連する治療を理解し、技術を修得する		
到達目標		
5 事前に反転学習教材を視聴してレポート冊子の必要事項に記載した後に受講する。授業中の実技技術の伝達を通して以下の運動療法の目的を説明し、実施できるようになる。	反転学習/ 実技	・PNF理論を参考にし、正しい用手接触、リズミックイニシエーション、リズミックスタビライゼーション、抵抗を利用して基本的な運動を実施できるようになる。 ・実技の主項目を通して、ADLにつながる基本動作を意識したハンドリングや運動の方向、口頭指示の仕方などを習得してもらう。 ・実技の出来る服装を着用する。 ・実技中は治療者役と模擬患者役に分かれて反復練習する。 (担当：山下)
実技6. ベッドサイド下肢筋力強化エクササイズと起立動作		
ADL動作に関連する治療を理解し、技術を修得する		
到達目標		
6 事前に反転学習教材を視聴してレポート冊子の必要事項に記載した後に受講する。授業中の実技技術の伝達を通して以下の運動療法の目的を説明し、実施できるようになる。	反転学習/ 実技	・PNF理論を参考にし、正しい用手接触、リズミックイニシエーション、リズミックスタビライゼーション、抵抗を利用して基本的な運動を実施できるようになる。 ・実技の主項目を通して、ADLにつながる基本動作を意識したハンドリングや運動の方向、口頭指示の仕方などを習得してもらう。 ・実技の出来る服装を着用する。 ・実技中は治療者役と模擬患者役に分かれて反復練習する。 (担当：山下)
実技7. 階段昇降、基本・応用練習 実技8. THA術後 床からの起立・床への着座		
ADL動作に関連する治療を理解し、技術を修得する		
到達目標		
7 事前に反転学習教材を視聴してレポート冊子の必要事項に記載した後に受講する。授業中の実技技術の伝達を通して以下の運動療法の目的を説明し、実施できるようになる。	反転学習/ 実技	・PNF理論を参考にし、正しい用手接触、リズミックイニシエーション、リズミックスタビライゼーション、抵抗を利用して基本的な運動を実施できるようになる。 ・実技の主項目を通して、ADLにつながる基本動作を意識したハンドリングや運動の方向、口頭指示の仕方などを習得してもらう。 ・実技の出来る服装を着用する。 ・実技中は治療者役と模擬患者役に分かれて反復練習する。 (担当：山下)
実技9. 脳血管障害 トイレへの移乗 実技9. 脳血管障害 浴槽への出入り 実技10. 脳血管障害 応用歩行		
ADL動作に関連する治療を理解し、技術を修得する		
到達目標		
8 事前に反転学習教材を視聴してレポート冊子の必要事項に記載した後に受講する。授業中の実技技術の伝達を通して以下の運動療法の目的を説明し、実施できるようになる。	反転学習/ 実技	・PNF理論を参考にし、正しい用手接触、リズミックイニシエーション、リズミックスタビライゼーション、抵抗を利用して基本的な運動を実施できるようになる。 ・実技の主項目を通して、ADLにつながる基本動作を意識したハンドリングや運動の方向、口頭指示の仕方などを習得してもらう。 ・実技の出来る服装を着用する。 ・実技中は治療者役と模擬患者役に分かれて反復練習する。 (担当：山下)
実技9. 脳血管障害 トイレへの移乗 実技9. 脳血管障害 浴槽への出入り 実技10. 脳血管障害 応用歩行		
疾病と障害を有する模擬患者に対して計画してきた検査測定を実施し、実践力を養う。		
9 到達目標	実技	・実技の出来る服装 ・検査用紙 ・検査に必要な道具類 (担当：酒匂/板敷/外部模擬患者)
1)事前に提示された事例に対する理学療法評価の項目を列挙し、検査の準備ができる。		
2)授業中の実症例に対して検査測定を実施することができる。		
疾病と障害を有する模擬患者に対して計画してきた検査測定を実施し、実践力を養う。		
10 到達目標	実技	・実技の出来る服装 ・検査用紙 ・検査に必要な道具類 (担当：酒匂/板敷/外部模擬患者)
1)事前に提示された事例に対する理学療法評価の項目を列挙し、検査の準備ができる。		
2)授業中の実症例に対して検査測定を実施することができる。		
11 呼吸理学療法とADL	講義/演習	・配布資料 ・実技の出来る格好 (担当：松木)
12 実技試験/レポート作成	レポート作成/ 実技試験受験	実技試験にあたっては、白衣と実習靴で受験。髪の毛の色を元に戻す、ピアスなどの装飾品を使用しない。 ※山下分実技試験の配点は20点
13 実技試験/レポート作成	レポート作成/ 実技試験受験	実技試験にあたっては、白衣と実習靴で受験。髪の毛の色を元に戻す、ピアスなどの装飾品を使用しない。 ※山下分実技試験の配点は20点
14 実技試験/レポート作成	レポート作成/ 実技試験受験	実技試験にあたっては、白衣と実習靴で受験。髪の毛の色を元に戻す、ピアスなどの装飾品を使用しない。 ※山下分実技試験の配点は20点

■受講上の注意

授業の回前には、反転授業用の動画教材を視聴して、レポート冊子の空欄を埋めてから実技授業に臨むこと。長期実習時の理学療法プログラムの立案と、実際の治療の際に活かせるように、確実に技術を修得する事。

■成績評価の方法

各教員の課題を合算して算出(山下:70点、酒匂:20点、松木:10点)。100点満点中60点以上で合格、それ以下は再試験を筆記試験にて実施。

■テキスト参考書など

#1. クロスリンクシリーズ: 日常生活活動(ADL)

#2. 講義資料

レポート冊子

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する。

実技は実習着を着用。

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

義肢装具学Ⅰ

講師：富岡 一俊

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

リハビリテーション医学の領域で非常に重要な位置を占める装具療法に関して学ぶ。正確な装具を作成・適合させるための医学的知識とならんでバイオメカニクス、材料学、製作加工法などを学ぶ。また、疾患ごとの特徴と装具療法の適応を学び、患者に合った装具処方に関しての必要な知識を学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	装具学総論：装具療法の歴史や定義・目的を学び、装具療法の位置づけを知る。		テキスト第1章『装具総論』第2章『装具を理解するための運動学』および配布資料について読んでおくこと
2	脳血管疾患の装具療法：CVAにおける装具の役割・重要性を学び、種類に合わせた装具機能を学ぶ。		テキスト第3章『短下肢装具』第4章『長下肢装具』および配布資料を読んでおくこと
3	靴型装具足装具：靴の基本構造を学び、対応疾患に合わせた靴補正や足底板が説明できる。		テキスト第5章『靴型装具』および配布資料を読んでおくこと
4	脊椎疾患の装具：体幹装具の名称・機能を学び、部位別の装具の特徴を説明することができる。		テキスト第9章『頸部体幹装具』第10章『頸部体幹装具のチェックアウト』および配布資料を読んでおくこと
5	脊柱側彎症の装具：側弯症の原因と種類を説明でき、装具の種類と適応を理解し、チェックが出来る。		テキスト第9章『頸部体幹装具』第10章『頸部体幹装具のチェックアウト』および配布資料を読んでおくこと
6	骨関節疾患の装具：骨折・靱帯損傷・関節変形症・スポーツ外傷などの各種装具を理解し、説明できる。		第7章『上肢装具』第14章『スポーツ外傷に対する装具』および配布資料について読んでおくこと
7	末梢神経損傷・手の装具：上下肢の末梢神経と症状を理解する。症状に合った装具を選択し説明ができる。		テキスト第7章『上肢装具』第8章『上肢装具のチェックアウト』および配布資料について読んでおくこと
8	頸髄損傷・脊髄損傷の装具：障害レベルと残存機能を説明できる。また、残存機能に沿った装具療法を学ぶ。		テキスト第12章『脊髄損傷患者に対する装具』および配布資料について読んでおくこと
9	脳性麻痺の装具：脳性麻痺による下肢障害に適応する装具が選択できる。		テキスト第13章『小児疾患患者に対する装具』および配布資料について読んでおくこと
10	小児疾患の装具：疾患の理解と特徴的な装具の役割を理解することができる		テキスト第13章『小児疾患患者に対する装具』および配布資料について読んでおくこと
11	リウマチの装具：リウマチの症状を理解し、装具の目的と適応を説明することができる。		テキスト第7章『上肢装具』第8章『上肢装具のチェックアウト』および配布資料について読んでおくこと
12	坐位保装置・車いす：姿勢保持装置の役割・効果を学び適応やチェックポイントを説明することができる。		配布資料について読んでおくこと
13	臨床を交えた装具療法の選択法：1～12を通して、臨床に沿った装具療法の選択法や効果を学ぶ。		これまでの講義資料を復習しておくこと
14	症例検討：症例を通して、装具療法の検討を行う。		テキスト第11章『脳卒中片麻痺患者に対する装具』および配布資料について読んでおくこと
15	本試験・まとめ		装具学のまとめを行い、本試験を受ける

■受講上の注意

講義前には課題を課す事もあるので、きちんと事前学習を行い提出期限を遵守する。

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

テキスト：南江堂「シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト改訂第2版」

参考書：医学書院「義肢装具のチェックポイント第7版」

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

義肢装具学Ⅱ

講師: 鮫島 淳一

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

最近の切断の原因の動向を踏まえ、治療方針を理解し、基本的な理学療法介入の立案やリスク管理ができるように学習する。さらに、義足に関する異常歩行の基礎を学び、歩行分析を行える臨床力を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	義肢総論と切断に関する理学療法診療ガイドラインについて理解する	講義	「理学療法診療ガイドライン2011 下肢切断」を調べて参加すること
2	切断の原因や部位、切断術等について理解する	講義	解剖学、病態生理学の復習をして臨むこと
3	切断術後の断端管理について理解する	講義実技	素足が出せるような服装を着用の上、寒くなくして出席すること
4	切断に関する評価を理解する	講義実技	形態測定、関節可動域、筋力等に関する評価の復習をして臨むこと
5	義肢の基本構造等について理解する 模擬義足を体験する	講義実技	模擬義足を装着して歩行可能な服装で臨むこと
6	義足歩行の特徴とバイオメカニクスについて理解する	講義実技	運動学や運動力学について復習をして臨むこと
7	義足の継手について理解する	講義	テキスト「義足」の項を予習して臨むこと
8	股義足、大腿義足の特徴について理解する	講義	正常歩行に関する内容を復習して臨むこと
9	膝義足、下腿義足の特徴について理解する	講義	正常歩行に関する内容を復習して臨むこと
10	義手の特徴について理解する	講義	テキスト「義手」の項を予習して臨むこと
11	切断者に対する運動療法やADL練習等を理解する	講義実技	基本的な関節可動域運動やADL練習等について復習をして臨むこと
12	義足に関する異常歩行の特徴を理解する	講義実技	基礎運動学や臨床運動学の歩行に関する内容を復習して望むこと
13	異常歩行に対する運動療法やアライメント調整を理解する	講義実技	義足歩行の特徴と基本的な運動療法等について復習をして臨むこと
14	切断に対する理学療法の実際と給付制度について理解する	講義実技	テキスト「義肢装具の給付制度」の項を予習して臨むこと
15	終講試験およびまとめ	試験	義肢に関するまとめを行い、終講試験を受ける

■受講上の注意

義肢・装具を理解するには解剖学や病態生理学、運動力学的な知識が必要になりますので、復習をして臨むこと。学習を深めるために、予習・復習をしっかりと行って講義に臨んで下さい。

■成績評価の方法

1. 定期試験期間に筆記試験(多肢選択問題と記述問題)を行う。
60点以上を合格、59点以下を不合格とする

■テキスト参考書など

テキスト: シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト改訂第2版 南江堂 2013

参考図書: 理学療法診療ガイドライン2011 下肢切断 義肢装具のチェックポイント 第7版 医学書院 2007

■備考

資料は適宜配布する

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

義肢装具学Ⅲ

講師: 栗屋 憲治、中禮 仁孝

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

義肢装具、車椅子、座位保持装置などを含む補装具に関する知識を深め製作工程や適合チェックを通してリハビリテーション医療の一部を担う義肢装具分野の理解を深める

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
	短下肢装具の概論		
1	短下肢装具の採寸・採型デモンストレーション 学生採型練習	講義	積極的に授業に臨むこと
	短下肢装具の概論		
2	短下肢装具の採寸・採型デモンストレーション 学生採型練習	講義	積極的に授業に臨むこと
	足底装具の採型法および陽性モデル修正(デモ) 短下肢装具の陽性モデル修正(デモ)	講義	積極的に授業に臨むこと
3	足底装具の採型法および陽性モデル修正(デモ) 短下肢装具の陽性モデル修正(デモ)	講義	積極的に授業に臨むこと
4	足底装具の採型法および陽性モデル修正(デモ) 短下肢装具の陽性モデル修正(デモ)	講義	積極的に授業に臨むこと
	靴型装具について 車椅子・座位保持装置について	講義	積極的に授業に臨むこと
5	靴型装具について 車椅子・座位保持装置について	講義	積極的に授業に臨むこと
6	靴型装具について 車椅子・座位保持装置について	講義	積極的に授業に臨むこと
	下肢装具適合チェック 大腿義足のダイナミックアライメントについて(大腿義足ユーザーを同行)	講義	積極的に授業に臨むこと
7	下肢装具適合チェック 大腿義足のダイナミックアライメントについて(大腿義足ユーザーを同行)	講義	積極的に授業に臨むこと
8	下肢装具適合チェック 大腿義足のダイナミックアライメントについて(大腿義足ユーザーを同行)	講義	積極的に授業に臨むこと

■受講上の注意

私語を慎むこと。真剣に取り組んでください

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、未満を不合格とする。

■テキスト参考書など

配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、義肢装具士として実務経験のある教員による授業である。

運動器学 I

講師: 白尾 泰宏

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

基礎運動学を学習することは、機能障害を診る理学療法士にとって臨床の場でも必要不可欠であり、生涯に渡り追及していく学問である。授業では上肢の解剖、関節運動、骨の役割、筋肉、靱帯を重視し、授業を進めていく。

- ①人体における運動器の構造と機能を理解する。
- ②特に上肢帯の構造(骨・筋・神経系・血管系)と運動について理解する。
- ③上肢の各関節運動を行う主動筋、神経支配、レベルを理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	上肢帯・上肢の骨格と解剖について理解する。	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
2	上肢帯と肩関節の運動について理解する	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
3	胸鎖関節・肩鎖関節・肩甲胸郭関節(鎖骨の役割、靱帯、筋肉)について理解する	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
4	肩甲上腕関節(鎖骨の役割、靱帯、筋肉)について理解する	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
5	肩の機能(肩甲上腕リズム・ローテーターカフ)について理解する	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
6	膝関節の筋肉(二関節筋と単関節筋の機能)、神経支配について理解する	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
7	腕尺関節・腕橈関節の機能について理解する	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
8	肘・前腕の靱帯・筋肉・支配神経について理解する	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
9	手関節骨格と解剖について理解する	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
10	手指骨格と解剖について理解する	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
11	手指(第2～5指)を構成する関節の骨運動、関節運動に機能する筋について理解する	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
12	手指(第1指)を構成する関節の骨運動、関節運動に機能する筋について理解する	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
13	手指の支配神経について理解する	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
14	手のアーチ、腱固定作用、手の変形について理解する	講義	・講義で習う骨の名称や筋肉の場所 起始停止作用神経支配を確認しておくこと
15	運動学 I のまとめ	講義	運動学 I のまとめとして終講試験を受ける

■受講上の注意

解剖学・運動学・生理学の復習をしておくこと。実習は、積極的にを行うこと。

■成績評価の方法

筆記試験の総合評価により60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

配布資料にて講義を行います

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

運動器学Ⅱ

講師: 白尾 泰宏

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

解剖学・運動学の知識を基に臨床で必要な触診技術、徒手で行う関節評価技術を理解できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	腰椎の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
2	腰椎・仙腸関節の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
3	股関節の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
4	股関節の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
5	膝関節の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
6	膝関節の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
7	足関節の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
8	肩複合体の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
9	肩複合体の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
10	肩複合体の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
11	頸椎の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
12	頸椎の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
13	手・肘関節の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
14	胸郭の機能評価を理解できる。	講義・実技	実技を紹極的に行い、関節機能評価技術を学ぶ。
15	終講試験およびまとめ。		

■受講上の注意

解剖学・運動学・生理学の復習をしておくこと。実習は、積極的に行うこと。

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

配布資料にて講義を行います

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

スポーツ理学療法 I

講師: 福田 隆一、永濱 良太、中畑 敏秀

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

概要: スポーツ理学療法に関する基本的な知識を習得し、各種スポーツ外傷や障害における病態の特徴、評価内容、治療プログラムについて学習する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	スポーツ理学療法概論1	スライド資料	体力とは、外傷・障害の原因(内的・外的)
2	スポーツ理学療法概論2	スライド資料	発育期の特徴、トレーニングの原理原則
3	スポーツ理学療法 体幹	スライド資料	スポーツにおける腰部障害(腰痛を中心に)
4	スポーツ理学療法 上肢	スライド資料	スポーツ障害肩疾患の特徴
5	スポーツ理学療法 上肢	スライド資料	スポーツ肘障害、その他上肢疾患
6	スポーツ理学療法 下肢	スライド資料	スポーツ股関節・膝障害
7	スポーツ理学療法 下肢	スライド資料	スポーツ足関節障害・その他
8	終講試験		

■受講上の注意

授業中の居眠り、携帯、無駄話厳禁。私語はしないように、疑問点があれば質問をすること。実技になるとふざける者もいるため、正しい反応が診えなくなる場合もあり、真摯に取り組んでいただきたい。

■成績評価の方法

終講試験 100% (50問)

■テキスト参考書など

適時配布 参考本提示のみ

■備考

テーピングの用意(38mm固定1本、アンダーラップ1本、模擬氷、ビニール)

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

スポーツ理学療法Ⅱ

講師：福田 隆一、永濱 良太、中畑 敏秀

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

前期のスポーツにおける外傷や障害を理解したうえで、理学療法実技評価を行い、実際の理学療法プログラムを作成、実技を実践することを目標とする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	テーピング総論(固定)	資料・テーピング式	テーピング(固定・弾性)38mm、50mm
2	各固定・キネシオのテーピング	実技	手関節・肘関節・膝関節
3	腰痛の評価・運動療法実技	評価・治療	評価治療プログラムまで
4	上肢のスポーツ外傷・障害の概要を理解できる。	講義・評価実技	上肢の解剖学・運動学の予習を行うこと
5	上肢のスポーツ外傷・障害に対する評価・プログラム立案・治療までの流れを理解する。	講義・評価、治療の実技	外傷・障害発生の理解の復習。 評価・治療の実技を実施。
6	膝・足関節靱帯損傷、半月板損傷の評価、運動療法が理解できる。	評価・治療実技	膝・足関節の解剖、運動学の基礎的事項を復習しておくこと。
7	下肢スポーツ外傷での評価(下肢アライメント評価・筋の柔軟性評価)、運動療法が理解できる。	評価・治療実技	下肢筋についての走行を復習しておくこと
8	終講試験		

■受講上の注意

授業中の居眠り、携帯、無駄話厳禁。私語はしないように、疑問点があれば質問すること。
実技になるとふざけるものもいるため、正しい反応が診えなくなる場合もあり、真摯に取り組んでいただきたい。

■成績評価の方法

終講試験 100% (50問)

■テキスト参考書など

参考本提示のみ

■備考

テーピングの用意(38mm固定1本、アンダーラップ1本、50mm固定1本、弾性1本、キネシオ38mm、50mm1本ずつ)のこと

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

パラスポーツ論

講師：酒匂 久光

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

・パラスポーツに関する基礎的な知識や、障がい者に対応するための基本的な技術を修得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解し、パラスポーツの現状と課題を知る。(パラスポーツ指導員初級No2:パラスポーツの意義と理念読替)(スポーツコーチング演習)	講義・GW	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
2	障がい者・障がい(身体がい(肢体不自由、視覚障がい、聴覚・言語障害、内部障がい)、知的障がい、精神障がい、)の理解をする。(パラスポーツ指導員初級No.8:各障がいの理解)(スポーツコーチング演習)	講義・GW	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
3	障がい者のスポーツ指導者の育成について、公認障がい者スポーツ指導者制度について知る。また将来の指導者としてのキャリアを考え、自身の指導者像を形成する。(パラスポーツ指導員中級No3:パラスポーツ指導員としてのキャリア形成読替)(スポーツコーチング演習)	講義・GW	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
4	スポーツ活動をしている障がい者の体験談を聞いたり、スポーツ活動現場に出かけ、障がい者とのふれあいを通じ、障がい者にとってのスポーツの意義・価値を学ぶ。(パラスポーツ指導員初級No4:障がいのある人との交流読替)	講義・演習	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
5	障がい者がスポーツやレクレーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫や、指導する側の留意点、接し方について学ぶ。(パラスポーツ指導員初級No9:各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫読替)(スポーツコーチング演習)	講義・演習	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
6	誰でも参加できるパラスポーツイベントを立案する。(パラスポーツ指導員初級No9:各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫読替)(スポーツコーチング演習)	講義・演習	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
7	全国障害者スポーツ大会の基本理念など大会の概要及び大会開催の目的や意義について学び、大会がスポーツ未経験者や初心者者のスポーツ参加の動機づけになっていること、地域のスポーツ振興を進める契機となっていることを学ぶ。(パラスポーツ指導員初級No10:全国障害者スポーツ大会の概要読替)	講義・GW	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
8	全国障害者スポーツ大会へ帯同するスタッフとして、代表選手の選考方法および選手や選手団に必要なサポートについて学ぶ。(パラスポーツ指導員中級No8:全国障害者スポーツ大会選手団編成とスタッフの役割読替)	講義・GW	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく

■受講上の注意

事前学習を行ってきてください。

■成績評価の方法

全講義終了後レポート課題を提出し、その内容が妥当であるか判断する。60点以上を合格とし、59点以下は不合格とする。

■テキスト参考書など

- ・改訂版 障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級) — 2020年改訂カリキュラム対応
- ・全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

生活環境論			講師: 山下 喬之
単位数: 1単位	時間数: 15時間	授業学年: 2学年	
必修選択: 必修			

■科目目標

「生きること」と「生活すること」。対象者の日常生活活動を営む動作、動作の実現が生活の質の向上につながる関連性、生活の質の向上がもたらすウェルビーイングの実現を理学療法士の観点から考え、実習時の治療プログラムの立案に活かすことが出来るようになる。

本科目では、理学療法士として対象者の主体性を尊重しながら、生活環境への適切な介入方法をことを目的とする。物的環境・人的環境・社会的環境の相互関係をわかりやすく、理学療法の視点から支援を行うための知識と技術を習得する。

○科目を履修することで獲得できる態度・知識・技能

- 1) 理学療法士として生活環境を対象に介入する意義を理解することができるようになります。
- 2) 理学療法士が生活環境に介入する場合の環境、状況を理想起することができるようになります。
- 3) 住宅改修時に必要となる基本的な家屋着眼点を理解し、計測と改修箇所に必要となる福祉用具などを選定することができるようになります。
- 4) 生活環境に介入する際の、主体という概念の多様性を理解することができます。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
	・授業オリエンテーションを通して、授業の全体像を把握する。 ・生活環境の基本概念と理学療法士が行う介入の具体を理解する		
1	到達目標 1) 授業の概要と方法を理解する。 2) 支援を行う中での「主体」とは何か、誰の事を指すのかを理解して説明できる。 3) 対象者と環境、それらの相互作用について説明できる。 理学療法士の生活環境への介入方法を理解する	講義	
2	到達目標 1) 対象者の日常生活活動(ADL)の維持・自立を目的とした評価方法列挙できる。 2) 生活支援が必要となる対象者に準備された我が国の保険制度について理解して説明することが出来る。 3) 環境配慮が身体機能や認知機能に与える影響を考慮し、理学療法の視点から適切な支援方法を提案できる。 心身機能と生活環境の相互関係を理解する	講義	
3	到達目標 1) 認知機能の概要とその生活環境への影響について説明できる。 2) 認知機能の低下が実現する生活上の課題を理解し、対象者の特性に応じた支援策を試行し、表出することができる。 福祉住環境コーディネーターに関する基礎知識を理解する	講義	
4	到達目標 1) 福祉住環境コーディネーターの役割と、理学療法士としての業務との関連性を説明できる。 2) 住宅改修やバリアフリー設計に関する基礎的な知識を習得し、多方面と連携しながら具体的な住環境の提案ができる。 移動および生活環境支援の実践的知識を修得する	講義	
5	到達目標 1) 移動に関連する環境配慮(床材、手すり、スロープ等)について、そのメリット・対策を考える、適切な支援方法を考えられる。 2) 生活環境における安全性と実用性を重視し、理学療法士としての介入の優先度を判断できる。 セルフケアと生活環境支援の実践的知識を修得する	講義	環境配慮に関しては、段差解消、手すりの設置、トイレ・浴室・階段の具体的方法を考える。
6	到達目標 1) 食事・整容・更衣・排泄・入浴といった生活活動に対する理学療法士の支援方法を見据え、具体的な支援計画に役立てられるアイデアを模索することができる。 2) 対象者の生活環境を評価し、必要な福祉用具の選定や住宅改修の提案ができる。 福祉用具の適切なアドバイスと活用方法を理解する	講義	セルフケアに関しては、食事、整容、更衣、排泄、入浴に関する基本動作への介入を主眼に考える。
7	到達目標 1) 対象者の身体機能や要介護度に応じた福祉用具の名称を挙げることができる。 2) 福祉用具の貸与・改修・支援制度について理解し、説明することができる。	講義	福祉用具の名称と導入の目的を考える。
8	本試験		

■受講上の注意

講義資料(ワークシート冊子)とテキストを持参すること

■成績評価の方法

筆記試験100点満点。合格点を60点とし、合格点に満たない場合は再試験を実施する。

■テキスト参考書など

メジカルビュー社:生活環境学、ワークシート冊子

■備考

次年度の福祉住環境コーディネーター試験の内容の基盤にあたいする科目となります。

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

福祉環境論

講師: 横山 尚宏

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

理学療法士の担う役割は、病院・施設から在宅へとニーズが多様化している。在宅リハビリテーションは予防医学、在宅復帰へとその役割は計り知れない。在宅復帰のために、福祉に即した建築知識・疾患別に対応した在宅・福祉用具の活用法、日本の福祉環境や法律の習得を目指す。また、7月～8月に開催される福祉住環境コーディネーター2級の合格を目指す。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	過去問題を解き、出題難易度や傾向を確認する(第1回)	過去模試	2年次までの地域・福祉・医療分野の復習をしておくこと
2	過去問題を解き、出題難易度や傾向を確認する(第2回)	過去模試	2年次までの地域・福祉・医療分野の復習をしておくこと
3	過去問題を解き、出題難易度や傾向を確認する(第3回)	過去模試	2年次までの地域・福祉・医療分野の復習をしておくこと 前回までの問題を振り返っておく
4	過去問題を解き、出題難易度や傾向を確認する(第4回)	過去模試	2年次までの地域・福祉・医療分野の復習をしておくこと 前回までの問題を振り返っておく
5	過去問題を解き、出題難易度や傾向を確認する(第5回)	過去模試	2年次までの地域・福祉・医療分野の復習をしておくこと 前回までの問題を振り返っておく
6	模擬試験(第1回)	模擬試験	前回までの復習を確実にしておくこと
7	模擬試験(第2回)	模擬試験	各分野の復習、理解に努める
8	本試験	筆記試験	過去5回分を混合して出題。学生に伝達し、過去5回分の問題を解いて理解を深める

■受講上の注意

福祉住環境コーディネーター2級取得を目指し、学習すること

■成績評価の方法

筆記試験にて評価する。(60点以上を合格、未滿を不合格とする)

■テキスト参考書など

改訂4版 福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

地域リハビリテーション論

講師: 西田 徳和

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

この授業では、地域リハビリテーションを理解し、法制度を学ぶことにより、障害者の自立支援、高齢者の生活を支える為の方法論を理解する。地域リハビリテーション活動の一翼を担う地域における理学療法士の知識について学ぶ。またパラスポーツに関する諸施策などを理解し、パラスポーツを体験する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	ノーマライゼーションとリハビリテーションを理解する。 地域リハビリテーションの定義と歴史を理解する。制度の変遷を学ぶ。	講義	総論1.2を読んでおくこと。
2	介護保険サービスの概論を理解する。	講義	総論3を読んでおくこと。
3	介護保険の仕組みを理解する。	講義	総論3を読んでおくこと。
4	介護保険サービス下での理学療法士の役割を理解する。	講義	各論9を読んでおくこと。
5	地域包括ケアシステムの中での理学療法士の役割を理解する。	講義	総論4を読んでおくこと。
6	介護予防と健康増進について理解する。	講義	各論10を読んでおくこと。
7	パラスポーツについて理解する。(わが国の障がい者福祉施策(障害者手帳を含む)およびパラスポーツに関する施策(スポーツ基本法やスポーツ基本計画など)について学ぶ。初級パラスポーツNo.6「パラスポーツに関する諸施策」)	講義	講義資料に目を通し内容を確認しておくこと。
8	パラスポーツについて理解する。(パラスポーツに関わる諸団体や関係所轄について理解し、連携することの必要性について学ぶ。)中級パラスポーツNo.3「地域におけるパラスポーツ振興」	講義	講義資料に目を通し内容を確認しておくこと。
9	パラスポーツについて理解する。(地域のパラスポーツ振興の現状について学ぶ。パラスポーツ指導者制度の概要、鹿児島県のパラスポーツの現状について学ぶ。)(組織、活動状況など)初級パラスポーツNo.5「パラスポーツ推進の取り組み」	講義	講義資料に目を通し内容を確認しておくこと。
10	パラスポーツについて理解する(公認パラスポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。実践、演習を通して人前で話すこと、相手の意見を傾聴することを体験する。)パラスポーツ初級No.3「コミュニケーションスキルの基礎」	講義	講義資料に目を通し内容を確認しておくこと。
11	パラスポーツについて理解する。補装具の種類を理解し、その取扱いについて学ぶ。 ・補装具の種類や名称および用途(義肢、車いす、下肢装具、歩行器、杖など) ・競技・日常で使用する補装具の操作や管理方法(体験等含む) ・補装具のパフォーマンスに与える影響(リスクや留意点) 中級パラスポーツNo.14「補装具の理解」	講義	講義資料に目を通し内容を確認しておくこと。
12	パラスポーツについて理解する。(パラスポーツを体験する)全国障害者スポーツ大会実施競技の実技を通して、その競技規則や指導法などを学ぶ。卓球(STT含)(パラスポーツ指導員中級:全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則) 中級パラスポーツNo.10「全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則」	講義・実技	講義資料に目を通し内容を確認しておくこと。
13	パラスポーツについて理解する。(パラスポーツを体験する)全国障害者スポーツ大会実施競技の実技を通して、その競技規則や指導法などを学ぶ。卓球(STT含)(パラスポーツ指導員中級:全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則) 中級パラスポーツNo.10「全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則」	講義・実技	講義資料に目を通し内容を確認しておくこと。
14	災害時の理学療法について理解する。	講義	各論14を読んでおくこと。

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験の総合評価により60点以上を合格, 59点以下を不合格とする.

■テキスト参考書など

地域リハビリテーション学テキスト:南江堂 配布資料.

■備考

■実務経験

本科目は, 理学療法士として実務経験のある教員による授業である.

臨床実習 I

講師:専任教員全員

単位数:1単位

時間数:45時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

臨床実習 I (臨床見学体験実習)とは、1年次に行う実習である。臨床見学体験実習の目標は、医療現場で実施されている理学療法士の仕事を理解することである。また、社会人として適切な態度で実習に臨み、対象者や医療スタッフとコミュニケーションを図ることである。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
	学内カリキュラム コミュニケーション、医療面接、検査測定(バイタル、形態測定、ROM)、基本動作・動作分析の導入と介助法を学習している。コミュニケーションに関しては積極的に体験し、その他学習している内容に関しては、目的を持って見学を行う。		
1	行動目標 ・対象者との対応時に適切な態度・言葉使いができる。 ・理学療法士の業務内容を理解する。 ・関連職種の理解を深める。 ・当該施設の規則を遵守することができる。	臨床実習 臨床実習マニュアル参照	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			

■受講上の注意

臨床実習マニュアルを熟読しておくこと。

■成績評価の方法

指導者およびスタッフによる臨床実習の到達度あるいは成長点に関するルーブリック評価内容、理学療法学科内にて報告書等の提出により総合的に検討し、判断する

■テキスト参考書など

それぞれの臨床実習で必要な参考書などを学生各個人で収集する。もしくは学内において使用した教科書なども参考にする。

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員と実習指導者による授業である。

臨床実習Ⅱ		講師:専任教員全員
単位数:2単位	時間数:90時間	授業学年:2学年
必修選択:必修		

■科目目標

臨床実習Ⅱ(臨床検査測定体験実習)は2年次に行う実習である。臨床検査測定体験実習の目標は、対象者の身体症状を観察し、“見学・共同参加・監視”の段階を踏まえて、検査測定の多様性を体験することである。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
	学内カリキュラム 認知領域として理学療法評価に必要となる“各検査測定の意義・目的”を学んで おり、精神運動領域では、健康人に実践出来る段階である。		
1	行動目標 ・対象者に各検査項目の意義・目的を適切に伝えることができる。 ・心身機能・身体構造レベルに対する検査測定を体験し、対象者の身体状況に応じて可能な限り正確に実施することができる。また、動作分析を中心とした活動レベルに対する評価も可能な限り体験する。	臨床実習 臨床実習マニュアル参照	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			

35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45

■受講上の注意

臨床実習マニュアルを熟読しておくこと

■成績評価の方法

指導者およびスタッフによる臨床実習の到達度あるいは成長点に関するルーブリック評価内容、実習の報告書等、理学療法学科内にて総合的に検討し、判断する

■テキスト参考書など

それぞれの臨床実習に必要な参考書などを学生各個人で収集する。もしくは学内において使用した教科書なども参考にする。

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員と実習指導者による授業である。

臨床実習Ⅲ		講師:専任教員全員
単位数:1単位	時間数:45時間	授業学年:3学年
必修選択:必修		

■科目目標

臨床実習Ⅲは、3年次に実施される実習である。本実習の目標は、地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの役割やリハビリテーションマネジメント等について理解することである。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
	行動目標		
1	・対象者と適切な態度・言葉使いに心がけコミュニケーションを図る。 ・利用者の日常生活における状況を把握し、リハビリテーションマネジメントを含めた理学療法士の業務内容を理解する。 ・地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの役割を理解する。	臨床実習	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			

■受講上の注意

■成績評価の方法

出席状況・ルーブリック評価・実習終了後の報告書を踏まえ、可否を判定する。

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員と実習指導者による授業である。

臨床実習Ⅳ		講師:専任教員全員
単位数:3単位	時間数:135時間	授業学年:3学年
必修選択:必修		

■科目目標

臨床実習Ⅳ(臨床評価実習)は3年次に実施される実習である。臨床評価実習の目標は、いわゆる「トップダウン型」の理学療法体験を通じて、問題点把握とGoal設定の関連性を理解することである。「トップダウン型」の理学療法体験では、複雑な障害を呈さない対象者に対して、基本動作の分析を基盤に活動レベルを把握し、事前に収集した情報と組み合わせて、心身機能・身体構造に関する臨床思考(仮説)を立て、検査測定を実施する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
	学内カリキュラム 認知領域として理学療法に必要となる各評価と治療の意義・目的、並びに医療保険、介護保険制度を学んでいる段階である。可能であれば、臨床の場で展開される治療も見学・監視レベルで体験し、理解を深める。		
1	行動目標 ・実習指導者と学生間で“対象者の障害像とGoal設定”を共有し、理学療法評価に必要な情報収集と適切な医療面接を実施する。 ・基本動作から対象者の抱える活動レベルの問題点を分析し、心身機能・身体構造との関連に臨床思考を立て、検査測定を実施する。 ・問題点の優先順位を考え、Goal設定との繋がりを理解する。	臨床実習 臨床実習マニュアル参照	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			

35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50

■受講上の注意

臨床実習マニュアルを熟読しておくこと

■成績評価の方法

指導者およびスタッフによる臨床実習の到達度あるいは成長点に関するルーブリック評価内容、体験症例報告書にて総合的に検討し判断する

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員と実習指導者による授業である。

臨床実習Ⅴ		講師:専任教員全員
単位数:16単位	時間数:720時間	授業学年:4学年
必修選択:必修		

■科目目標

臨床実習Ⅴ(臨床長期実習)は4年次に実施される実習である。長期実習の目標は、3年次までの学内教育および臨床実習で得た知識と体験を活かして対象者の抱える問題点把握・Goal設定・治療プログラム作成・効果判定”との一貫性を理解することである。また精神運動領域では“見学・共同参加・監視”の段階を経て、理学療法治療の体験に至る。本実習を通じて多職種連携の観点を学び、チームとしてのアプローチについても経験する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
	行動目標 ・実習指導者と学生間で“対象者の障害像とGoal設定、治療プログラム”を共有し、トップダウン評価から得られた対象者の問題点を把握する。 ・対象者の抱える問題点把握とGoal設定、治療計画の一貫性を学び、臨床実習指導者の指導の下に理学療法を体験し、効果判定を実施する。 ・多職種連携を経験し、医療保険並びに介護保険制度、予防医学の観点を踏まえた幅広いチームとしてのアプローチを経験する。	臨床実習	
	第Ⅰ期 2 臨床実習指導者の指導のもと、医療スタッフとしての理学療法士の役割、義務を理解する。 3 評価から治療実践までの流れを理解し、適切な治療計画を立案し、対象者を総合的に捉え、基本的な理学療法治療・指導計画を遂行できる。		
	第Ⅱ期 4 Ⅰ期で得た経験をもとに基本的な理学療法治療・指導計画を作成し、指導・助言のもと、あるいは独立して治療を遂行できる。		
5	対象者を総合的にとらえ多角的にアプローチできる。	臨床実習 臨床実習マニュアル参照	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			

22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50

■受講上の注意

臨床実習マニュアルを熟読しておくこと

■成績評価の方法

指導者およびスタッフによる臨床実習の到達度あるいは成長点に関するルーブリック評価内容、体験症例報告書等を踏まえ、理学療法学科内にて総合的に検討し、判断する。

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員と実習指導者による授業である。

スポーツコーチング演習

講師: 鮫島 康太、上田 晃希

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 選択

■科目目標

スポーツはする人、観る人、支える人など、年齢や性別を問わず、多様な人に多様な楽しみをもたらしてくれる。他者と競い合うスポーツばかりではなく、交流や健康の維持・増進を目的としたレクリエーション的な身体活動やスポーツ実践の目的は存在してよい。プレイヤーのそれぞれの目的の達成を支援していく存在がコーチである。

コーチングに携わる者が、プレイヤーのニーズに応えられるコーチングスキルを身につけておく必要がある。コーチングをより深く理解するスタートとなるようにする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	コーチングとは コーチングとコーチの定義を理解し、プレイヤーズセンタードなコーチングを理解し、選手の人間性、有能さを高め、グッドプレイヤーを育てることができる知識を身につける。 コーチの制御動作が選手の成長に与える影響、自律を支援する行動を学ぶ。	講義・GW	Reference book p2～21、配布資料に目を通し内容を確認しておくこと
2	コーチに求められる役割 スポーツ指導者とはなにかを知り、望ましい、理想とするスポーツ指導者をディスカッションを行い、自身の指導者像を構築していく。 コーチングとしての果たすべき役割、安全なスポーツ環境の構築を学ぶ。	講義・GW	Reference book p22～28、配布資料に目を通し内容を確認しておく
3	コーチに求められる知識とスキル 専門的、対他者、対自己の知識を身につける	講義・GW	Reference book p29～32、配布資料に目を通し内容を確認しておく
4	対他者力を磨こう① コミュニケーション、リーダーシップ、プレゼンテーション、ファシリテーションの各スキルについて理解し、身につけ、対他者に対しての自身の武器を見つける。	講義・GW	Reference book p33～55、配布資料に目を通し内容を確認しておく
5	対他者力を磨こう② コミュニケーション、リーダーシップ、プレゼンテーション、ファシリテーションの各スキルについて理解したものをGW、アクティブラーニング、実践する。	講義・GW	Reference book p33～55、配布資料に目を通し内容を確認しておく
6	対自己力を磨こう① コーチ自身も学び、省察を行い、自身のコーチングスキルの向上を身につける。 またセルフマネジメント(レジエンス・アンガーマネジメント)を学ぶ。	講義・GW	Reference book p56～70、配布資料に目を通し内容を確認しておく
7	対自己力を磨こう② コーチ自身も学び、省察を行い、自身のコーチングスキルの向上を身につける。 またセルフマネジメント(レジエンス・アンガーマネジメント)をアクティブラーニング、実践する。	講義・GW	Reference book p56～70、配布資料に目を通し内容を確認しておく
8	・暴力・ハラスメントの根絶 暴力や各ハラスメントの事例からどのように対処するか、防いで行くべきかをディスカッションをおこなう。 ・スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 スポーツには怪我はつきもので自己責任の部分もある。しかし、アスリート生命を断ってしまうような障害・外傷を追った際に指導者の安全配慮をかけた結果で民事・刑事の法的責任が問われる。	講義・GW	暴力・ハラスメント: Reference book p103～110、配布資料に目を通し内容を確認しておく スポーツ事故: Reference book p115～122、配布資料に目を通し内容を確認しておく
9	スポーツ仲裁 裁判外紛争解決の一つで、裁判ではなくスポーツ法に精通して専門家により迅速な対応を行う。その問題点や事案について学ぶ スポーツ倫理 スポーツ倫理が問題となった事案をそれぞれの立場から検討する。	講義・GW	Reference book p123～127、配布資料に目を通し内容を確認しておく
10	テーピング演習 基礎、種類を知り、使用法、状況によっての使い分けをする。 各筋肉の肉離れに対してのテーピングを行うようになる。	講義、演習	筋肉の起始停止、走行を確認しておく。
11	上肢の怪我、障害に対するテーピング法を知り、実施できるようにする。	講義、演習	上肢の関節・筋の解剖、運動学を復習しておく。
12	足関節の怪我、障害に対するテーピング法を知り、実施できるようにする。	講義、演習	足関節の関節構造・筋の解剖、運動学を復習しておく。
13	膝関節の怪我、障害に対するテーピング法を知り、実施できるようにする。	講義、演習	膝関節の関節構造・筋の解剖、運動学を復習しておく。
14	時代をリードするコーチング 女性コーチの活躍や性的役割葛藤について学ぶ	講義・GW	Reference book p128～129、配布資料に目を通し内容を確認しておく

■受講上の注意**■成績評価の方法**

筆記試験の総合評価により60点以上を合格, 59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など**■備考****■実務経験**

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員と実習指導者による授業である。

パラスポーツ演習

講師: 酒匂 久光

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 選択

■科目目標

地域のパラスポーツ振興のリーダーとして、指導現場で十分な知識や経験に基づいた指導をする指導員。地域のスポーツ大会や行事において中心となり、地域の障がい者スポーツの普及・振興を進める役割を担います。また、より専門的な知識を学ぶことで、パラスポーツ上級指導員やスポーツコーチを目指す。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	過去と将来の指導者としてのキャリアを考え、自身の指導者像を形成する。全国障害者スポーツ大会の概要。(パラスポーツ指導員中級No.2: パラスポーツ指導員としてのキャリア形成)	講義・GW	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
2	リスクマネジメントに関する基礎知識を学び、パラスポーツ指導現場における事例を学ぶ。(パラスポーツ指導員中級No.6: リスクマネジメント)	講義・GW	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
3	障がい受容について受傷からの心理的プロセスを学ぶ。さらに障がい者の体験談を通して、スポーツの心理的効用と心理的支援の方法について学ぶ。(パラスポーツ指導員中級No.7: スポーツ心理学 I)	講義・GW	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
4	障がい特性に応じた支援・指導法を理解し、スポーツ指導場面における留意点について学ぶ。(パラスポーツ指導員中級No.9: 障がい者のスポーツ指導における留意点)	講義・GW	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
5	障がい特性に応じた支援・指導法を理解し、スポーツ指導場面における留意点について学ぶ。(パラスポーツ指導員中級No.9: 障がい者のスポーツ指導における留意点)	講義・実技	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
6	障がい特性に応じた支援・指導法を理解し、スポーツ指導場面における留意点について学ぶ。(パラスポーツ指導員中級No.9: 障がい者のスポーツ指導における留意点)	講義・GW	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
7	全国障害者スポーツ大会の成り立ちや歴史の変遷を学ぶ。(パラスポーツ指導員中級No.11: 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義)	講義・GW	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
8	全国障害者スポーツ大会で実施されている競技・種目の概要を理解し、適用されている障害区分を学ぶ。(パラスポーツ指導員中級No.12: 全国障害者スポーツ大会の実施競技と障害区分)	講義・GW	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
9	全国障害者スポーツ大会実施競技の実技を通して、その競技規則や指導法などを学ぶ。陸上競技(パラスポーツ指導員中級No.10: 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則)	講義・実技	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
10	全国障害者スポーツ大会実施競技の実技を通して、その競技規則や指導法などを学ぶ。陸上競技・卓球(STT含)(パラスポーツ指導員中級No.10: 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則)	講義・実技	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
11	全国障害者スポーツ大会実施競技の実技を通して、その競技規則や指導法などを学ぶ。卓球(STT含)(パラスポーツ指導員中級No.10: 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則)	講義・実技	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
12	全国障害者スポーツ大会実施競技の実技を通して、その競技規則や指導法などを学ぶ。フライングディスク(パラスポーツ指導員中級No.10: 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則)	講義・実技	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
13	全国障害者スポーツ大会実施競技の実技を通して、その競技規則や指導法などを学ぶ。車いすバスケットボール(パラスポーツ指導員中級No.10: 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則)	講義・実技	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
14	全国障害者スポーツ大会実施競技の実技を通して、その競技規則や指導法などを学ぶ。ボッチャ(パラスポーツ指導員中級No.10: 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則)	講義・実技	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく
15	最重度の障がい者(重症心身障がい児)のスポーツを理解し、様々な創意工夫の実例について学ぶ。(パラスポーツ指導員中級No.16: 最重度の障がい者のスポーツの実例(重症心身障がい児・者を含む))	講義・実技	テキスト・講義資料に目を通し内容を確認しておく

■受講上の注意

事前学習を行ってきてください。

■成績評価の方法

全講義終了後レポート課題を提出し、その内容が妥当であるか判断する。60点以上を合格とし、59点以下は不合格とする。

■テキスト参考書など

- ・改訂版 障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級） — 2020年改訂カリキュラム対応
- ・全国障害者スポーツ大会競技規則集（解説付）

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

子ども発達支援演習

講師: 木下 恵美、山下 喬之

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 選択

■科目目標

◎GIO

1)発達に関する悩みや困りごとを抱える子ども達や、その家族に対する支援を提供する理学療法士に必要とされる知識と技術を修得する事を目標とする。

2)学校において実施される授業と、保育園・幼稚園・医療機関・児童発達支援関連施設等において実施される演習を合わせて、子どもに対して抱くさまざまな概念を明確化する事を目標とする。

○SBOs

1)子供たちに対して抱く感情・感覚(かわいさ・たのしさ・難しさ・不安を、フィールドワークを通し、自分なりのこたえを探り、成果物とし

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	#1. 授業概要の理解 #2. 学習課題の立案 テーマ: 子供たちに対して抱く感情・感覚(かわいさ・たのしさ・難しさ・不安)とは何かを明確化する。	講義	PC、タブレット等を持参すること。
2	#1. 演習施設の概要説明と理解 #2. 現地にて行われる演習時の行動計画の立案 テーマ: 幼稚園・保育園等の社会的役割とこども達の日常生活、正常運動発達について理解して説明できるようになる。	講義	PC、タブレット等を持参すること。 外部講師と内部教員による講義
3	幼稚園等、関連機関の現地での演習	演習	ポロシャツ、ジャージ等運動の出来る格好、内履き・外履きを持参すること。
4	幼稚園等、関連機関の現地での演習	演習	ポロシャツ、ジャージ等運動の出来る格好、内履き・外履きを持参すること。
5	幼稚園等、関連機関の現地での演習	演習	ポロシャツ、ジャージ等運動の出来る格好、内履き・外履きを持参すること。
6	幼稚園等、関連機関の現地での演習	演習	ポロシャツ、ジャージ等運動の出来る格好、内履き・外履きを持参すること。
7	学習成果まとめ	講義	PC、タブレット等を持参すること。
8	#1. 演習施設の概要説明と理解 #2. 現地にて行われる演習時の行動計画の立案 テーマ: こどもを対象としたリハビリテーションの社会的役割とその実務を理解して説明できるようになる。	講義	PC、タブレット等を持参すること。 外部講師と内部教員による講義
9	医療機関等、現地での演習	演習	白衣、実習靴等実習と同等の格好、内履き・外履きを持参すること。
10	医療機関等、現地での演習	演習	白衣、実習靴等実習と同等の格好、内履き・外履きを持参すること。
11	学習成果まとめ	講義	PC、タブレット等を持参すること。
12	#1. 演習施設の概要説明と理解 #2. 現地にて行われる演習時の行動計画の立案 テーマ: 地域における児童発達支援関連の施設における理学療法士の役割とその実務を理解して説明できるようになる。	講義	PC、タブレット等を持参すること。 外部講師と内部教員による講義
13	児童発達支援施設等、現地での演習	演習	ポロシャツ、ジャージ等運動の出来る格好、内履き・外履きを持参すること。
14	児童発達支援施設等、現地での演習	演習	ポロシャツ、ジャージ等運動の出来る格好、内履き・外履きを持参すること。
15	下記を成果物としてまとめ、レポートを完成させる。 1)幼稚園・保育園等の社会的役割と、こども達の日常生活、正常運動発達について理解して説明できるようになる。 2)こどもを対象としたリハビリテーションに携わる理学療法士の役割とその実務を理解して説明できるようになる。 3)地域における児童発達支援関連の施設における理学療法士の役割とその実務を理解して説明できるようになる。	講義	PC、タブレット等を持参すること。

■受講上の注意

演習時の自宅、施設、学校間の移動は、原則公共交通機関を利用して、自らで行う事とする(車・バイク不可)。
演習時は、現地において、引率教員が開始と終了時に点呼を実施する。

■成績評価の方法

- ・授業中に作成した成果物
- ・施設での演習中に作成した成果物

■テキスト参考書など

理学療法学テキスト「小児理学療法学」(メジカルビュー社)

■備考

選択条件:発達支援に関わる理学療法士の実務に興味があり、かつ就職を希望する学生を対象とした授業である。

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

研究法 I

講師: 横山 尚宏、上田 晃希

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

研究とは「わからないこと」を「わかるようにする」ことである。理学療法の分野ではまだわかっていないことが多いため、研究を行い、よりよい治療を提供していくことが重要である。

研究行っていくにあたって、研究におけるルールや研究に必要な知識（研究デザイン、文献検索、統計など）を習得することを目的とする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	研究の必要性、研究デザインを理解する。	講義・GW	
2	統計方法を理解する	講義・GW	統計について予習しておく
3	統計方法を理解する	講義・GW	前回の講義を復習しておく
4	統計方法を理解する	講義・GW	前回の講義を復習しておく
5	文献を検索することができる。	講義・GW	パソコン室で実施する。パソコンを持っている者は準備しておくことが望ましい。
6	検索した文献をパワーポイントにまとめる。	講義・GW	パソコン室で実施する。パソコンを持っている者は準備しておくことが望ましい。
7	検索した文献をパワーポイントにまとめる。	講義・GW	パソコン室で実施する。パソコンを持っている者は準備しておくことが望ましい。
8	作成したスライドを発表することが出来る	発表形式	発表資料の作成、質問対策など事前に準備しておくこと

■受講上の注意

提出期限を必ず守るように。

■成績評価の方法

出席状況、学習状況、レポート、試験にて総合的に評価する。60点以上を合格、未滿を不合格とする

■テキスト参考書など

中山書店「15レクチャーシリーズ リハビリテーションテキスト リハビリテーション統計学 第2版」、配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

研究法Ⅱ

講師: 横山 尚宏

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

研究法Ⅰでは、研究デザイン、統計、文献検索、文献抄読を学習した。
本講義では研究を実施するための倫理を理解し、研究を開始するために倫理審査の書類を作成する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	倫理について学ぶ	講義	配布資料を準備すること
2	研究計画書の作成方法を学ぶ	GW	パソコンを使用する。パソコンを持っている生徒は各自準備する。
3	研究計画書の作成方法を学ぶ	GW	パソコンを使用する。パソコンを持っている生徒は各自準備する。
4	文献の読み方、書き方を学ぶ。	GW	パソコンを使用する。パソコンを持っている生徒は各自準備する。
5	研究計画書の作成	GW	パソコンを使用する。パソコンを持っている生徒は各自準備する。
6	倫理審査について学ぶ	GW	パソコンを使用する。パソコンを持っている生徒は各自準備する。
7	倫理審査の書類を作成する。	GW	パソコンを使用する。パソコンを持っている生徒は各自準備する。
8	倫理審査の書類を作成する。	GW	パソコンを使用する。パソコンを持っている生徒は各自準備する。

■受講上の注意

研究や倫理を中心に学ぶため、パソコンやタブレットなどの準備を依頼する。
倫理審査委員会で承認をいただかないと研究は開始できないことを理解しておく。

■成績評価の方法

出席状況、学習状況、提出物の状況を総合的に評価する。60点以上を合格、未満を不合格とする

■テキスト参考書など

配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

研究法Ⅲ

講師:専任教員全員

単位数:2単位

時間数:60時間

授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

研究法Ⅰで、研究方法や論文検索を学び、研究法Ⅱでは研究計画書・倫理審査書類の作成や論文の書き方、作成を学んだ。本講義では、実際に自分たちのテーマに沿って研究を進めていく。得られたデータを統計処理し、論文を作成、発表することで臨床に求められる人材を育成することを目的とする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1～10時間 倫理審査委員会にて承認を得た研究で、実際にデータを収集する。 11～30時間 得られたデータを整理し、研究に使用される統計を学ぶ。また、データに適した統計を抜粋し、実際に統計処理を行う。 31～50時間 得られた統計データを基に論文を作成する。 51～60時間 完成した論文を発表する。	講義、GW	1～10時間 動きやすい服装、事前に使用する機器の準備しておく 11～30時間 得られたデータを準備、統計の基礎知識を復習しておく 31～50時間 論文作成を担当教員と共同で進めていく。 51～60時間 発表形式を復習し、積極的な質問を
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

■受講上の注意

グループにて進行するため、関わり方に個人差が出ないように留意する

■成績評価の方法

出席、学習状況、論文提出、論文発表により総合的に評価する。60点以上を合格、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

プログレッション学習 I		講師:専任教員全員
単位数:1単位	時間数:30時間	授業学年:1学年
必修選択:必修		

■科目目標

国家試験問題において、学力差が表れてくるのが調べ学習の優劣であると考え。そこで、1年次から国家試験問題の解説を作成していくうえで、調べ学習の理論や方法を獲得してもらいたい

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1～15コマ 国家試験問題の解き方を解説 国家試験問題を解き、選択肢の調べ学習を行った後、他者への説明を行うことで理解を深める。	講義 グループワーク	調べ学習のため、必要な資料を持参してくること
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

■受講上の注意

■成績評価の方法

提出点が50点、調べた問題から出題する試験が50点の合計100点のうち、60点以上を合格、60点未満を不合格とする。

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

プログレッション学習Ⅱ

講師:専任教員全員

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

国家試験対策において、知識の定着のためには知識を関連付けるための調べ学習の理論や方法の習得が必須であると考え。そこで、基礎となる3科目(解剖学、生理学、運動学)に加え、2年次に行う科目の内容の国家試験問題の解説を作成していくうえで、調べ学習の理論や方法を習得してもらいたい。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1～15コマ 国家試験問題の解き方を解説 国家試験問題を解き、選択肢の調べ学習を行い、他者への説明を行うことで理解を深める。	講義、グループワーク	調べ学習のため、必要な資料を持参してくること
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

■受講上の注意

■成績評価の方法

提出点と、解説作成した問題からの出題による試験の合計100点とする。
60点以上を合格、60点未満を不合格とする。

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

プログレッション学習Ⅲ		講師:専任教員全員
単位数:1単位	時間数:30時間	授業学年:3学年
必修選択:必修		

■科目目標

一般目標

- ・次年度、4年に向けた国家試験対策学習の基礎力を養い、年度末の共通科目模試で合格点を獲得する。

行動目標

- ・解剖学の対策学習方法を獲得する
- ・生理学の対策学習方法を獲得する
- ・運動学の対策学習方法を獲得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1～15コマ 国家試験問題の解き方を解説 国家試験問題を解く 誤っている選択肢の調べ学習	講義、グループワーク	調べ学習のため、必要な資料を持参してくること
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

■受講上の注意

■成績評価の方法

出席状況、受講態度、提出物により、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

プログレッション学習Ⅳ

講師:専任教員全員

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

一般目標

・次年度、共通:臨床医学の問題を回答、自己学習で国家試験対策が出来る習慣と作る。

行動目標

- ・運動器疾患の対策学習方法を獲得する
- ・神経系疾患の対策学習方法を獲得する
- ・内部障害系の対策学習方法を獲得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1～15コマ 国家試験問題の解き方を解説 国家試験問題を解く 誤っている選択肢の調べ学習	講義、グループワーク	調べ学習のため、必要な資料を持参 してくること
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

■受講上の注意

■成績評価の方法

出席状況、受講態度、提出物により、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

プログレッション学習Ⅴ		講師:専任教員全員
単位数:1単位	時間数:30時間	授業学年:4学年
必修選択:必修		

■科目目標

解剖学、生理学、運動学など基礎分野から見直し、理学療法の対象となる疾患への評価や治療法を総合的に学習し、根拠をもった臨床能力を修得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	解剖学、生理学、運動学、精神医学	講義	配布資料の予習をしてくる
2	解剖学、生理学、運動学、精神医学	講義	配布資料の予習を求める
3	解剖学、生理学、運動学、精神医学	講義	配布資料の予習を求める
4	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の病態生理	講義	配布資料の予習を求める
5	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の病態生理	講義	配布資料の予習を求める
6	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の病態生理	講義	配布資料の予習を求める
7	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価	講義	配布資料の予習を求める
8	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価	講義	配布資料の予習を求める
9	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価	講義	配布資料の予習を求める
10	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法アプローチ	講義	配布資料の予習を求める
11	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法アプローチ	講義	配布資料の予習を求める
12	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法アプローチ	講義	配布資料の予習を求める
13	リスク管理	講義	配布資料の予習を求める
14	リスク管理	講義	配布資料の予習を求める
15	試験	講義	

■受講上の注意

国家試験にも関連する重要な科目である。集中して授業に臨むこと。

■成績評価の方法

試験にて60点以上を合格とし、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

必要に応じた科目の教科書、適宜プリント配布

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

プログレッション学習Ⅵ

講師:専任教員全員

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

解剖学、生理学、運動学など基礎分野から見直し、理学療法の対象となる疾患への評価や治療法を総合的に学習し、根拠をもった臨床能力を修得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	解剖学、生理学、運動学、精神医学		
2	解剖学、生理学、運動学、精神医学		
3	解剖学、生理学、運動学、精神医学		
4	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の病態生理		
5	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の病態生理		
6	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の病態生理		
7	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価		
8	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価		
9	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価		
10	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法アプローチ		
11	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法アプローチ		
12	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法アプローチ		
13	リスク管理		
14	リスク管理		
15	本試験		

■受講上の注意

国家試験にも関連する重要な科目である。集中して授業に臨むこと。

■成績評価の方法

試験にて60点以上を合格とし、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

テキスト・参考書など必要に応じた科目の教科書、適宜プリント配布

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

プロGREッション学習Ⅶ

講師:専任教員全員

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

国家試験全員合格を目標に、3科目(解剖学・生理学・運動学)の知識再取得を図り、3科目以外の共通問題や、専門分野の検査や評価、治療などを国家試験問題を通して、理解できるようになる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	解剖学、生理学、運動学		
2	解剖学、生理学、運動学		
3	臨床医学、病理学、リハ医学、心理学などの共通科目		
4	臨床医学、病理学、リハ医学、心理学などの共通科目		
5	臨床医学、病理学、リハ医学、心理学などの共通科目		
6	臨床医学、病理学、リハ医学、心理学などの共通科目		
7	臨床医学、病理学、リハ医学、心理学などの共通科目		
8	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価や治療		
9	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価や治療		
10	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価や治療		
11	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価や治療		
12	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価や治療		
13	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価や治療		
14	脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価や治療		
15	本試験		

■受講上の注意

国家試験にも関連する重要な科目である。集中して授業に臨むこと。

■成績評価の方法

試験にて60点以上を合格とし、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

テキスト・参考書など必要に応じた科目の教科書、適宜プリント配布

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。